オーナーズマニュアル

SUPERBIKE

899 PANIGALE

DUCATI

オーナーズマニュアル

日本人

SUPERBIKE

899 PANIGALE

本取扱説明書はモーターサイクルを構成する一部であり、使用期間中はモーターサイクルと併せて保管してください。
所有者が変更される場合は、本取扱説明書も併せて新しい所有者に譲渡してください。
本取扱説明書は大切に保管してください。損傷や紛失した場合は、速やかに Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターに新しい取扱説明書をご請求ください。

ドゥカティモーターサイクルの品質と安全性は、デザイン、装備、アクセサリーの開発に伴い絶えず進化しています。本取扱説明書には印刷の時点での最新情報が記載されていますが、Ducati モーターホールディング社は本書内容を予告なしにいつでも変更する権利を有します。そのため、お客様がお持ちのモーターサイクルは本書に記載する参照図と異なる場合があります。

本マニュアルの全部または一部を複製、配布することは禁じられています。すべての権利は Ducati モーターホールディング社に帰属しており、理由を明記したうえで（書面による）許可の申請をしなければなりません。

楽しいライディングを！

目次

はじめに　7
安全性ガイドライン　7
本取扱説明書で使用されている警告シンボルマーク　8
用途　9
ライダーの義務　10
ドライバーのトレーニング　12
服装　12
安全のための"ベストプラクティス"　13
燃料の補給　15
最大積載時の運転　16
危険物 - 注意事項　17
車両識別番号　19
エンジン識別番号　20

インストルメントパネル(ダッシュボード)　22
インストルメントパネル　22
本マニュアルで使用されている頭字語及び略語　26
技術用語　26
機能ボタン　29
パラメータ設定/表示　30
メイン機能　38
ライディングモード (Riding Mode)　44
DTC　48
EBC　55
DQS　59
ABS　60
エンジンクーラント温度　62
メニュー1の機能 :　65
メニュー1: オドメーター (TOT)　66
メニュー1: トリップメーター1 (TRIP A)　68
メニュー1: トリップメーター2 (TRIP B)　69
メニュー1: 燃料リザーブトリップメーター (TRIP FUEL)　70
メニュー1: トリップタイム　71
メニュー 1: 時計　72
メニュー1: ラップタイム (LAP time)　73
メニュー2の機能　77

メニュー2: 外気温　78
メニュー2: 瞬間燃費　79
メニュー2: 平均燃費　80
メニュー2: 平均スピード　81
サブ機能　82
メンテナンス表示 (SERVICE)　84
OIL SERVICEゼロ表示　85
OIL SERVICE又はDESMO SERVICE表示　87
エラー　88
エラー表示の説明　90
設定メニュー　95
ライディングモード のパーソナライズ(Riding Mode)　97
ライディングモードのパーソナライズ：ライディングモードのパラメーターの保存　100
ライディングモードのパーソナライズ: EBCレベルの設定　102
ライディングモードのパーソナライズ: DTCレベルの設定　104
ライディングモードのパーソナライズ: DQSの起動/解除　106
ライディングモードのパーソナライズ: ABS調整　108
ライディングモードのパーソナライズ: エンジンの調整　110
ライディングモードのパーソナライズ: デフォルト設定の回復　112
エンジン回転数のデジタル表示(RPM)　114
バッテリー電圧　115
DDA　117
Pin Code　122
PIN CODEの変更　126
時計　132
バックライトの設定　136
LAP　138
単位の設定　146
その他の機能　153
ランプコントロール　160
イモビライザーシステム　165
キー　166
作業　167
キーの複製　168
PIN CODEによる車両ブロックの解除　169

運転時に必要なコマンド　173

コマンド類の配置　173
イグニッションスイッチ / ステアリングロック　174
左側スイッチ　175
クラッチコントロールレバー　176

右側スイッチ 177
スロットルグリップ 178
フロントブレーキレバー 179
リアブレーキペダル 180
ギアチェンジペダル 181
ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの配置調整 182

主要構成部品 / 装備 184
車両上の配置 184
燃料フィラープラグ 185
シートロック 186
サイドスタンド 187
ステアリングダンパー 189
フロントフォーク調整 190
リアショックアブソーバー調節 192

運転のしかた 196
慣らし運転の方法 196
走行前の点検事項 198
エンジンの始動 201
車両の発進 203
ブレーキ操作 203
ABSシステム 203
車両の停止 205
パーキング 205
燃料の補給 206
付属アクセサリー 207

主な整備作業とメンテナンス 208
装飾部品の取り外し 208
サイドフェアリング 209
エアフィルターの交換 210
クーラントレベルの点検および補充 211
ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検 213
ブレーキパッドの摩耗点検 215
バッテリーの充電 216
バッテリー充電および冬季の断熱 219
トランスミッションチェーン張力の点検 221
チェーンの潤滑 223
ハイ/ロービーム電球の交換 224
リアターンインジケーター 225
ヘッドランプの光軸調整 226
リアビューミラーの調整 228
チューブレスタイヤ 229
エンジンオイルレベル点検 232
スパークプラグの清掃と交換 234
車両の清掃 235

長期間の保管　236
重要注意事項　237

メンテナンスプログラム　238

メンテナンスプログラム：ディーラーで行うメンテナンス　238
メンテナンスプログラム：お客様が行うメンテナンス　242

テクニカルデータ　243

重量　243
寸法　244
給油　245
エンジン　246
タイミングシステム　247
性能データ　248
スパークプラグ　248
燃料供給　248
ブレーキ　248
トランスミッション　249
フレーム　250
ホイール　250
タイヤ　250
サスペンション　250
エキゾーストシステム　250
カラーバリエーション　250
エレクトリカルシステム　252

定期点検メモ　258

定期点検メモ　258

はじめに

安全性ガイドライン

この度は Ducati 製品をご購入いただきありがとうございます。お客様をドゥカティストの仲間としてお迎えできることは、私達にとって何よりの喜びです。この新しいバイクを日常的に利用されるだけではなく、ロングツーリングも楽しまれることと思います。Ducati モーターホールディング社は、そのライディングが常に快適で楽しいものであるよう願っております。

お客様のモーターサイクルは、Ducati モーターホールディング社の絶え間ない研究と開発から得られたものです。定期点検を必ず実施し、純正スペアパーツを使用することで品質を維持することが大切です。本取扱説明書には簡単なメンテナンス作業の実施方法が記載されています。より重要なメンテナンス作業は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターでご覧いただけるワークショップマニュアルに記載されております。

お客様ご自身の安全のため、また製品の安全性、信頼性を保証するために、メンテナンスプログラムのすべての作業を Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施していただくことを強くお薦めします ページ 238 参照。

Ducati の熟練したスタッフが、どのような整備作業にも対応できる専用器具と適切な工具を備え、最適な互換性、円滑な作動、ロングライフを保証する Ducati 純正パーツのみを使用し、最善のサービスを提供いたします。

すべての Ducati モーターサイクルには保証書が付属しています。車両を競技やそれに類する目的に使用する場合は保証の対象外となります。車両や部品の一部でも交換したり、改造したり、変更した場合、保証は適用されません。メンテナンスが正しく行われなかったり不十分であった場合、また純正ではないスペアパーツや Ducati が承認していないスペアパーツが使用されている場合、車両に損傷を招いたり、期待される性能が得られないばかりでなく、保証が適用されなくなることがあります。

お客様とその他の人の安全を守ることは非常に重要です。お客様が責任を持ってモーターサイクルを使用していただきますようお願いいたします。

モーターサイクルを初めてご使用になる前に、本取扱説明書を最初から最後までよくお読みになり、記載されているガイドラインに正しく従ってください。正しい使用方法とメンテナンスに関するすべての情報を得ることができます。車両について不明な点、

さらに詳しくお知りになりたい点がある場合は、ご購入先の正規ディーラーにお問い合わせください。

本取扱説明書で使用されている警告シンボルマーク

お客様又はその他の人に負わす可能性のある危険について、以下のような異なる形式で記載されています。

- モーターサイクルの安全性に関するラベル
- 注意シンボル、及び警告又は重要シンボルのうちの一つで表わされる安全性に関するメッセージ。

警告

この説明を遵守しなかった場合、ライダー又はその他の人が重度の負傷および死亡に至る危険性があります。

重要

車両や車両構成部品に損傷を与える可能性があります。

参考

作業上の追加注意事項。

文中の「右」、「左」の表記は乗車位置から見た位置です。

用途

モーターサイクルはアスファルト舗装された道路又は平らで滑らかな路面でのみ使用することができます。舗装されていない道路やオフロードではこのモーターサイクルを使用することができません。

警告

オフロードでの使用はコントロールを失う原因となり、車両が破損したり、けがをしたり、さらには死亡したりすることがあります。

警告

このモーターサイクルをトレーラーのけん引に使用したり、サイドカーを取り付けて使用してはいけません。コントロールを失う原因となり、事故につながる可能性があります。

このモーターサイクルにはライダーが乗り、付属キットを取り付けた場合パッセンジャーが乗ることができます。これはDucatiオフィシャルディーラーまたはサービスセンターでのみ取り付けることのできます。

警告

ライダー、パッセンジャー、荷物、アクセサリーを含めた走行時の総重量は、370kg/816 lbを越えてはいけません。

ライダーの義務

すべてのライダーは運転免許証を所持していなければなりません。

警告
無免許運転は法律違反で、法律により訴追されます。モーターサイクルを使用するときには免許証を携帯していることを確認してください。未経験者および有効な免許証を持っていないライダーに使用を認めないでください。

飲酒後や麻薬の使用後には運転しないでください。

警告
飲酒運転や麻薬の使用後の運転は法律違反で、法律により訴追されます。

薬の副作用に関する情報をかかりつけの医師から説明を受けていない場合は、運転前の薬の服用は避けてください。

警告
薬によっては眠気を催したり、運転者の反射神経やモーターサイクルの制御能力を減少させることがあり、事故を起こす危険があります。

保険の加入を義務付けている国があります。

警告
自身の国の法律を確認してください。保険に加入し、モーターサイクルのその他の書類と共に保険証書を大切に保管してください。

ドライバー及び必要に応じてパッセンジャーの安全を守るため、規格に適合したヘルメットの着用を法律で義務付けている国があります。

警告
自身の国の法律を確認してください。ヘルメット着用せずに運転すると処罰されることがあります。

警告
ヘルメットを着用しないと、事故の際、重傷や死に至る危険が高まります。

警告
ヘルメットが安全性の規格を満たしており、視界がよく、頭部にちょうどフィットし、自身の国の規格認証ラベルが貼られていることを確認してください。交通関連法規は国によって異なります。モーターサイクルを運転する前に自身の国の現行の法律を確認し、常にそれに従ってください。

ドライバーのトレーニング

多くの事故は経験不足のために起こります。運転、操作、ブレーキは他の車両とは違う方法で行わなければなりません。

警告

ライダーの経験不足や車両の不適切な使用は、コントロールを失い、死や重大な破損の原因になる可能性があります。

服装

モーターサイクル使用時の服装は安全性の面で非常に重要です。モーターサイクルは衝撃に対して車のように人を保護することができません。

適切な服装とは、ヘルメット、目を保護するゴーグル、手袋、ブーツ、長袖ジャケット、長ズボンです。

- ヘルメットは ページ 10 に記載されている要件を満たしていなければなりません。バイザーの付いていないモデルのヘルメットを使用する場合には、適切なメガネを使用してください。
- 手袋は革製又は摩耗に耐える素材のもので、5本指のものでなければなりません。
- 運転用ブーツ又は靴は、滑り止めソール及び足首のプロテクションが付いていなければなりません。
- ジャケット及びズボン、又は防護スーツは、革製又は摩耗に耐える素材のもので、非常に目立つ色でなければなりません。

重要

いずれにせよ、車両にひっかかる可能性のあるひらひらした服装やアクセサリーの使用は避けてください。

重要

安全のため、季節を問わずこのような服を着用しなければなりません。

重要

パッセンジャーも安全のため、適切な服を着用してください。

安全のための”ベストプラクティス”

使用前、使用中、使用後、人の安全性の確保に非常に重要な簡単な作業及びモーターサイクルの有効なメンテナンスを忘れずに行ってください。

重要

慣らし運転期間中は、本取扱説明書の”使用方法”の章の記載を遵守してください。
順守されなかった結果、エンジンの損傷、および寿命の短縮などについて、Ducatiモーターホールディング社はいかなる責任も負いません。

警告

運転中に使用する装置について熟知していない場合は運転しないでください。

起動前には本取扱説明書に記載されている点検を行ってください（ページ 203参照）。

警告

点検を行わないと、車両が破損したり、ライダー又はパッセンジャー、またはその両方に重大なけがを負わせる原因になることがあります。

警告

エンジンの始動は屋外又は十分な換気がされている場所で行い、閉ざされた場所では絶対にエンジンを始動させないでください。
排気ガスは有毒ですので、短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。
走行中はライダー、パッセンジャーと共に適切な姿勢を保ちます。

重要

ライダーは常にハンドルバーを握っていなければなりません。

重要

ライダー、パッセンジャー共に、走行中は足をフットレストに乗せておいて下さい。

重要

パッセンジャーは常にパッセンジャーシートにあるベルトを両手で握っていなければなりません。

重要
交差点や私有地の出口に近い場所、駐車場、高速道路への進入路等を走行する際は充分に注意して下さい。

重要
良好な視界を保ち、前方車両の"死角"に入らないよう走行して下さい。

重要
車線を変更する時や曲がる時には、常に適切にターンインジケーターを使用し、早めに合図を出して下さい。

重要
車両は人や物がぶつからないような場所にサイドスタンドを使用して停車して下さい。車両が倒れる可能性があるので平坦でないところや柔らかい地面には絶対に停車しないで下さい。

重要
タイヤを定期的に点検します。特に側面に傷やヒビがないか、でっぱり、広範囲のシミ、内部の損傷を表す箇所がないかを注意深く目視点検して下さい。損傷が著しい場合はタイヤを交換して下さい。トレッドに入り込んだ石や異物は取り除いて下さい。

警告
エンジン、エキゾーストパイプ、サイレンサーは、エンジン停止後も長時間高温を帯びています。エキゾーストシステムボディには手を触れないよう充分注意し、車両を木材、木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにして下さい。

警告
モーターサイクルを目の届かない場所に置く場合には、常にイグニッションキーを抜き取り、車両の使用に適していない人の手に触れられないように保管してください。

燃料の補給

燃料の補給は屋外で、エンジンが停止している状態で行います。
給油時には絶対に喫煙せず、火気を近付けないでください。
エンジン及びエキゾーストチューブに燃料がかからないように注意してください。
給油中、燃料タンクを完全に満タンにしないでください。燃料レベルは燃料タンクの給油口より低くなければなりません。
給油中、燃料の蒸気をできるだけ吸いこまないようにし、目、皮膚、服に触れないようにしてください。

警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料（E10）のみ使用することができます。
エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

警告

燃料の蒸気を長時間吸い込み気分が悪くなった場合には、屋外にとどまり、医師に相談してください。目に入った場合は大量の水で洗い流し、皮膚に触れた場合は速やかに石鹸水で洗ってください。

警告

燃料は非常に引火しやすいので、過って衣服に付着した場合には着替えてください。

最大積載時の運転

このバイクは最大積載時でも長距離を安全に走行できるように設計されています。
車両の重量配分は、安全基準を維持するため、また悪路走行や急な進路変更時のトラブルを避けるためにとても重要です。

警告
最大許容重量を超えないようにしてください。また以下に記載されている車両への積載に関する注意事項をよくお読みください。

車両への積載に関する注意

重要
積み荷は車両の中心に近く、できる限り低い位置に配置してください。

重要
車両が不安定になりますので、ステアリングヘッドやフロントマッドガード部に体積や重量のかさむものを固定しないでください。

重要
バッグなどの荷物は車体にしっかり固定してください。確実に固定されていないと、運転が不安定になる危険があります。

重要
車両の可動部分の妨げになる恐れがありますので、フレームのすき間に絶対に物を挟まないでください。

警告
タイヤの空気圧が適正であり、コンディションが良好であることを確認してください。

ページ 229 の"タイヤ"の段落を参照してください。

危険物 – 注意事項

使用済みエンジンオイル

警告

使用済みエンジンオイルは長期間にわたり繰り返し表皮に触れると、上皮がんの原因になることがあります。日常的に使用済みエンジンオイルを取り扱う場合には、使用後速やかに手を水と石鹸で入念に洗ってください。子供の手の届かない場所に保管してください。

ブレーキダスト

ブレーキユニットを清掃する際、圧縮空気のジェットやドライブラシは絶対に使用しないでください。

ブレーキフルード

警告

車両のプラスチック、ゴム製部品又は塗装部品にブレーキフルードがかかるとその部品の損傷の原因になることがあります。ブレーキシステムのメンテナンスを始める前に、これらの部品に清潔な布をかぶせてください。子供の手の届かない場所に保管してください。

警告

ブレーキフルードは腐食性です。誤って目や皮膚に付いた場合は、大量の流水で洗浄して下さい。

クーラント

特定の条件下ではエンジンクーラントに含まれるエチレングリコールが発火し、その炎は目に見えません。エチレングリコールが発火するとその炎は目に見えず、重大なやけどの原因になることがあります。

警告

エンジンクーラントをエキゾーストシステムやエンジン部品にかけないようにしてください。

これらの部位は高温のためクーラントを発火させる危険があり、見えない炎で焦げてしまいます。クーラント(エチレングリコール)は皮膚の炎症の原因になることがあり、飲み込むと有毒です。子供の手の届かない場所に保管してください。エンジンがまだ熱いときにはラジエーターのキャップを取り外さないでください。クーラントは圧力がかかっており、やけどの原因になることがあります。
クーリングファンは自動的に作動するので手や衣服を近付けないでください。

バッテリー

⚠ 警告

バッテリーは爆発性ガスを発生させます。火花、炎、タバコを近付けないでください。バッテリー充電を行う場所の換気が適切であることが確認してください。

車両識別番号

参考

これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

以下の欄に自身のモーターサイクルのフレーム番号を控えておくことをお勧めします。

フレーム　N.

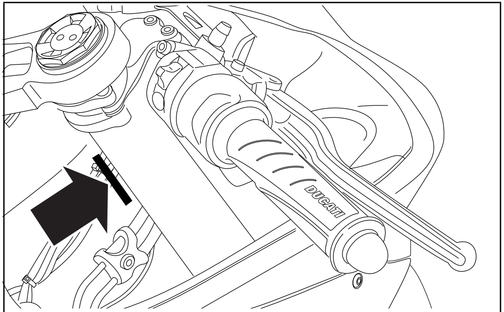


図 1

エンジン識別番号

参考
これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

エンジン識別番号は車体フロント側、スターターモーターとジェネレーターカバー付近のホリゾンタルシリンダー下側に記載されています。

以下の欄に自身のモーターサイクルのエンジン番号を控えておくことをお勧めします。

エンジン　N.

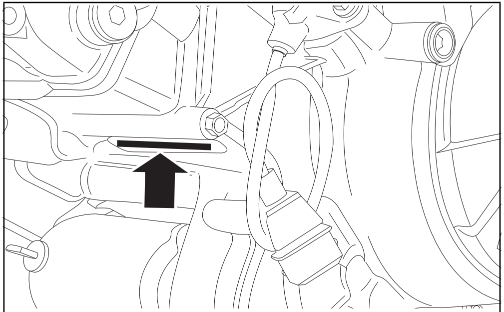


図 2

余白ページ

インストルメントパネル(ダッシュボード)

インストルメントパネル

1) ディスプレイ
2) ニュートラルランプ N(緑)
ギアポジションがニュートラルの時に点灯します。
3) ハイビーム表示灯　(青)
ハイビーム点灯時およびフラッシュ起動時に点灯します。
4) エンジンオイル圧警告灯　(赤)
エンジンオイルの圧力が低すぎる時に点灯します。"Key-ON" 時に点灯しますが、エンジンを始動してから数秒後に消灯します。エンジン高温時、場合によって数秒間点灯することがありますが、回転数が上がると消灯します。

重要
エンジンに重度の破損をもたらす恐れがありますので、エンジンオイルランプが点灯し続ける場合は、車両を使用しないでください。

5) リザーブ燃料警告灯　(琥珀色)
燃料レベルがリザーブ状態になると点灯します。この際、燃料残量は約 5リットルです。
6) ターンインジケーター表示灯　(緑)
ターンインジケーターを ON にすると点滅します。"ハザード" 機能(すべてのターンインジケーターランプが点滅)が ON の時、同時に点滅。
右または左の警告灯が "高速" で点滅する場合は、少なくともどちらかのターンインジケーターにエラー/故障があることを示しています。
7) "エンジン/車両診断- EOBD" ランプ　(琥珀色)
エンジンや車両にエラーがあると点灯しますが、場合によってはエンジン停止につながることもあります。
8) 一般警告灯(赤)
警告灯(8a)は回転数が第一起点値に達すると点灯します。
警告灯(8b)は回転数が第二起点値に達すると点灯します。

9） ABS ランプ （琥珀色）
ABS 停止もしくはエラー時に点灯します。

エンジン稼動 / 速度 5 Km/h（3 mph） 以下		
ランプ OFF	**点滅**	**点灯**
-	メニューの ″ABS″ 機能を使って ABS が解除されている	ABS は起動しているが機能していない
エンジン稼動 / 速度 5 Km/h（3 mph） 超過		
ランプ OFF	**点滅**	**点灯**
ABS 機能は起動中	- ABS システムが正しい手順で解除された場合、警告灯が ″低速″ で点滅。 - ABS システムが起動/解除の移行中である場合、警告灯が ″高速″ で点滅。	問題発生のため、ABS は解除され作動していない

10) DTC 干渉（琥珀色）

	DTC
干渉なし	ランプ OFF
点火の進角カット	ランプ ON
燃料噴射カット	ランプ ON

11) OVER REV / イモビライザー抑止 / 盗難防止（赤）

	Over rev
干渉なし	ランプ OFF
第一起点値（リミッター に到達前 N RPM）	ランプ ON
リミッター	ランプ ON 点滅

参考
エンジンコントロールユニットの各キャリブレーションで起点値とリミッター値の設定が異なる場合があります。

	イモビライザー
車両 Key-ON	ランプ OFF
車両 Key-OFF	ランプ ON 点滅
12 時間以上車両 Key-OFF	ランプ OFF

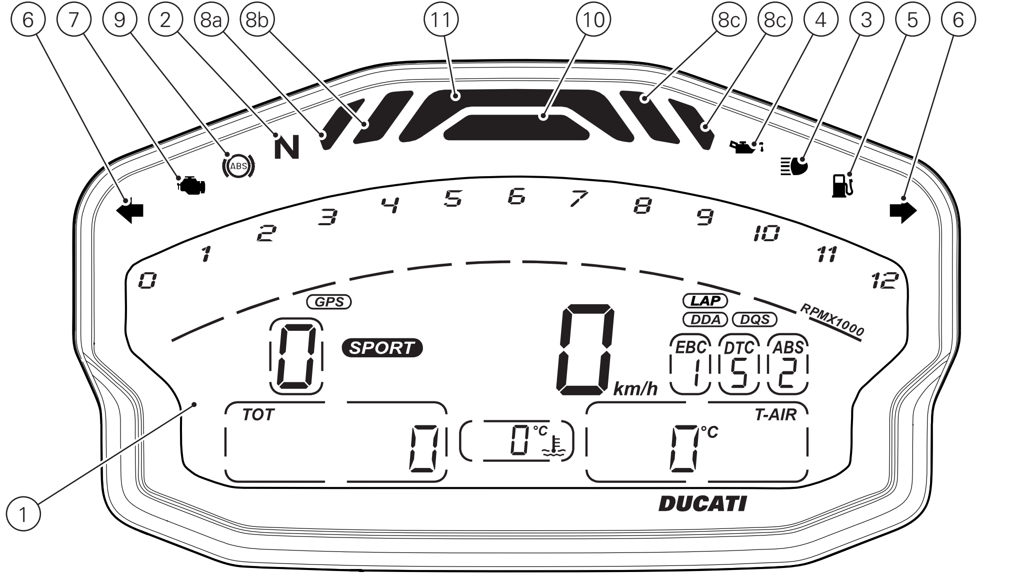

6
7
9
2
8a
8b
11
10
8c
8c
4
3
5
6
1
N
ABS
0
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
GPS
SPORT
LAP
DDA
DQS
RPMX1000
EBC
DTC
ABS
km/h
TOT
T-AIR
°C
DUCATI

図 3

本マニュアルで使用されている頭字語及び略語

ABS
アンチロックブレーキシステム
BBS
ブラックボックスシステム
CAN
コントローラーエリアネットワーク
DDA
ドゥカティデータアナライザー
DSB
インストルメントパネル
DTC
ドゥカティトラクションコントロール
DQS
ドゥカティクイックシフト
EBC
ドゥカティエンジンブレーキコントロール
ECU
エンジンコントロールユニット
E-Lock
エレクトロニックメインスイッチセット
GPS
グローバルポジショニングシステム

技術用語

エンジンブレーキコントロール (EBC)

エンジンブレーキ調整システム (EBC) はアンチホッピングクラッチと連動して機能し、急激なシフトダウンの際のリアホイールのブロックを防止します。システムがホイールのスリップを検知すると、エンジン制御装置に信号を送り、リアホイールのスピードが車両スピードと同じになるよう回転数を若干増加させます。
3 レベルのオペレーションシステムを装備し、EBC は 3 つのライディングモードに組み込まれています。

ライディングモード

899 Panigale ではライダーは 3 つの初期設定（ライディングモード）からライディングスタイルや道路状況に最も適したモードを選択することができます。ライディングモードでエンジン出力（パワーモード）、ABS、DTC、DQS、EBC の各干渉レベル、インストルメントパネルの表示を瞬時に変更することができます。
899 Panigale で使用できる設定は、RACE、SPORT、WET です。ライダーはそれぞれのライディングモードの初期設定を自由に変更することができます。

パワーモード

パワーモードは、ライダー自身のライディングスタイルと路面状況に合わせて出力レベルとパワーデリバリーを選択できるエンジンマッピングです。
899 Panigale には 3 つのパワーモードがあり、それぞれがライディングモードと連動しています。

- HIGH
- MED
- LOW

ライドバイワイヤ（RbW）

ライドバイワイヤシステムはスロットル開閉をコントロールするの電子制御装置です。スロットルグリップとスロットルボディが機械的に接続されておらず、エンジンコントロールユニットがスロットルの開度をコントロールし、出力を調整します。
ライドバイワイヤにより選択したライディングモード（パワーモード）に合わせて出力とパワーデリバリーを変更することが可能になります。また、エンジンブレーキ（EBC）のタイムリーな管理が可能になるため、リアホイールのスリップ制御（DTC）に貢献します。

ドゥカティトラクションコントロール（DTC）

ドゥカティトラクションコントロール（DTC）はリアホイールのスリップ制御を行い、8 つの干渉レベルを基に機能します。各レベルでリアホイールのスリップに対して異なる許容値が設定されています。それぞれのライディングモードにはあらかじめ設定された干渉レベルが割り当てられています。
レベル 8 はごくわずかなスリップを検知しただけでシステムが作動します。一方熟練ライダー向けのレベル 1 は許容値が高く設定されており、システムの干渉が最小限に抑えられます。

アンチロックブレーキシステム（ABS）9M

899 Panigale に搭載されている ABS 9M は、デュアルチャンネルの次世代システムです。リアホイールのリフティングを制御するインテグラルブレーキにより、制動距離を短くするだけでなく、制動時の高い安定性を確保します。
ABS 9M は主にスポーツドライブ用に設定されており、3 つの干渉レベルがそれぞれのライディングモードと連動しています。RACE モードでは、システムはフロントディスクにのみ作用し、サーキット走行においてさらに高いパフォーマンスを保証します。

ドゥカティクイックシフト（DQS）

ドゥカティクイックシフト（DQS）はレースで使用されるギアシフト電子制御システムです。スロットルオープン状態の加速中に、クラッチを使用せずギアを挿入することができます。これにより 100 分の 1

秒を争うレースでラップタイムを縮めることが可能になります。

ドゥカティデータアナライザー (DDA+)

DDA+ はドゥカティデータアナライザーの最新モデルで、GPS 信号を読み取り″バーチャルフィニッシュライン″を作成します。システムはライダーの操作なしに自動的にラップの終了を検知し、ストップウォッチ測定を中断します。GPS 信号を使用することでサーキットのマップ上に走行軌跡だけでなく、スロットル開度、スピード、エンジン回転数、ギア、エンジン温度、DTC 干渉といった車両の主要パラメーターを表示することができます。

機能ボタン

1) コントロールボタン UP ″ ▲ ″
インストルメントパネルのパラメーター設定および表示に使用するボタン ″ ▲ ″。
2) コントロールボタン DOWN ″ ▼ ″
インストルメントパネルのパラメーター設定および表示に使用するボタン ″ ▼ ″。
3) フラッシャーランプボタン
このボタンは通常フラッシャーランプ機能に使用しますが、LAP 機能でも使用します。
4) ターンインジケーター解除ボタン
このボタンは通常ターンインジケーターの解除機能に使用しますが、メニュー決定、ライディングモードの選択にも使用します。このボタンを左側に 3 秒間押すと、″ハザード″ 機能（すべてのターンインジケーターランプが点滅）が起動します。

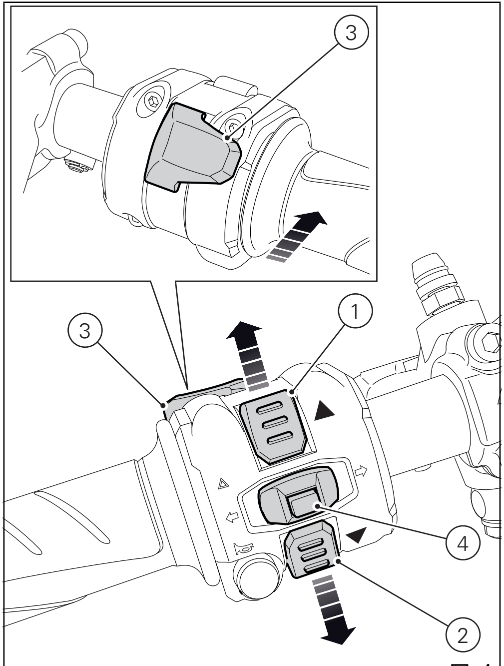


図 4

パラメータ設定/表示

インストルメントパネル起動時：

- ディスプレイのバックライトが点灯。
- 画面上のすべてのセグメントが一時的に点灯。
- エンジン回転数の棒グラフが点灯し、徐々に消灯。
- 速度最小値から速度最大値まで増加しながらすべての値を表示し、同様に速度最大値から速度最小値まで減少。
- LED 警告ランプが 3 段階で点灯。

これらはすべて ”初期点検” になります。
”初期点検” が終了すると、インストルメントパネルのメイン画面には ”スタンダードスクリーン” が表示されます。

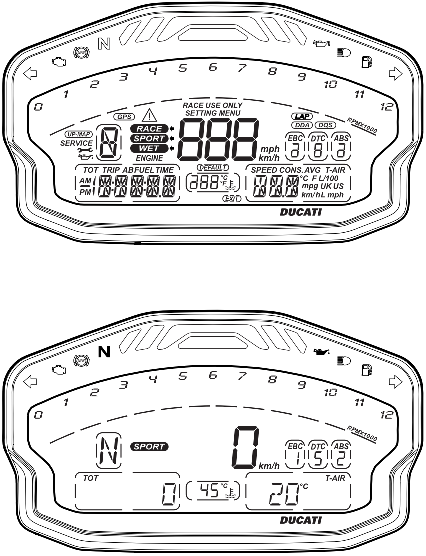


図 5

初期点検中に車両スピードが 10 km/h（実速度）を超えると、インストルメントパネルは以下の点検を中断します：

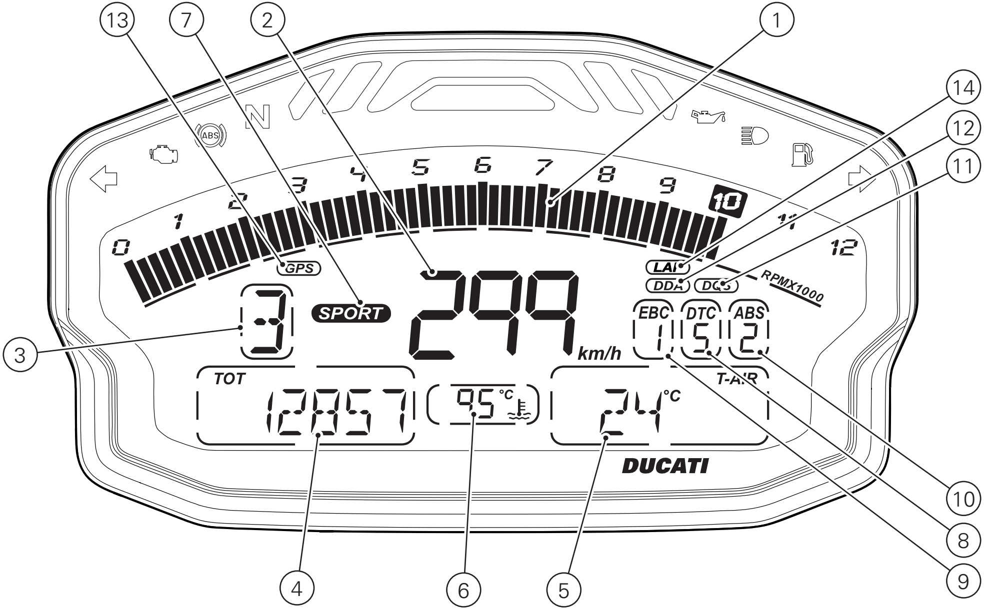
- ディスプレイの点検。更新情報をスタンダードスクリーンに表示します。
- 警告灯の点検。その時点で実際に起動しているもののみ点灯します。

参考

キーを OFF の位置に回しても車両への電源供給は直ちに停止されず、70 秒後に停止されます。

メインスクリーンには以下の情報が表示されます。

1) エンジン回転数棒グラフ
2) 車両スピード
3) ギア
4) メニュー1（オドメーター、トリップメーター1、トリップメーター2、燃料リザーブトリップメーター、トリップタイム、時計、ラップタイム – 起動時のみ）
5) メニュー2（外気温、瞬間燃費、平均燃費、平均スピード、トリップタイム）
6) エンジンクーラント温度
7) 設定ライディングモード（Riding Mode）
8) 起動している DTC レベル、または DTC 解除の表示
9) 起動している EBC レベル、または EBC 解除の表示
10) 起動している ABS レベル、または ABS 解除の表示
11) DQS 起動、または解除の表示
12) DDA 起動の表示
13) GPS 受信の表示（搭載されている場合のみ）
14) LAP 起動表示（搭載されている場合のみ）



13
7
2
1
14
12
11
3
10
8
9
4
6
5
ABS
N
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
GPS
SPORT
299
km/h
DDA
RPMX1000
EBC
DTC
ABS
TOT
12857
95 °C
T-AIR
24 °C
DUCATI

図 6

メニュー1 の情報を表示するにはボタン（1）を押します。
以下の順で情報が表示されます。

- オドメーター（TOT）
- トリップメーター A（TRIP A）
- トリップメーター B（TRIP B）
- 燃料リザーブトリップメーター（TRIP FUEL - 起動時のみ）
- トリップタイム（TRIP TIME）
- 時計
- ラップタイム（LAP 機能起動時）

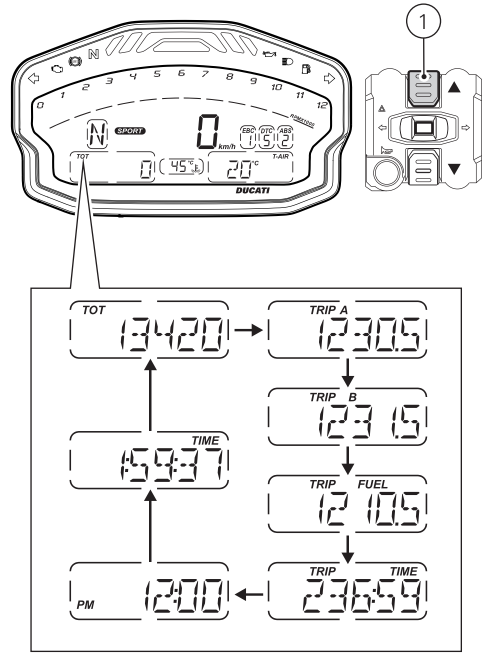


図 7

メニュー2 の情報を表示するにはボタン（2）を押します。
以下の順で情報が表示されます。

- 外気温
- 瞬間燃費（CONS.）
- 平均燃費（CONS. AVG）
- 平均スピード（SPEED AVG）

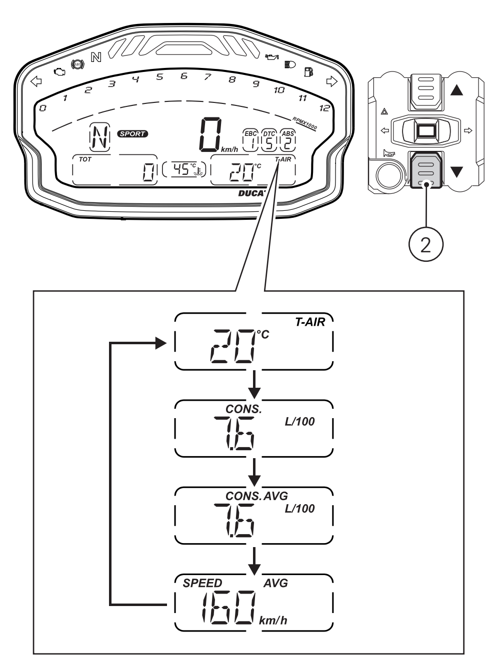


図 8

車両を起動（Key-ON）した時に表示されるメニュー1 およびメニュー2 の情報は、Key-OFF 前に表示されていた情報です。

参考

Key-ON 時、メニュー1 には初期設定パラメーター（オドメーター - TOT）が 10 秒間表示され、続いて前回の Key-OFF 時に表示されていたパラメーターが表示されます。

参考

急な Key-OFF（電源供給が突然途絶えた）の場合は、次の Key-ON 時にインストルメントパネルには次のデフォルト設定が表示されます。

- メニュー1 にはオドメーター（TOT）
- メニュー2 には外気温

スタンダードスクリーンが表示されている時に、車両の実速度が 20 km/h 以下の状態でボタン（2）を 3 秒間押すと、機能設定を行うことができる設定メニューに入ります。

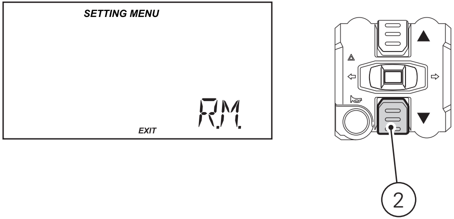


図 9

重要

設定メニューには車両の実速度が 20km/h 以下の時にのみ入ることができます。設定メニュー内にいる時に車両の実速度が 20km/h を超えると、インストルメントパネルは自動的にこのメニューを終了し、スタンダードスクリーンに戻ります。

Key-ON 時および初期点検終了時にキーが認識されない場合：

- PIN CODE 機能が有効になっていない場合、インストルメントパネルは初期点検を実施します。スタンダードスクリーンに E-LOCK エラーが表示され、エラーページ（ERR）以外の設定メニューにはアクセスできません。
- PIN CODE 機能が有効な場合は、解除コードを入力する PIN CODE 機能画面がインストルメントパネルに表示されます。

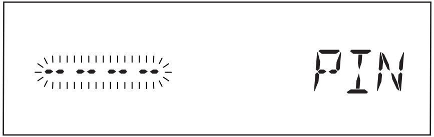


図 10

メイン機能

スタンダードスクリーンに表示される機能

- エンジン回転数表示 RPM
- 車両スピード
- ギア
- ライディングモード（Riding Mode）
- DTC
- EBC
- DQS
- ABS
- エンジンクーラント温度
- メニュー1 には以下の機能が表示されます。
  - オドメーター（TOT）
  - トリップメーター1（TRIP A）
  - トリップメーター2（TRIP B）
  - 燃料リザーブトリップメーター（TRIP FUEL）
  - トリップタイム（TRIP TIME）
  - 時計
  - ラップタイム（LAP time）- 起動時のみ
- メニュー2 には以下の機能が表示されます。
  - 外気温
  - 瞬間燃費（CONS.）
  - 平均燃費（CONS. AVG）
  - 平均スピード（SPEED AVG）

サブ機能

- DDA（搭載されている場合のみ）
- GPS（搭載されている場合のみ）
- （CLOCK）
- メンテナンス表示（SERVICE）
- エラー表示

設定メニューのうち以下の機能はユーザーによる変更が可能です。

- ライディングモードのパーソナライズ (Riding Mode)パーソナライズメニューから以下の設定が可能です。
  - EBC レベルの設定 (EBC)
  - DTC レベルの設定 (DTC)
  - DQS 起動/解除 (DQS)
  - ABS 調整 (ABS)
  - エンジン調整 (ENGINE)
  - デフォルト設定の回復 (DEFAULT)
- バッテリー電圧 - BATTERY (BAT.)
- ディスプレイの背景の設定 - BACK LIGHT (B.L.)
- LAP (表示/削除/自動設定の回復)
- DDA (起動/解除 - 表示 - 削除)
- 時計の調整 - CLOCK (CLK)
- PIN CODE 入力/変更 (PIN)
- エンジン回転数のデジタル表示 (RPM)
- 単位の設定 (スピード - 温度 - 燃費) UNT
- エラー表示 - ERRORS エラーが検出された場合のみ (ERR.)

エンジン回転数表示（RPM）

インストルメントパネルがエンジン回転数の情報を受信すると、そのデータをディスプレイに棒グラフで表示します。データはエンジン回転数に相当する左から右へ点灯する棒グラフのメモリと、千単位の反転数字（数字と枠が反転）で表示されます。
回転数が 12000 rpm に到達すると、数字は反転表示されません。

リミッター付近であることを示す赤色警告灯は次の起点値で点灯します。

1 速 10500 rpm（A）

2 速 10900 rpm（B）

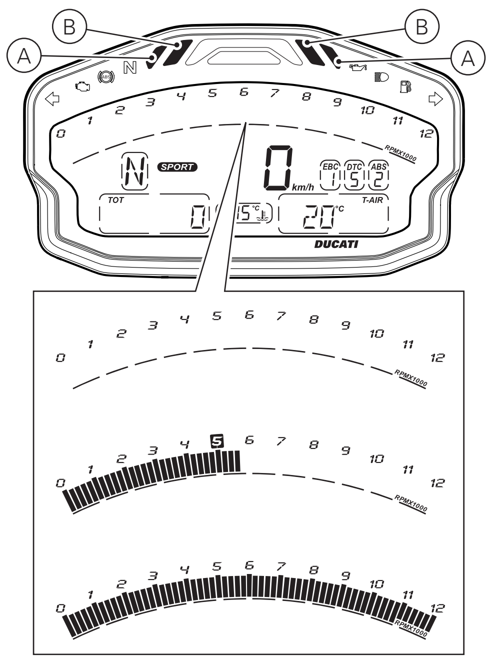


図 11

車両スピード

インストルメントパネルは車両の実速度（km/h で算出）情報を受信し、それに 5% 上乗せしたデータを設定した単位（km/h または mph）で表示します。

以下の場合には ″---″ と単位が表示されます。

- スピード = 299 km/h か 186 mph の場合、またはインストルメントパネルがスピード情報を受信しない場合（″---″ 点灯）
- リアスピードセンサーエラー（″- - -″ 点滅、EOBD ランプ（A）点灯、警告マーク（B）、SPEED エラー表示）

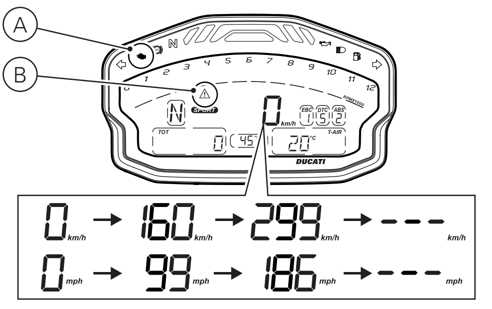


図 12

ギア

インストルメントパネルは車両のギアに関する情報を受信し、ディスプレイにその値を表示します。
ギアが挿入されている時は "1" から "6" の値が表示され、ニュートラルの時は "N" の文字が表示されます。
ギアチェンジする必要がある場合は、"C" の文字が表示されます。
以下の場合には "--" が表示されます。

- ギアの学習を行っていない（ "--" 点滅、ニュートラルランプ (A) 点滅）
- ギアセンサーエラー（ "- - -" 点滅、EOBD ランプ (B) 点灯、警告マーク (C)、GEAR エラー表示）
- インストルメントパネルがギア情報を受信していない（ "--" 点灯）

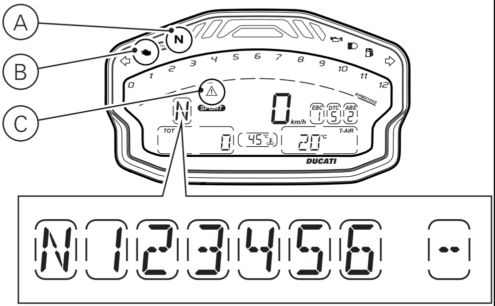


図 13

ギアセンサーの学習

車両のギア学習プロセスは、ディスプレイのガイダンスに従い行います。
インストルメントパネルにギアがメモリーされたことが表示され、次のギアに進むよう指示されます。
インストルメントパネルのギア表示位置に"C"の文字が表示され、ニュートラル"N"ランプと一緒に高速で点滅したら、ギアを変えます。

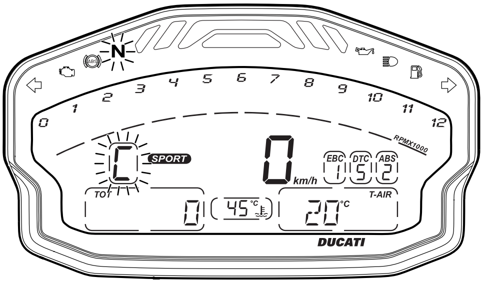


図 14

ライディングモード（Riding Mode）

インストルメントパネルから好みのライディングモードを選択することが可能です。あらかじめ設定された 3 つのライディングモード RACE、SPORT、WET から選択します。
選択、設定されたライディングモードが、インストルメントパネルディスプレイのスタンダードスクリーンに表示されます。
それぞれのライディングモードには以下のドゥカティが設定したパラメーター、またはユーザーが設定機能ページから変更したパラメーターが連動しています。

- DTC ドゥカティトラクションコントロールの干渉レベル（1、2、3、4、5、6、7、8、OFF）
- スロットル作動を変更するエンジン出力（HIGH、MED、LOW）
- ABS システムの許容値（1、2、3、OFF）
- EBC エンジンブレーキコントロールシステムの干渉レベル（1、2、3、OFF）
- DQS ギアグイックシフトの使用の有無（DQS ON または DQS OFF）

警告
車両停止時にライディングモードを変更することをお勧めします。運転中にライディングモードの変更を行なう場合は、十分にご注意ください（低速での変更をお勧めします）。

ライディングモードの選択

メニュー決定ボタン（4）を押し、ライディングモード選択メニューに入ります。 スタンダードスクリーンには 3 つのライディングモード名が表示されます。

- RACE
- SPORT
- WET

最後に保存した現在使用中のライディングモード名が矢印で強調表示されています。

警告
ボタン（4）がターンインジケーター起動の位置、右もしくは左にある場合は、ライディングモード選択メニューに入ることはできません。

保存されている値はドゥカティが設定した値、またはユーザーがパーソナライズした値です。メニュー決定ボタン（4）を押す度に、ライディングモードが順番に強調表示されます。
選択したいライディングモードが強調されたら、メニュー決定ボタン（4）を 2 秒間押し続け、希望のライディングモードを決定します。ライディングモードの変更が保存され、スタンダードスクリーンの画面に戻ります。
選択したいライディングモードが強調されてもメニュー決定ボタン（4）を 10 秒以内に押さなかった場合は、ライディングモードは変更されず、スタンダードスクリーンの画面に戻ります。

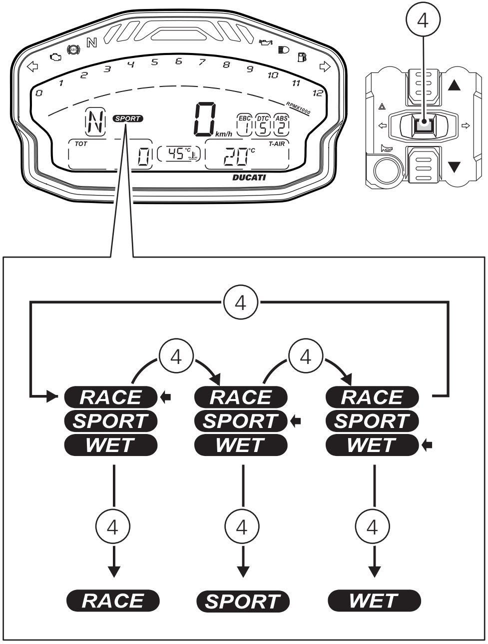


図 15

以下の場合は、ライディングモードの変更を決定してもエラーになります。

– スロットルコントロールを開き、ブレーキをかけた状態で車両が動いている場合、警告マークが点滅します。またメニュー1 とメニュー2 に "CLOSE GAS" と "DON' T BRK" のメッセージが 1 秒毎に交互に表示されます。
  5 秒以内にスロットルコントロールが閉じられずブレーキが解放されない場合、もしくは車両速度がゼロにならない場合は、ライディングモードの変更は行われず、スタンダードスクリーンの画面に戻ります。

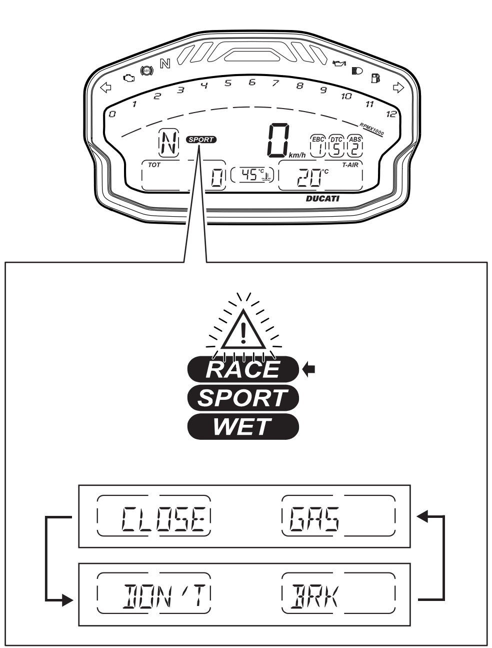


図 16

参考

ライディングモードの変更時に ABS システムの状態を ON（起動）から OFF（解除）、または OFF（解除）から ON（起動）に変更すると、選択したライディングモードを決定する時、インストルメントパネルは ABS システムの起動または解除の手続きも行います。

参考

ライディングモードの変更時に 1 つ以上エラーが存在する場合は、″CLOSE GAS″、″DON’ T BRK″の順にメッセージが表示され、続いて警告マークが点滅します。

DTC

インストルメントパネルはディスプレイに DTC 機能の状態を以下のように表示します。

- DTC が起動している場合、枠内に DTC の文字とトラクションコントロール干渉レベル 1 から 8 までの数値
- DTC が解除されている場合、枠内に DTC の文字と″– –″マーク点灯
- DTC エラー、またはブラックボックスコントロールユニットエラーの場合、枠内に DTC の文字と″– –″マーク点滅。さらに EOBD ランプと警告マークが点灯し、該当するエラーが表示されます。

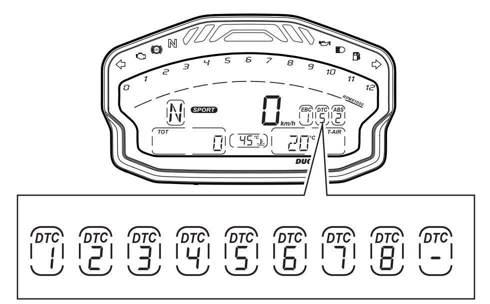


図 17

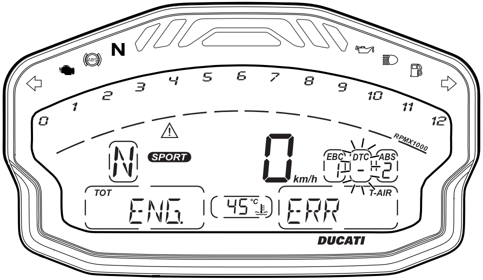


図 18

警告

DTC はライダーをアシストするシステムです。一般道走行時でもサーキット走行時でも使用できます。アシストシステムとは、より確実で安心な運転を可能することを目指したメカニズムであり、ライダーが運転に際し正しく払うべき注意義務に取って代わるものではありません。自身の過失だけでなく他者の過失も防止するため、道路交通法が定める緊急時の回避を可能にする慎重な運転を心がけてください。

この安全システムは事故予防のためのシステムです。これらの機能は車両の運転を助け、その制御を簡単で確実なものにします。車両が走行している路面状況や道路交通法など各種規制範囲を超えたり、合理的に許容されるスピードを超えたりするような運転に寄与するシステムではありません。
下記の表は、各ライディングタイプに適した DTC 干渉レベルと、ユーザーが選択可能な〞ライディングモード〟のどれにデフォルト設定されているかを示します。

DTC	ライディングモード	使用	デフォルト
1	RACE	熟練ライダー向けサーキットでの使用、Pirelli タイヤ SC2 コンパウンド用に最適化。スキッドします。	NO
2	RACE	熟練ライダー向けサーキットでの使用、OEM タイヤ（相手先ブランド名製造）用に最適化。スキッドします。	ライディングモード ″RACE″ のデフォルトレベル
3	RACE	熟練ライダー向けサーキットでの使用。スキッドします。	NO
4	RACE	サーキットでの使用（および熟練ライダー向けストリートでの使用）。	NO
5	SPORT	ENGINE 145cv LOW（最大出力 145 馬力、パワーデリバリー Smooth）の使用に適したストリートおよびサーキットでのスポーツドライブ用。	ライディングモード ″SPORT″ のデフォルトレベル
6	SPORT	ENGINE 145cv LOW（最大出力、パワーデリバリー Smooth）の使用に適したストリートおよびサーキットの乾燥した路面でのセーフティードライブ用。	NO
7	WET （RAIN）	レインタイヤ装着時のサーキットでの使用、特に Pirelli Diablo Rain タイヤ（リア190/60 ZR17）用に最適化。	NO

DTC	ライディングモード	使用	デフォルト
8	WET (HEAVY RAIN)	OEM タイヤ（相手先ブランド名製造）を装着し、濡れた路面かつ非常に滑りやすいアスファルトでの使用。ENGINE 100 と併せて使用します。	ライディングモード "WET" のデフォルトレベル

レベルの選択に際しての注意事項

警告
車両に搭載されている DTC システムのレベル 1 の調整は、車両の標準装備タイヤではなく SC2 コンパウンドタイヤ（Pirelli Diablo Supercorsa SC2）を使用して行われました。特徴の異なるタイヤでこのレベルを使用すると、システムの機能特性が異なることがあります。

警告
車両に搭載されている DTC システムのレベル 7 の調整は車両の標準装備タイヤではなくレインタイヤ（Pirelli Diablo Rain：リア 190/60 ZR17）を使用して行われました。特徴の異なるタイヤでこのレベルを使用すると、システムの機能特性が異なることがあります。

警告
車両に搭載されている DTC システムのレベル 2-3-4-5-6-8 の調整は、車両の標準装備タイヤ（Pirelli Diablo Rosso Corsa：フロント 120/70ZR17、リア 180/60ZR17）を使用して行われました。 標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能特性が異なることがあります。

標準装備のタイヤとモデルやメーカーは異なるものの、サイズクラスが同じ（リア ＝ 180/60ZR17、フロント ＝ 120/70ZR17）など違いが僅かなタイヤを使用する場合、システムの機能を最適化するには、選択可能なレベルからより適切なレベルを選択することでカバーできるでしょう。
サイズクラスの異なるタイヤやサイズが大きく異なるタイヤを使用する場合、システム機能が影響を受けるため設定可能な 8 レベルのどれも納得のいくものでなくなる可能性があります。この場合、システムを解除する事をお勧めします。
レベル 8 を選択すると、DTCシステムはリアタイヤのわずかなスピンにも対応します。レベル 8 からレベル 1 の順に DTC システムの干渉レベルが小さくなります。 レベル 1、2、3 ではリアタイヤをスピンやスキッドさせることができます。これらのレベルはサーキットで熟練ライダーのみが使用すること

が推奨されます。特にレベル 1 は SC2 コンパウンドタイヤを使用する場合のみに最適に機能するよう考慮されたものです。
主に以下のパラメーターを考慮して正しいレベルを選択します。

- タイヤ/アスファルトのグリップ（タイヤタイプ、磨耗状態、アスファルトの種類、気候など）
- レイアウト/行程（類似カーブのみ、またはカーブが全く異なる）
- ライディングスタイル（より ″スムーズ″ に、またはより ″シャープ″ に）

グリップ状況とレベルの関係：正しいレベルの選択はレイアウト/行程中のグリップ状況に大きく左右されます（後述のサーキットおよび一般道での使用時のアドバイスを参照）。
レイアウトタイプとレベルの関係：レイアウト/行程に同じスピードで走行できるカーブがいくつもある場合、それぞれのカーブで満足できる干渉レベルを簡単に見つけることができるでしょう。一方様々なカーブがレイアウト/行程にある場合は、妥当な DTC 干渉レベルが必要になります。
ライディングスタイルとレベルの関係：カーブ出口で早めに車体を起こし ″シャープ″ に操縦する場合よりも、バイクを倒して ″スムーズ″ に操縦する場合に DTC はより介入を行う傾向があります。

サーキットでの使用時のアドバイス

システムの作動特性を理解するため、タイヤを温める間の数周はレベル 6 に設定して走行することをお勧めします。その後、レベルを 5、4、と変えながら最適な DTC レベルに達するまで調整します（タイヤを温めるため、ひとつのレベルごとに数周します）。
過度な介入が起こる 1 つか 2 つの緩いカーブを除けば納得のいくレベルである場合、直ぐに介入レベルの変更を考える前に、緩いカーブ出口で早めに車体を起こすようにし、少し ″シャープ″ に走行してみてください。

一般道での使用時のアドバイス

DTC を起動した後、レベル 6 を選択し、好みのスタイルで運転します。DTC が介入しすぎると感じる場合は、レベルを5、4、のように順番に落とし、快適なレベルに達するまで調整してください。
グリップ状況や行程の種類、ライディングスタイルを変更してもまだ設定レベルでは満足できない場合は次のレベルに変更します。この方法で最も快適なレベルに調整します（例：レベル 5 では DTC が介入しすぎると感じる場合はレベル 4 に、レベル 5

では DTC の介入が全くないと感じる場合はレベル 6
に変更します)。

EBC

インストルメントパネルはディスプレイに EBC 機能の状態を以下のように表示します。

- EBC が起動している場合、枠に囲まれた EBC の文字と干渉レベル 1 から 3 までの数値
- EBC システムが解除されている場合、枠に囲まれた EBC の文字と ″– –″ マーク点灯
- EBC システムエラー、またはコントロールユニットエラーの場合、枠に囲まれた EBC の文字と ″– –″ マーク点滅。さらに EOBD ランプと警告マークが点灯し、該当するエラーが表示されます。

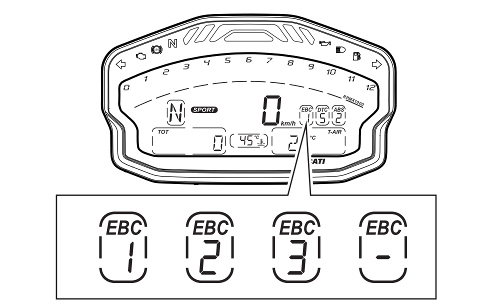


図 19

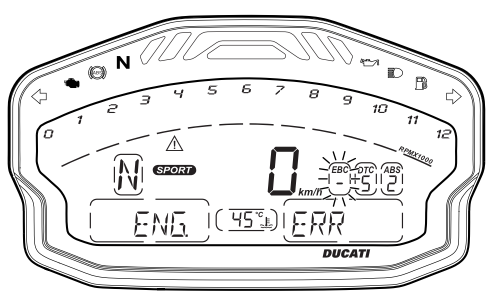


図 20

EBC は走行中アクセルが完全に閉じた時に掛かるエンジンブレーキを制御するシステムです（ブレーキを掛けているかいないかに関わらず、シフトダウン時やギアは変えずにアクセルだけを戻した時）。このシステムは独立してスロットルを調整し、走行中にホイールからエンジンへのバックトルクを一定に保ちます。
システムは、エンジンブレーキ最小（レベル 3）からエンジンブレーキ最大（レベル 1）までの 3 つのレベルから設定が可能です。
EBC は解除が可能です（レベル OFF）。この設定ではバックトルクの調整は一切行われません。

警告

EBC はライダーをアシストするシステムです。一般道走行時でもサーキット走行時でも使用できます。アシストシステムとは、より確実で安心な運転を可能にすることを目指したメカニズムであり、ライダーが運転に際し正しく払うべき注意義務に取って代わるものではありません。自身の過失だけでなく他者の過失も防止するため、道路交通法が定める緊急時の回避を可能にする慎重な運転を心がけてください。

下記の表は、各ライディングタイプに適した EBC レベルと、ユーザーが選択可能な”ライディングモード”のどれにデフォルト設定されているかを示します。

EBC	特徴	デフォルト
OFF	エンジンブレーキ最大	NO
1	エンジンブレーキが強い、ただし EBC OFF よりは弱い。	すべてのライディングモードでのデフォルト
2	エンジンブレーキが弱い。サーキットでの使用に限り、減速時のエンジンブレーキをあまり望まないライダー向け。	NO
3	エンジンブレーキが非常に弱い。サーキットでの使用に限り、減速時のエンジンブレーキをほとんど望まないライダー向け。	NO

レベルの選択に際しての注意事項

警告
車両に搭載されている EBC システムのレベル 1-2-3 の調整は、車両の標準装備タイヤ（Pirelli Diablo Rosso Corsa：フロント 120/70ZR17、リア 180/60ZR17）を使用して行われました。標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤ（特にリアタイヤ）を使用すると、システムの機能特性が異なることがあります。

標準装備のタイヤとモデルやメーカーは異なるものの、サイズクラスが同じ（リア = 180/60ZR17、フロント = 120/70ZR17）など違いが僅かなタイヤを使用する場合、システムの機能を最適化するには、選択可能なレベルのうち、より適切なレベルを選択することでカバーできるでしょう。
サイズクラスの異なるタイヤやサイズが大きく異なるタイヤを使用する場合、システム機能が影響を受けるため設定可能な 3 レベルのどれも納得のいくものでなくなる可能性があります。この場合、システムを解除する事をお勧めします。
レベル 3 を選択すると、EBC システムはエンジンブレーキの機能を最小限に抑えます。レベル 3 からレベル 1 の順にエンジンブレーキの強さが大きくなります。EBC OFF でエンジンブレーキは最大になります。

主に以下のパラメーターを考慮して正しいレベルを選択します。

- タイヤ/アスファルトのグリップ（タイヤタイプ、磨耗状態、アスファルトの種類、気候など）
- レイアウト/行程（類似カーブのみ、またはカーブが全く異なる）
- ライディングスタイル
- グリップ状況とレベルの関係：正しいレベルの選択はレイアウト/行程中のグリップ状況に大きく左右されます（後述のサーキットおよび一般道での使用時のアドバイスを参照）。
- レイアウトタイプとレベルの関係：同じようなブレーキングで走行できるレイアウト/行程の場合（すべて非常に激しい、またはすべて非常に緩やか）、それぞれのブレーキングで満足できる干渉レベルを簡単に見つけることができるでしょう。一方様々なブレーキングがレイアウト/行程にある場合、妥当な EBC 干渉レベルが必要になります。

DQS

インストルメントパネルはディスプレイに DQS 機能の状態を以下のように表示します。

- DQS が起動している場合、枠内に DQS の文字と情報
- DQS システムエラー、またはコントロールユニットエラーの場合、EOBD ランプと警告マークが点灯し、該当するエラーが表示されます。

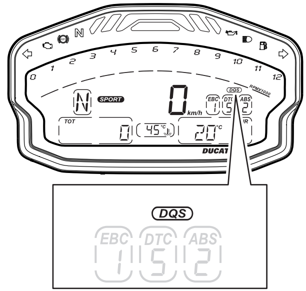


図 21

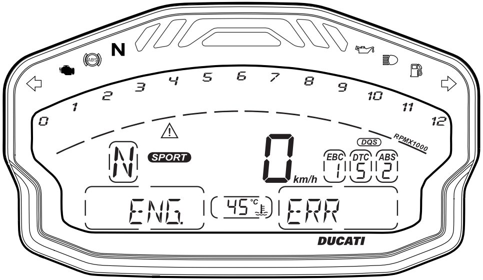


図 22

ABS

車両に ABS システムが搭載されている場合、インストルメントパネルは枠の中に ABS 機能のステータスを表示します。
インストルメントパネルの表示：

- ABS が起動している場合、枠に囲まれた ABS の文字と干渉レベル 1 から 3 までの数値
- ABS が解除されている場合、枠に囲まれた ABS の文字と ″– –″ マーク点灯
- ABS エラーの場合、枠に囲まれた ABS の文字と ″– –″ マーク点滅。さらに、EOBD ランプと警告マークが点灯し、該当するエラーが表示されます。

インストルメントパネルが情報を受信していない場合、ABS ランプが点灯します。

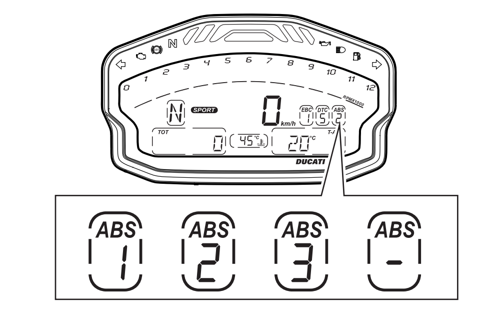


図 23

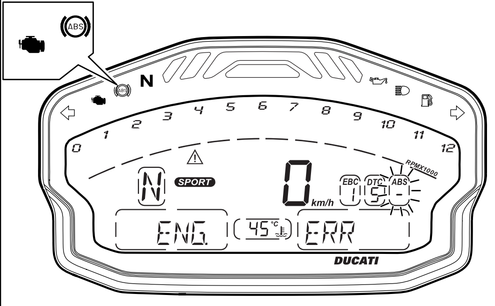


図 24

下記の表は、各ライディングタイプに適した ABS レベルと、ユーザーが選択可能な ″ライディングモード″ のどれにデフォルト設定されているかを示します。

ABS	ライディングモード	特徴	デフォルト
OFF		ABSシステム解除	NO
1	RACE	熟練ライダー向けサーキットでの使用のみ（ストリートでの使用は推奨しません）。このモードにおいて ABS は前輪にのみ作用（ロック回避）し、後輪には一切の制御を行いません。つまり、システムによるリフトアップ制御は行われません。	ライディングモード ″RACE″ のデフォルトレベル
2	ROAD	グリップの良い路面での使用。前後輪ともシステムにより制御されます。アンチリフトアップ機能は有効ですが、このキャリブレーションにおいてはブレーキ力が優先され、リフトアップはある程度許容されます。	ライディングモード ″SPORT″ のデフォルトレベル
3	WET CONDITION ROAD/ TRACK	あらゆるウェットコンディションでの使用。前後輪ともにシステムにより制御され、大部分のリフトアップが制御されます。	ライディングモード ″WET″ のデフォルトレベル

レベルの選択に際しての注意事項

警告
車両に搭載されている ABS システムのレベル 1-2-3 の調整は、車両の標準装備タイヤ(Pirelli Diablo Rosso Corsa:フロント 120/70ZR17、リア 180/60ZR17)を使用して行われました。標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤ(特にリアタイヤ)を使用すると、システムの機能特性に影響が異なることがあります。

標準装備のタイヤとモデルやメーカーは異なるものの、サイズクラスが同じ(リア = 180/60ZR17、フロント = 120/70ZR17)など違いが僅かなタイヤを使用する場合、システムの機能を最適化するには、選択可能なレベルのうち、より適切なレベルを選択することでカバーできるでしょう。
サイズクラスの異なるタイヤやサイズが大きく異なるタイヤを使用する場合、システム機能が影響を受けるため設定可能な 3 レベルのどれも納得のいくものでなくなる可能性があります。この場合、システムを解除する事をお勧めします。
レベル 3 を選択すると、ABS システムは非常に安定したブレーキグン、リフトアップの高い制御を行い、車両はすべてのブレーキングで高い安定性を維持します。レベル 3 からレベル 1 の順に、安定性やリフトアップ制御よりブレーキ力を優先する度合いが高くなります。レベル 1 ではリフトアップを制限する制御が行われず、リアブレーキは ABS によって管理されません。

主に以下のパラメーターを考慮して正しいレベルを選択します。

1) タイヤ/アスファルトのグリップ(タイヤタイプ、磨耗状態、アスファルトの種類、気候など)。
2) ライダーの経験と感覚:熟練ライダーは制動距離を最小限に抑えるためリフトアップを制御することができますが、経験の少ないライダーには、急なブレーキングでも車体の安定性が維持できるようレベル 2 と 3 の使用が推奨されます。

エンジンクーラント温度

インストルメントパネルはエンジン温度の情報(° C)を受信し、設定単位(° C または ° F)に変換したデータ、単位、エンジン温度のシンボルを表示します。
エンジン温度の表示範囲は 40 ° C ～ +120 ° C です。
データが以下の場合:

- -40 ° C 以下の場合、″ – – – ″ が点滅表示されます。
- -39 ° C から +39 ° C の場合、″ LO″ が点灯します。
- +40 ° Cから+120 ° C の場合、データが表示されます。
- +121 ° C 以上の場合、″HI″ が点滅表示されます。

クーラント温度センサーエラーの場合、設定単位と共に ″- – –″ が点滅表示されます。さらに、EOBD ランプ、警告マークが点灯し、″ENG.″ エラーが表示されます。
インストルメントパネルがクーラント温度のデータを受信しない場合、単位と共に ″- – –″ が固定表示されます。

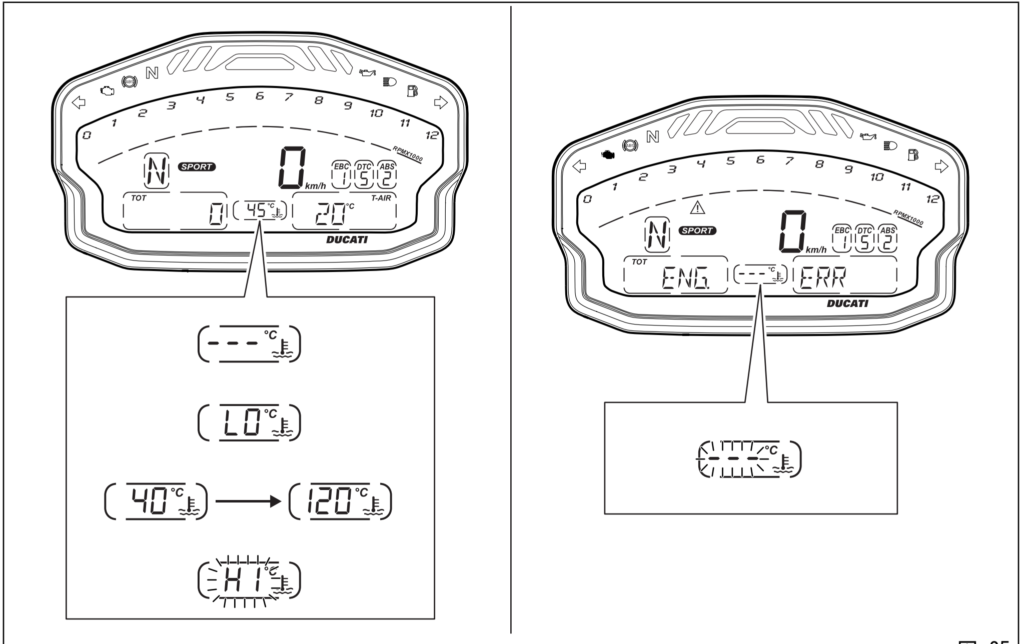


図 25

メニュー1の機能 ：

メニュー1 の機能：

- オドメーター（TOT）
- トリップメーター1（TRIP A）
- トリップメーター2（TRIP B）
- 燃料リザーブトリップメーター（TRIP FUEL）
- トリップタイム（TRIP TIME）
- 時計
- ラップタイム（LAP time）- 起動時のみ

ボタン（1）を押すと、メニュー1 の機能を表示します。

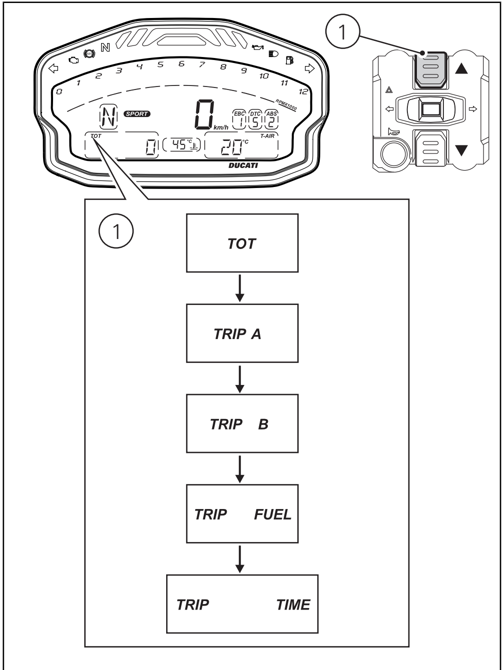


図 26

メニュー1: オドメーター (TOT)

オドメーターは車両の総走行距離を設定単位（キロまたはマイル）でカウント、表示します。
オドメーターに対応する数値（キロまたはマイル）は、"TOT" の文字と単位で表示されます。最大値（199999 km または199999 mi）に達するとインストルメントパネルにその値が表示されたままになります。
オドメーターの値は常に保存され、いかなる理由でもリセットすることはできません。電源の供給が中断（バッテリー OFF）してもデータは消去されません。

参考

Key-ON 時にインストルメントパネルは 10 秒間オドメーターを表示し、その後ユーザー設定ページの画面に移ります。

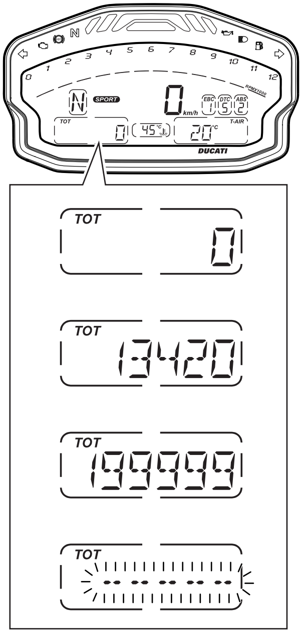


図 27

参考
オドメーター機能で点線 ″ ----- ″ が点滅表示される場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

メニュー1: トリップメーター1 (TRIP A)

トリップメーターは車両の部分走行距離を設定単位(キロまたはマイル)でカウント、表示し、平均燃費、平均スピード、トリップタイムの算出に使用されます。TRIP A の値(キロまたはマイル)は、"TRIP A" の文字と単位で表示されます。
データが最大値 9999.9 km または 9999.9 mi を超えると、カウンターは自動的にリセットされゼロから再カウントされます。
トリップメーターの表示中にボタン (1) を 3 秒間押すと、TRIP A のデータがリセットされます。TRIP A がリセットされると、平均燃費、平均スピード、トリップタイムのデータもリセットされます。
TRIP A のカウントは、システムの単位を手動で変更した場合にも自動的にリセットされます。新しく設定した単位でゼロから再カウントされます。

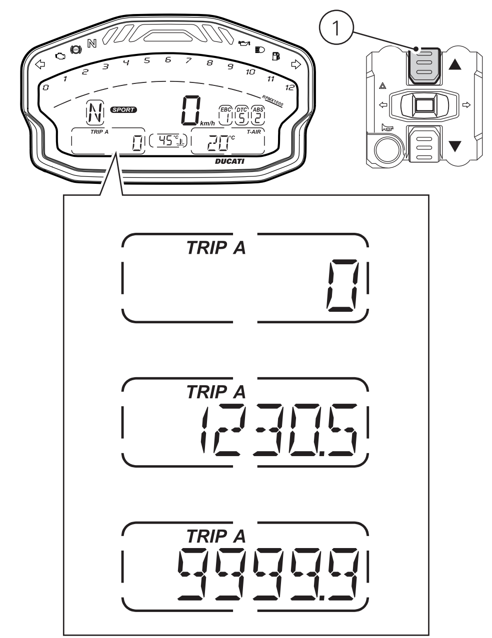


図 28

メニュー1: トリップメーター2 (TRIP B)

トリップメーターは車両の部分走行距離を設定単位（キロまたはマイル）でカウント、表示します。
TRIP B の値（キロまたはマイル）は、"TRIP B" の文字と単位で表示されます。
データが最大値 9999.9 km または 9999.9 mi を超えると、カウンターは自動的にリセットされゼロから再カウントされます。
トリップメーターの表示中にボタン（1）を 3 秒間押すと、TRIP B のデータがリセットされます。
TRIP B のカウントは、システムの単位を手動で変更した場合にも自動的にリセットされます。新しく設定した単位でゼロから再カウントされます。

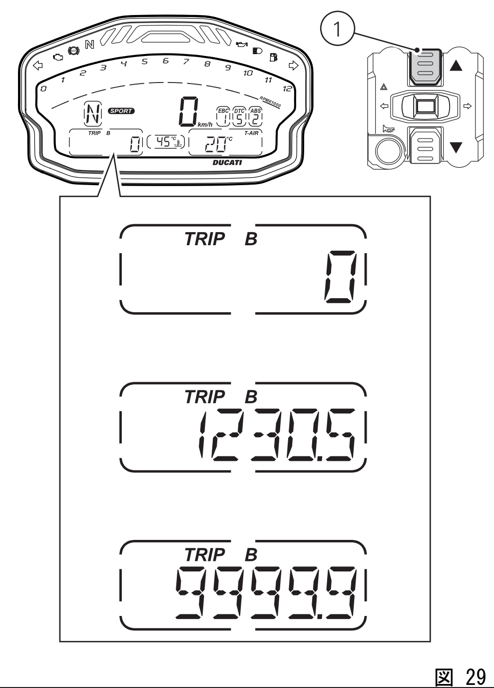


図 29

メニュー1: 燃料リザーブトリップメーター (TRIP FUEL)

燃料リザーブトリップメーターは、車両のリザーブでの走行距離 (燃料リザーブランプが点灯した時点からの車両の走行距離) を設定単位 (キロまたはマイル) でカウント、表示します。燃料リザーブランプ (A) が点灯すると、ディスプレイにその時点で表示されている機能に関係なく TRIP FUEL 機能が表示され、その後、メニューの他の機能をスクロール表示することができます。リザーブタンク使用の状態が続く場合は、データは Key-OFF 後も記憶されます。カウンターはリザーブ状態でなくなった時点で自動的に中断されます。TRIP FUEL に対応する数値 (キロまたはマイル) は、"TRIP FUEL" の文字と単位で表示されます。データが最大値 9999.9 km または 9999.9 mi を超えると、カウンターは自動的にリセットされゼロから再カウントされます。TRIP FUEL 機能が起動していない場合は、メニュー内に対応する値を表示することはできません。

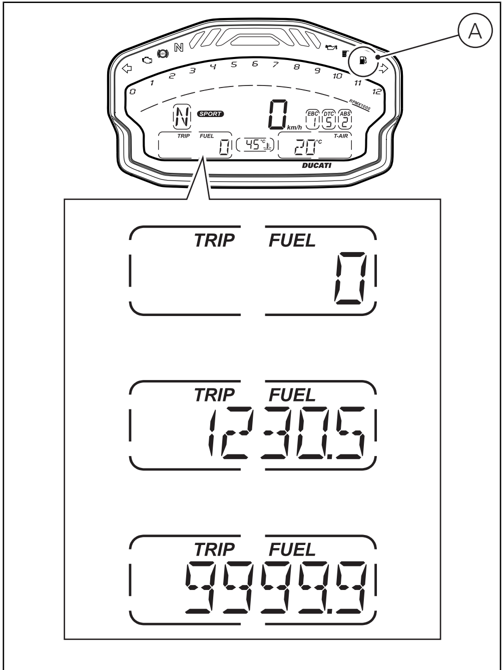


図 30

メニュー1: トリップタイム

インストルメントパネルは走行時間を "hhh:mm" 形式で算出し、"TRIP TIME" の文字と共に表示します。TRIP A が最後にリセットされて以降の走行時間から計算されます。TRIP A がリセットされると、データもリセットされます。
車両が停止していてもエンジンが作動中であれば計算されます(車両停止中でエンジンが停止している時間は自動的に止まり、エンジンが作動すると自動的に時間測定を再開します)。
表示時間が "720:00"(720 時間 00 分)を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再びゼロからカウントを始めます。

参考

スピード(および距離)、または燃費に関する値の単位が変更された場場合、走行時間のデータは自動的にリセットされます。

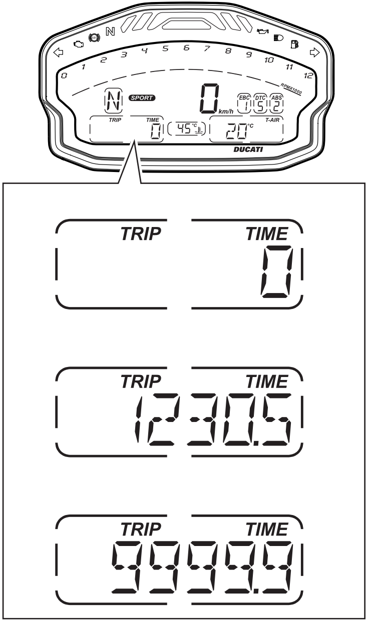


図 31

メニュー 1: 時計

インストルメントパネルは時間に関する情報を表示します。
時間はメニュー1 に表示されます。
インストルメントパネルは時間を以下のように表示します。

- hh（時間）: mm（分）

"AM" 表示 (0:00 から 11:59 まで)、または "PM" 表示 (12:00 から 12:59 までと、1:00 から 11:59 まで)。

インストルメントパネルが正しい時間データを受信しない場合、"- - : - - AM" を表示します。

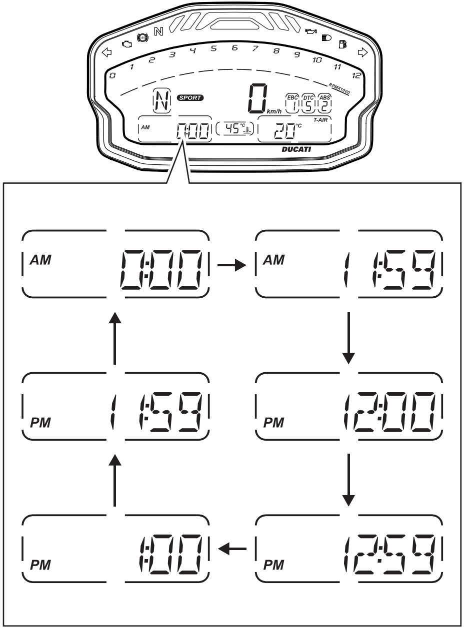


図 32

メニュー1: ラップタイム (LAP time)

LAP 機能に関する情報は機能が起動している場合に表示されます。設定メニューから LAP 機能を起動した後スタンダードスクリーンに戻ると、メニュー1 の最初のページに LAP 機能が表示され、メニュー1 に TIME の文字、ディスプレイに LAP の文字が表示されます。続いて、メニュー1 のその他の機能をスクロールすることができます。LAP 機能を起動すると、初期表示 "0' 00' ' 00" がストップウォッチに表示されます。

FLASH ボタン (3) か同等ボタン (GPS オプション) を押すと、10 分の 1 秒 ("0' 00' ' 0") 単位でストップウォッチがカウントを始めます。その後 FLASH ボタン (3) か同等ボタン (GPS オプション) を押す度に、直前周回のラップ数、ラップタイムが一時的に表示されます。続いてストップウォッチ、進行中の新しい周回のラップ数が改めて表示されます。

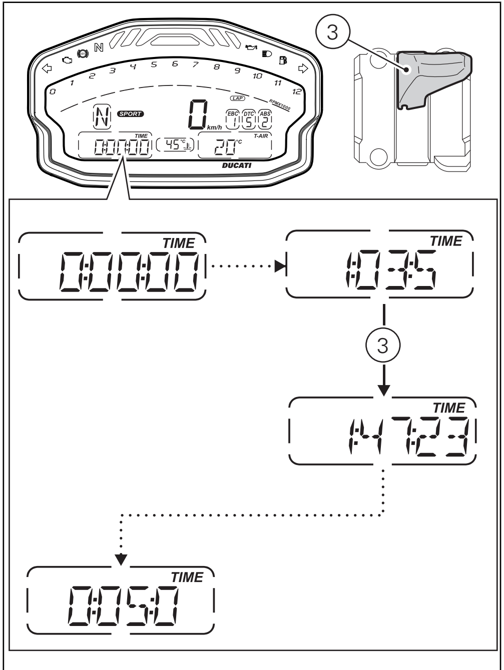


図 33

車両に GPS 装置が搭載されている場合は、ラップの "Start/Stop" コマンドは GPS から送信されます。GPS が各ラップで自動的に "Start/Stop" を識別できるよう、フィニッシュラインを最初に通過する時に FLASH ボタン (3) を押してフィニッシュラインの座標をメモリーしておく必要があります。座標のメモリー中は、GPS の文字が高速で点滅し、その後点灯状態に戻ります。
フィニッシュラインの座標メモリーは、その後 Key-OFF しても記憶されており、現在地から半径 15 km 以内の距離にある間は有効です。一方、フィニッシュラインの座標メモリーは、LAP 機能が起動している状態で FLASH ボタン (3) を押す度に更新されます。フィニッシュラインの座標が新しくメモリーされると、GPS の文字が高速で点滅し、その後点灯状態に戻ります。

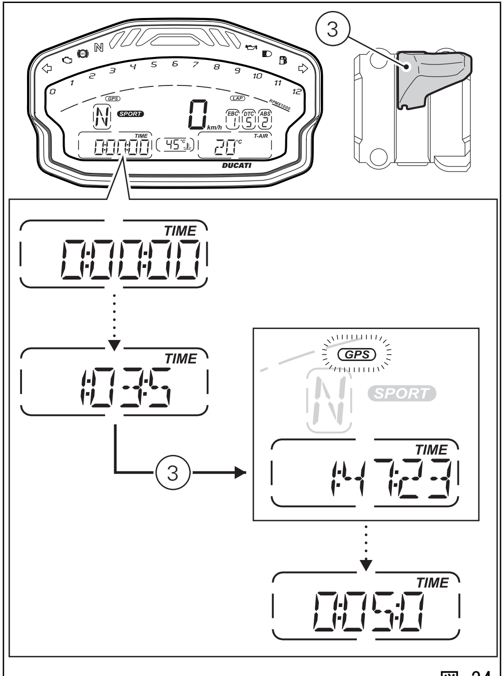


図 34

ストップウォッチが起動していも車両が停止している場合、5 秒後にストップウォッチの機能が一時的にストップし、ストップウォッチは初期表示
″0’00’’00″ に戻ります。その後 FLASH ボタン (3) か同等ボタン (GPS オプション) を 1 回押すと、再度ストップウォッチが起動します。

参考
LAP 機能が起動中、FLASH ボタンはハイビームの点滅とストップウォッチのラップ Start / Stop 操作 (新しい周回の開始指示) の両方に使用します。

参考
TRIP FUEL 機能は常に LAP 機能より優先されます。LAP 機能が起動している状態でTRIP FUEL 機能を起動すると、自動的に LAP 機能のストップウォッチ表示が停止され、TRIP FUEL 機能に関する情報が表示されます。

LAP の記録

LAP 機能が起動している場合、連続して 30 周回までラップタイプを記録することができます。
操作

- FLASH ボタン (3) か同等ボタン (GPS オプション) を押すと、10 分の 1 秒 (″0’00’’0″) 単位でストップウォッチが表示されます。
- その後 FLASH ボタン (3) か同等ボタン (GPS オプション) を押す度に、直前周回のラップタイムが 100 分の 1 秒単位で 5 秒間ディスプレイに表示されます。
- 5秒後、インストルメントパネルは進行中の新しい周回のラップ数の表示に戻ります。
- 車両が 5 秒以上停止している場合、ストップウォッチの機能が一時的にストップし、ストップウォッチは初期表示 ″0’00’’00″ に戻ります。
- その後 FLASH ボタン (3) か同等ボタン (GPS オプション) を 1 回押すと、再度ストップウォッチが起動します。

ラップタイムが最大 9 分 59 秒 99 以内に停止されない場合、ストップウォッチは再度ゼロからカウントを開始し、ラップが停止されるか記録機能が解除されるまでカウントを続けます。
ラップ数は 01 から 30 まで順番に表示されます。
最初の30周が終わると、インストルメントパネルは LAP01 から情報を上書きします。
LAP 機能が一時中断され、ラップメモリーが削除されずにその後再開した場合、ラップ情報は古いラッ

プ情報に上書き保存されます。例：消去せずに 34 周を終えた場合、インストルメントパネルは最初の 30 周をメモリーし、その後最初の 4 周を上書きします。次の Key-ON 時、もしくは LAP 機能を再起動した時にメモリーが消去されていない場合は、インストルメントパネルは LAP 05 からメモリーを続けます。
それぞれの LAP で以下の情報が記録されます。

- 30 周分のラップタイム（連続したスタートとストップ間のタイム）
- 30 周分の最大 RPM 値（各ラップの最大 RPM 値）
- 30 周分の最高スピード（各ラップの最高スピード）。

メニュー2の機能

メニュー2 の機能：

- 外気温
- 瞬間燃費 (CONS.)
- 平均燃費 (CONS. AVG)
- 平均スピード (SPEED AVG)

ボタン (2) を押すと、メニュー2 の機能を表示します。

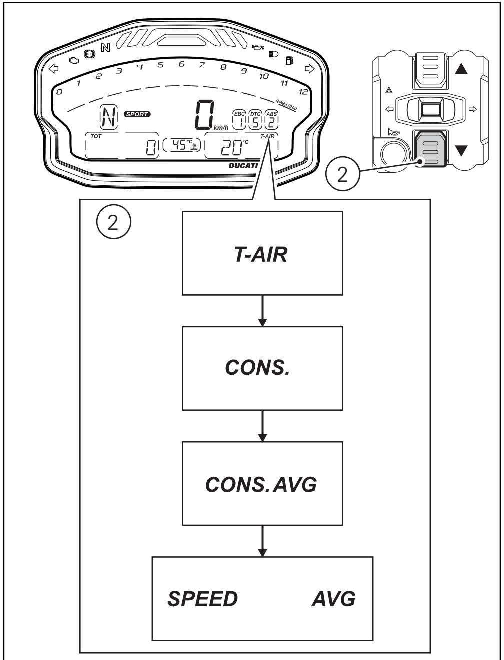


図 35

メニュー2: 外気温

インストルメントパネルは設定された単位（° C または ° F）に換算された外気温、設定単位、”T-AIR”の文字を表示します。温度データは -39 ° C～+124 ° C（-38 ° F～+255 ° F）の場合に表示されます。それ以外の温度（ -39 ° C 未満 か +124 ° C を超える場合）では ” － － － ” と単位が表示されます。気温センサーエラーの場合、インストルメントパネルには単位と共に ” － － － ” が点滅します。EOBD ランプと警告マークが点灯し、該当するエラー（ENG.）がディスプレイに表示されます。
インストルメントパネルが気温のデータを受信しない場合、単位と共に ”- - -” が固定表示されます。

参考

エンジンの熱が停車中の車両の温度表示に影響を与える場合があります。

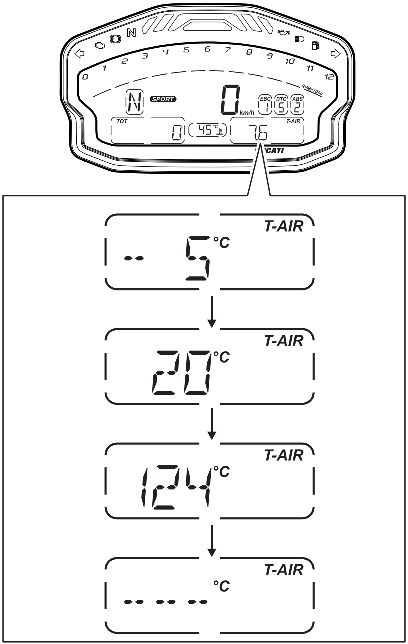


図 36

メニュー2: 瞬間燃費

インストルメントパネルは車両の瞬間燃費、設定単位、CONSの文字を表示します。
数値は直前の 1 秒間の燃料消費量と走行距離から算出されます。データは設定された単位リットル /100 km、mpg UK、mpg USA で表示されます。
数値はエンジンが作動しており車両が動いている場合に算出されます (車両速度がゼロ、もしくはエンジン停止状態で車両が停車している間は算出されせん)。算出がされない場合は、ディスプレイ上に "--.-" が瞬間燃費として固定点灯します。

参考

設定メニューの UNITS SETTING 機能から、燃費の単位を L/100 から km/L に変更することができます (平均燃費、瞬間燃費を同時に変更)。

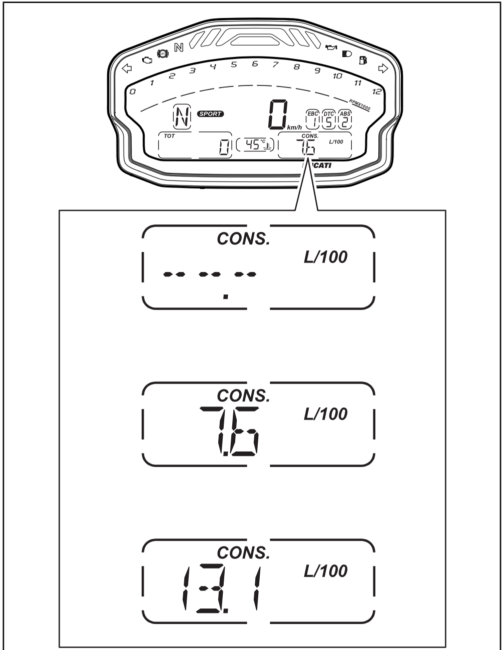


図 37

メニュー2: 平均燃費

インストルメントパネルは車両の平均燃費、設定単位、CONS. AVGの文字を表示します。TRIP A が最後にリセットされてからの消費燃料および走行距離から計算されます。 TRIP A がリセットされると、データがリセットされます。次のデータはリセットから 10 秒後に表示されます。数値がディスプレイされない最初の 10 秒間は "– –.–" が 平均燃費として固定点灯します。データは設定された単位（リットル /100 km、mpg UK、mpg USA）で表示されます。停車中であってもエンジンが作動している場合は計算されます。車両停車中でエンジンが停止している時間は考慮されません。

参考

設定メニューの UNITS SETTING 機能から、燃費の単位を L/100 から km/L に変更することができます（平均燃費、瞬間燃費を同時に変更）。

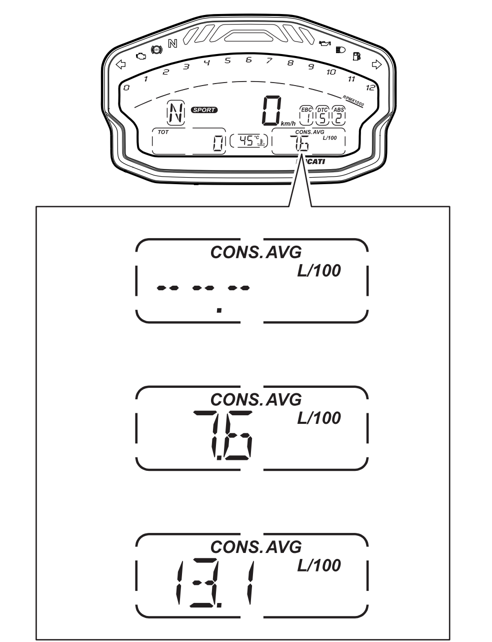


図 38

メニュー2: 平均スピード

インストルメントパネルは車両の平均スピード、設定単位、SPEED AVGの文字を表示します。TRIP A が最後にリセットされてからの走行距離と時間から計算されます。TRIP A がリセットされると、データがリセットされます。次のデータはリセットから 10 秒後に表示されます。数値がディスプレイされない最初の 10 秒間は ″- -.-″ が平均スピードとして固定点灯します。停車中であってもエンジンが作動している場合は時間が計算されます (車両停車中でエンジンが停止している時間は考慮されません)。平均スピードは車両スピードの表示と同様に、実速度に 5 %上乗せした値が表示されます。

参考

設定メニューの UNITS SETTING 機能から、スピードの単位を km/h (km) から mph (mi) に変更することができます (走行距離を同時に変更)。

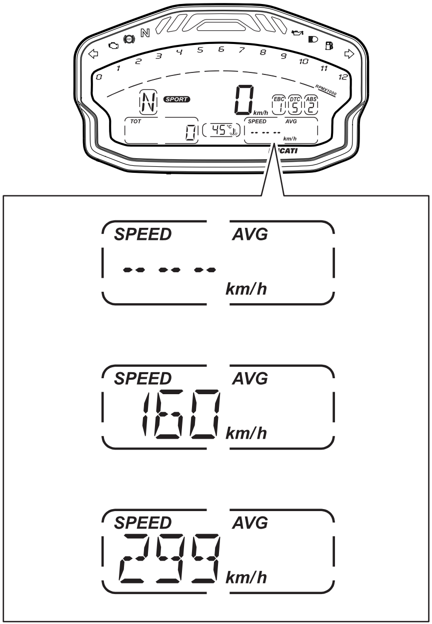


図 39

サブ機能
DDA

車両に DDA 装置が搭載されている場合のみインストルメントパネルは DDA に関する情報を表示します。
"DDA" の文字が表示される場合、DDA 装置が起動しており、記録が行われています。
"DDA" の文字が表示されない場合、DDA 装置は起動していません。

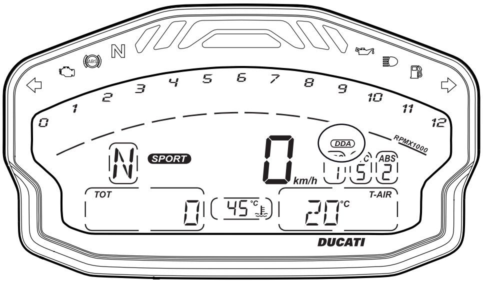


図 40

GPS（オプション）

インストルメントパネルは、オプションである GPS 装置が搭載されている場合のみ GPS 装置に関する情報を表示します。インストルメントパネルや、車両に GPS 受信機が搭載されている場合、その状態を表示します。"GPS" の文字が固定表示された場合は、GPS 装置が正しく装備され、衛星を受信していることを意味します。"GPS" の文字が点滅表示される場合は、GPS 装置が正しく装備されていないか、衛星を受信できないか、あるいはGPS 装置に問題があるかのいずれかを意味します。"GPS" の文字が表示されない場合は、GPS 装置が装備されていないことを意味します。
GPS 装置は LAP 機能でフィニッシュラインとして使用することもできます。その場合には、"新しい周回" コマンドが GPS 装置から送信されます。
GPS が各ラップで自動的に "Start/Stop" を識別できるよう、GPS はフィニッシュラインの座標を GPS 内にメモリーします。フィニッシュラインを最初に通過した時に FLASH ボタン (3) を押してフィニッシュラインの座標をメモリーしておく必要があります。

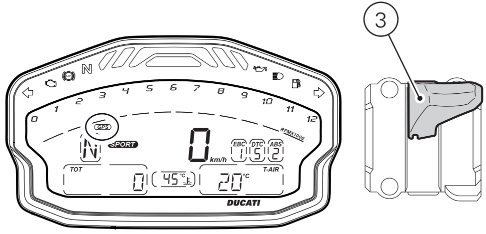


図 41

メンテナンス表示（SERVICE）

この表示は、Ducati 正規サービスセンターで車両のメンテナンス（定期点検）を実施する必要があることをユーザーに通知します。
メンテナンス表示のリセットは、メンテナンスを行う Ducati 正規サービスセンターでのみ行うことができます。

- OIL SERVICE（オイルサービス）= 12000 km
- DESMO SERVICE（デスモサービス）= 24000 km

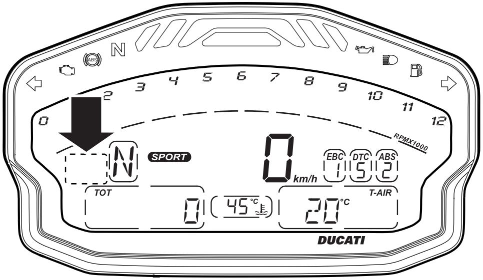


図 42

OIL SERVICEゼロ表示

最初のメンテナンス表示は、OIL SERVICE ゼロを通知します。オドメーターが最初の 1000 km (600 miles) に達すると起動します。

メンテナンス表示は、"SERVICE" の文字、オイルマーク、"OIL" の文字を Key-ON の度に 5 秒間点滅表示します。5 秒後、"SERVICE" の文字、オイルマークは点灯に移行します。Key-OFF するまで、もしくは Ducati 正規サービスセンターでリセットされるまで点灯し続けます。

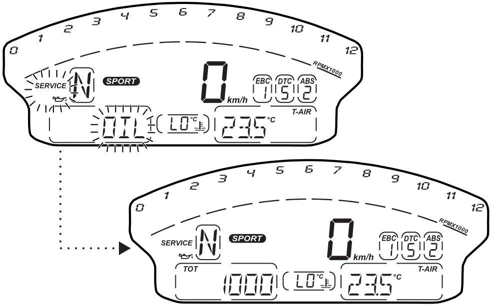


図 43

OIL SERVICE またはDESMO SERVICE カウントダウン表示

OIL SERVICE ゼロ（1000 km - 600 miles）表示の最初のリセットが行われた後、インストルメントパネルは次の定期点検、OIL SERVICE（A）または DESMO SERVICE（B）までの残りのキロ数（マイル数）のカウントを開始します。
Key-ON する度にキロ数カウントが 2 秒間表示され、定期点検までの走行距離が 1000 km（600 miles）を切ると、Key-ON 毎に 5 秒間表示されます。
Key-ON 時に次回の定期点検までの走行距離が表示され、"SERVICE" の文字と、オイルマークもしくはデスモマークが点灯します。

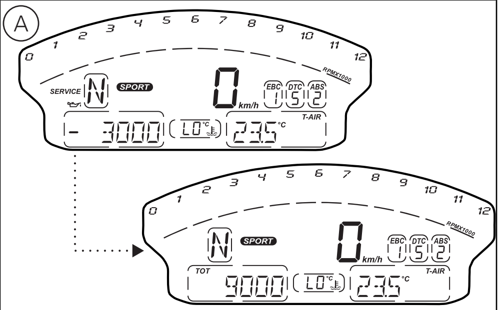


図 44

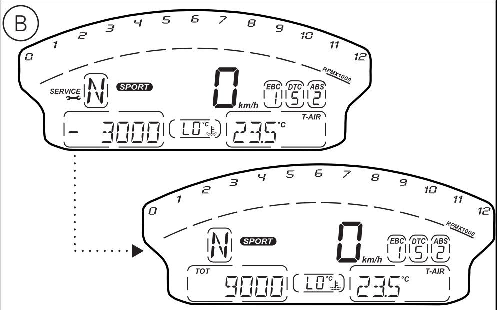


図 45

OIL SERVICE又はDESMO SERVICE表示

メンテナンスを必要とする走行距離に達すると、必要なメンテナンスのタイプ、OIL SERVICE (A) または DESMO SERVICE (B) が表示されます。
メンテナンス表示は、"SERVICE" の文字、オイルマークもしくはデスモマーク、"OIL" もしくは "DESMO" の文字を Key-ON の度に 5 秒間点滅表示します。5 秒後、"SERVICE" の文字、オイルマークもしくはデスモマークは点灯に移行します。Key-OFF するまで、もしくは Ducati 正規サービスセンターでリセットされるまで点灯し続けます。

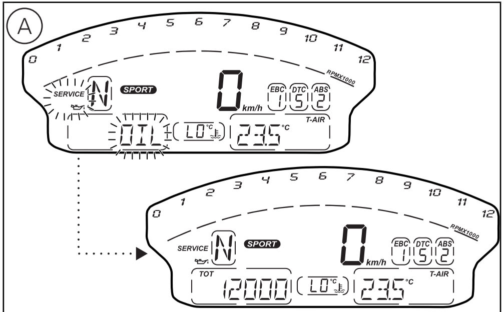


図 46

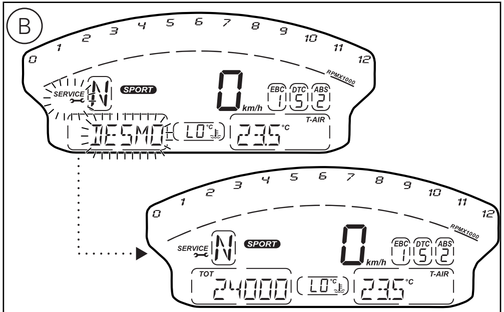


図 47

エラー

インストルメントパネルは車両の不具合をリアルタイムに識別するためにエラー信号を管理します。
Key-ON 時にエラーが検知されると、インストルメントパネルに EOBD ランプ、警告マークが点灯し、設定メニューのエラーページが起動します。車両の通常作動時にエラーが検知されると、インストルメントパネルに EOBD ランプ、警告マークが点灯し、設定メニューのエラーページが起動します。

検知されたエラーを表示するには、まず設定メニューに入ります。ボタン（1）および（2）で"ERR."（エラーが存在する時は最初のページ）を選択し、ボタン（4）を押します。
インストルメントパネルに"ERR."と一緒に以下が表示されます。

- エラータイプの表示点灯
- "EXIT"の文字が表示され、枠が点滅

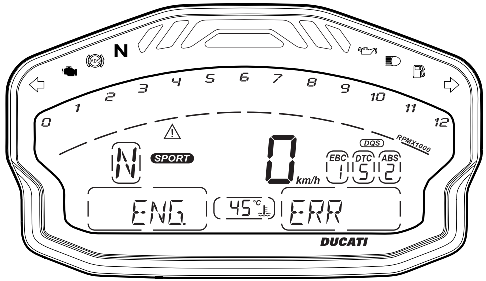


図 48

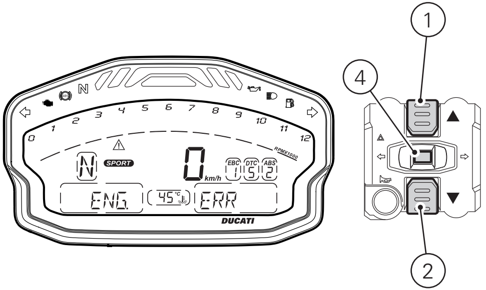


図 49

エラーが存在する場合は、続いて各エラーがそれぞれ 3 秒間表示されます。エラーを受信すると同時に EOBD ランプが点灯します。

警告
ひとつ以上のエラーが表示される場合には、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

エラー表示の説明

エラー表示	説明
CAN LINE	CAN LINE BUS Off
UNK-D	コントロールユニットがシステムに認識されません - SW エラー
ABS	ABS コントロールユニットが伝達を行いません/正常に機能していません
BBS	BBS コントロールユニットが伝達を行いません/正常に機能していません
	BBS コントロールユニット機能の一般不具合
	エキゾーストバルブモーター機能の不具合
DSB	DSB コントロールユニットが伝達を行いません/正常に機能していません
ELOCK	E-Lock コントロールユニットが伝達を行いません/正常に機能していません
	E-Lock コントロールユニット機能の不具合全般
	キー - アンテナ（イモビライザー）機能の不具合
ENG.	ECU コントロールユニットが伝達を行いません/正常に機能していません
	ECU コントロールユニット機能の不具合全般
	スロットルポジションセンサー不具合
	スロットルグリップポジションセンサー不具合
	スロットルリレーまたはスロットルモーター不具合
	圧力センサー不具合
	エンジンクーラント温度センサー不具合

エラー表示	説明
	インテークダクト温度センサー不具合
	インジェクションリレー不具合
	イグニションコイル不具合
	インジェクター不具合
	エンジン回転数センサー不具合
	ラムダセンサーまたはラムダセンサーヒーター不具合
	車両スターターリレー不具合
	クイックシフトスイッチ不具合
	セカンダリエアセンサー不具合
GEAR	ギアセンサー不具合
FUEL	NTC リザーブセンサー不具合
SPEED	フロントおよび/またはリアスピードセンサー不具合
BATT.	バッテリー電圧が高すぎる、または低すぎる
STOP	ストップライトが機能していない
FAN	エレクトリッククーリングファン不具合
STAND	サイドスタンドセンサー不具合

参考

″FAN″ は、ファンと正常に通信しない BBS コントロールユニットの不具合でも表示されることがあります。エンジン温度表示に注意してください。

エラーアイコン表

ランプ	/ エラーメッセージ	エラー
	BBS	ブラックボックスコントロールユニット
	ABS	ABS コントロールユニット
	DSB	インストルメントパネルコントロールユニット
	ELOCK	E-LOCK コントロールユニット
	ENG.	エンジンコントロールユニット
	CAN	Can Bus OFF
	UNK-D	ソフトウェアの互換性
	FAN	クーリングファン
	BATT.	バッテリー電圧

ランプ / エラーメッセージ	エラー
STOP	リアストップライト
STAND	サイドスタンドセンサー
GEAR	ギアセンサー
SPEED	スピードセンサー
FUEL	リザーブフューエルセンサー

参考

"FAN" は、ファンと正常に通信しない BBS コントロールユニットの不具合でも表示されることがあります。エンジン温度表示に注意してください。

設定メニュー

このメニューはいくつかの車両機能を起動、解除、設定することができます。
設定メニューに入るには、Key-ON の状態で車両実速度が 20 km/h 以下の時にボタン（2）を 3 秒間押します。設定メニューの表示中は他の機能を表示することはできません。
設定メニューには以下の機能が表示されます。

- ライディングモード（R.M.）
- バッテリー（BAT.）
- バックライト（B.L.）
- ラップ（LAP）
- DDA（DDA）
- 時計（CLK）
- PIN CODE（PIN）
- RPM（RPM）
- 単位の設定（UNT）
- エラー（ERR.）（エラー検出された場合のみ）

重要
安全のために、このメニューは車両が停止している状態で使用してください。

ボタン（1）および（2）を押すとパーソナライズ可能なパラメーターを一つずつ強調表示することができます。ボタン（1）を押すと次のパラメーターが、ボタン（2）を押すと前のパラメーターが強調表示されます。
希望のパラメーターを強調表示した後、ボタン（4）を押すと、選択したパラメーターに対応するメニューページが開きます。
機能が装備されていない場合や一時的に解除されている場合は、メニューページにアクセスできません。
設定メニューを終了するには、"EXIT" を強調表示し、メニュー決定ボタン 4 を押します。

参考
"SETTING MENÚ" と "EXIT" の文字は、設定メニューとそのサブメニュー内にいる間は常に表示されています。

参考
設定メニュー内にいる時は、メニュー1 およびメニュー2 のその他の機能をスクロール表示することはできません。

重要
メニューの各ページ内では、選択された機能はその数値、文字、または枠が点滅表示されます。

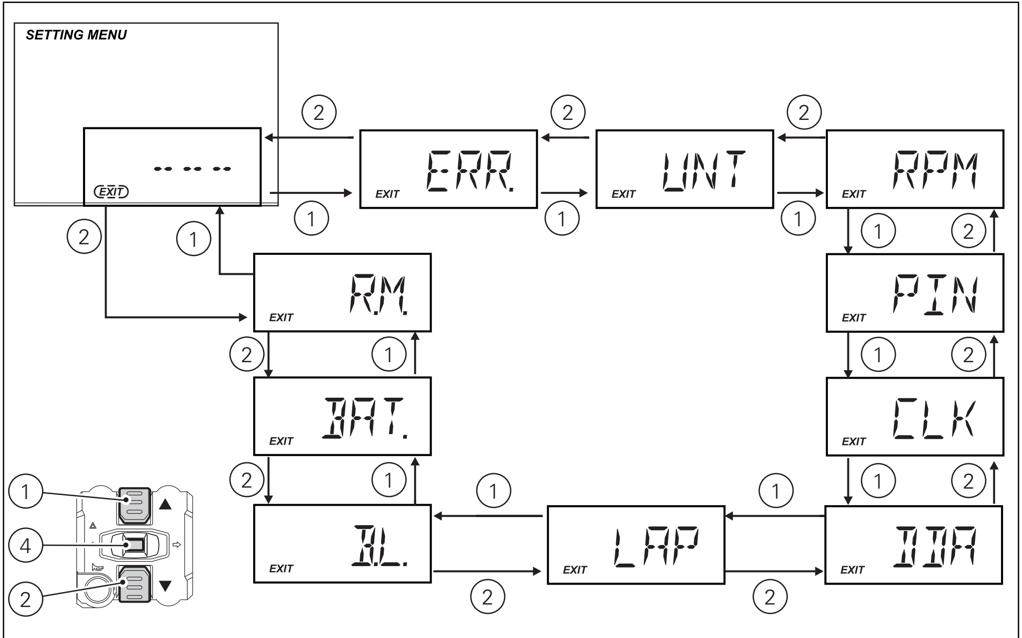


図 50

ライディングモード のパーソナライズ (Riding Mode)

各ライディングモードのそれぞれの設定をパーソナライズすることができます。
設定メニューに入ります。
ボタン (1) またはボタン (2) を押し、R.M. (ライディングモード) を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。
R.M. (ライディングモード) メニューに入ります。
機能に入ると、選択可能な 3 つのライディングモード (RACE、SPORT、WET) がディスプレイに表示されます。ボタン (1) または (2) を押し、パーソナライズしたいライディングモードを強調表示 (横の矢印が点滅) します。メニュー決定ボタン (4) を押すと、選択したライディングモードのパーソナライズに移ります。
"EXIT" の文字が強調表示された状態でボタン (4) を押すと、サブメニューを終了し前の画面に戻ります。

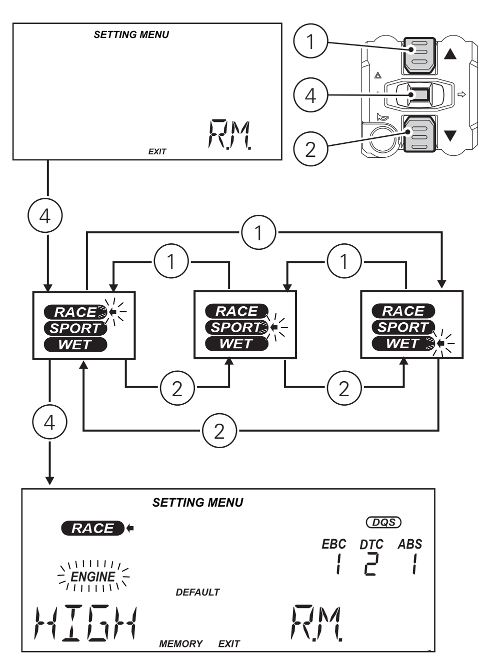


図 51

各ライディングモードについて以下のパラメーターをパーソナライズすることができます。

- ENGINE
- EBC
- DTC
- ABS
- DQS
- DEFAULT（ライディングモードのパラメーターを Ducati 初期設定に回復します）

ライディングモードのパーソナライズメニューに入ると、ENGINE パラメーターが自動的に強調表示（パラメーター点滅）されます。ボタン（1）、（2）を押してメニュー内を次の順番で周回し、現在の設定情報をひとつひとつ選択することができます（選択されたパラメーターが点滅）。

- ENGINE
- EBC
- DTC
- ABS
- DQS
- MEMORY
- EXIT
- DEFAULT

"EXIT" の文字が強調表示され、ボタン（4）を押すと、サブメニューを終了して前の画面に戻ります。

警告

パラメーター変更は、車両のセットアップに充分慣れている方のみにお勧めします。意図せず変更してしまった場合は、DEFAULT 機能でパラメーターを修復してください。

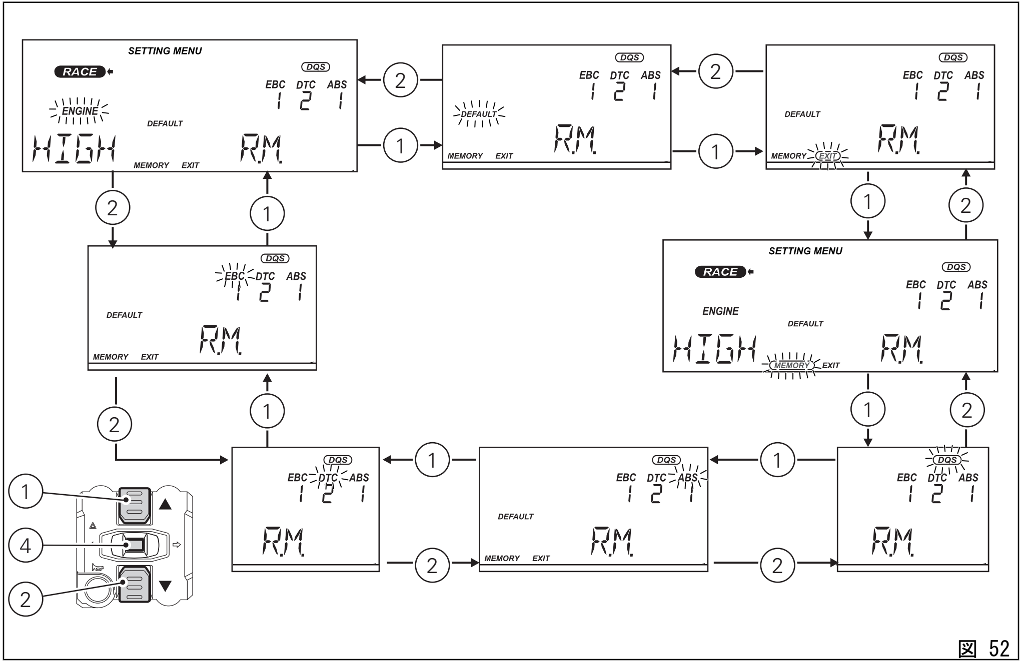

SETTING MENU
RACE
ENGINE
HIGH
DEFAULT
MEMORY
EXIT
DQS
EBC
DTC
ABS
1 2 1
R.M.
1
2
4

図 52

ライディングモードのパーソナライズ：ライディングモードのパラメーターの保存

各ライディングモードで設定したパラメーターを保存することができます。
ライディングモードのパラメーター設定を保存するには、まず設定メニューに入ります。ボタン（1）および（2）を使用して"R.M."（ライディングモード）を選択し、ボタン（4）を押します。ボタン（1）または（2）を使用して変更したいライディングモードを選択し、ボタン（4）を押します。ボタン（1）または（2）を使用して"MEMORY"（パラーメーター点滅）を選択し、ボタン（4）を 2 秒間押します。
変更したパラメーターはバッテリーを切り離してもリセットされません。"EXIT"の文字が強調表示され、ボタン（4）を押すと、サブメニューを終了し前の表示に戻ります。

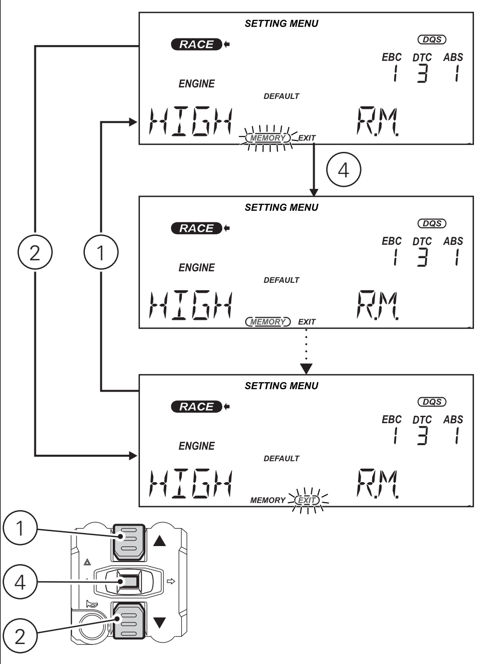


図 53

警告
パラメーター変更は、車両のセットアップに充分慣れている方のみにお勧めします。意図せず変更してしまった場合は、DEFAULT 機能でパラメーターを修復してください。

ライディングモードのパーソナライズ: EBC レベルの設定

ここでは各ライディングモードに連動したリアホイールのアンチロックシステム（EBC）の干渉レベルを設定または解除することができます
設定メニューに入ります。
ボタン（1）またはボタン（2）を押し、R.M.（ライディングモード）を選択します。
機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。
R.M.（ライディングモード）メニューに入ります。
ボタン（1）または（2）を押して、希望のライディングモード（RACE、SPORT、WET）を選択します。
希望のライディングモードを選択（ライディングモード点滅の横に矢印）したら、メニュー決定ボタン（4）を押します。
選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。ボタン（1）または（2）を押して、パーソナライズするパラメーター（EBC）を選択します。希望のパラメーターが強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。
この機能に入ると、現在設定されている EBC レベル、またはステータスが点滅します。
ボタン（1）または（2）を押し、新しく設定したい介入レベル（1、2、3）、もしくは "－" マーク（EBC 機能 "OFF"）を選択します。ボタン（4）を押し、選択を決定します。自動的に数値が点灯表示に移り、"EXIT" の文字が強調表示されます。
メニューを終了して前画面に戻るには、"EXIT" の文字を強調してボタン（4）を押します。インストルメントパネルはメニュー内のひとつ上の画面に戻り、"MEMORY" の文字が自動的に強調表示されます。

参考

EBC パラメーターの新設定を保存するには、"ライディングモードのパラメーターの保存" の段落に記載されている "ライディングモードのパラメーターの保存" 手順に従ってください。万一保存の手順を行わずにライディングモードメニューを終了した場合は、選択した設定は無効になります。

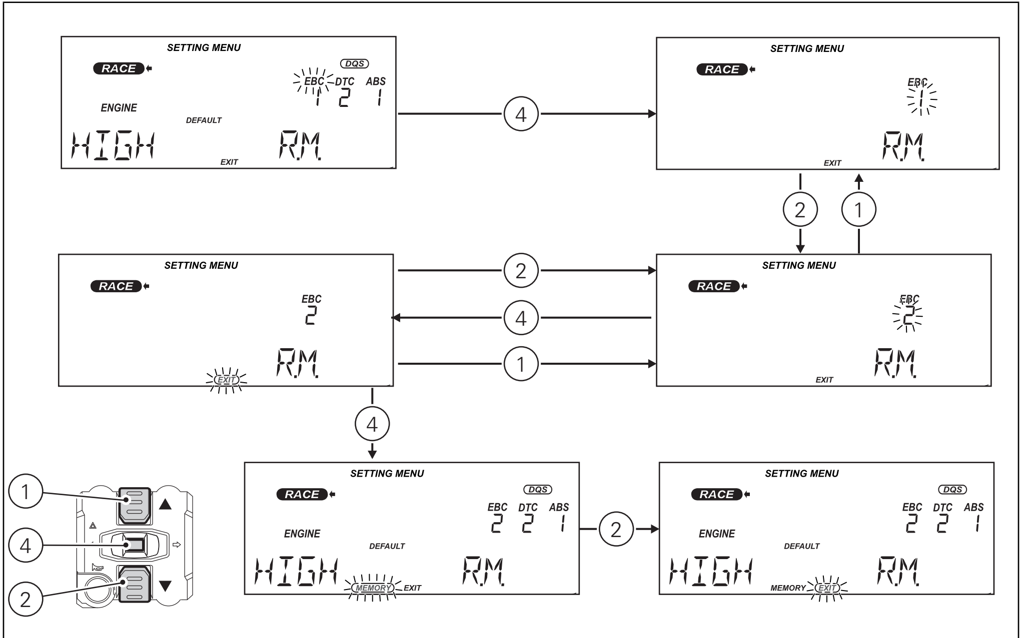

SETTING MENU
RACE
DQS
EBC DTC ABS
ENGINE
DEFAULT
HIGH
EXIT
R.M.
MEMORY

図 54

ライディングモードのパーソナライズ: DTC レベルの設定

ここでは各ライディングモードに連動した DTC 干渉レベルの設定または解除を行うことができます。
設定メニューに入ります。ボタン（1）またはボタン（2）を押し、R.M.（ライディングモード）を選択します。
機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。
R.M.（ライディングモード）メニューに入ります。
ボタン（1）または（2）を押して、希望のライディングモード（RACE、SPORT、WET）を選択します。
希望のライディングモードを強調表示（ライディングモード点滅の横に矢印）したら、メニュー決定ボタン（4）を押します。
選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。
ボタン（1）または（2）を押して、パーソナライズするパラメーター（DTC）を選択します。
希望のパラメーターが強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。
この機能に入ると、現在設定されている DTC レベル、またはステータスが点滅します。ボタン（1）または（2）を押し、新しく設定したい介入レベル（1から 8)、もしくは ″ - ″ マーク（DTC 機能 ″OFF″）を選択します。ボタン（4）を押し、選択を決定します。自動的に数値が点灯表示に移り、″EXIT″ の文字が強調表示されます。
メニューを終了して前画面に戻るには、″EXIT″ の文字を強調してボタン（4）を押します。インストルメントパネルはメニュー内のひとつ上の画面に戻り、″MEMORY″ の文字が自動的に強調表示されます。

参考

DTC パラメーターの新設定を保存するには、″ライディングモードのパラメーターの保存″ の段落に記載されている ″ライディングモードのパラメーターの保存″ 手順に従ってください。万一保存の手順を行わずにライディングモードメニューを終了した場合は、選択した設定は無効になります。

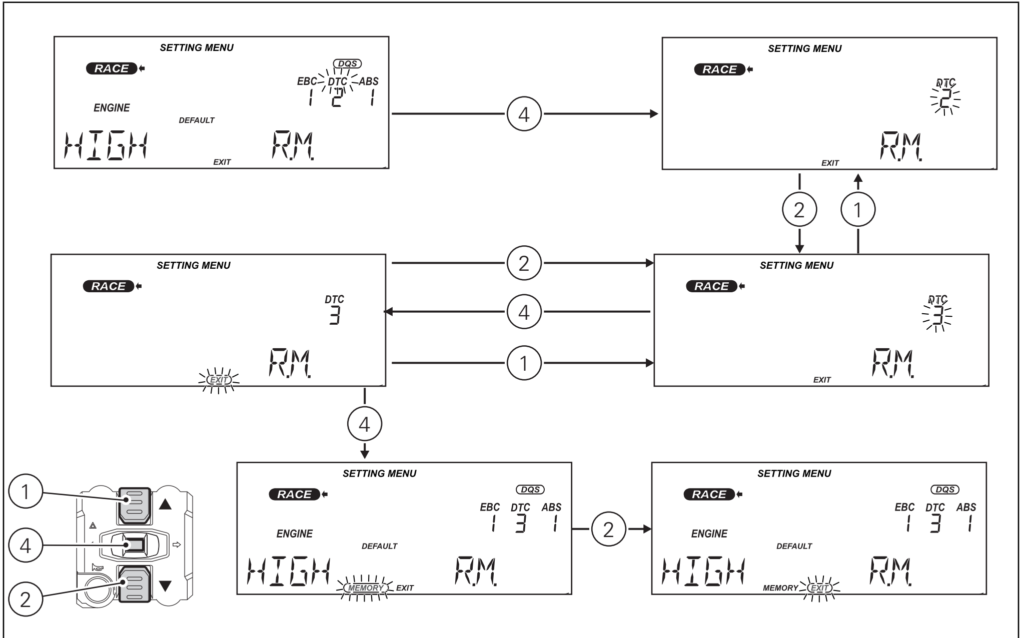

SETTING MENU
RACE
DQS
EBC DTC ABS
1 2 1
ENGINE
DEFAULT
HIGH
EXIT
R.M.
DTC
2
3
MEMORY
4
1
2

図 55

ライディングモードのパーソナライズ: DQS の起動/解除

この機能ではライディングモード毎に DQS 装置の起動または停止を設定することができます。

設定メニューに入ります。ボタン (1) またはボタン (2) を押し、R.M. (ライディングモード) を選択します。

機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

R.M. (ライディングモード) メニューに入ります。

ボタン (1) または (2) を押して、希望のライディングモード (RACE、SPORT、WET) を選択します。

希望のライディングモードを選択 (ライディングモード点滅の横に矢印) したら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。ボタン (1) または (2) を押して、パーソナライズするパラメーター (DQS) を選択します。

希望のパラメーターが強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

この機能に入ると、現在設定されている DQS ステータスが点滅します。

ステータスは ON もしくは OFF になっています。

ボタン (1) および (2) を押し、新しく設定したいステータスを選択します。ボタン (4) を押し、選択を決定します。自動的に数値が点灯表示に移り、"EXIT" の文字が強調表示されます。

メニューを終了して前画面に戻るには、"EXIT" の文字を強調してボタン (4) を押します。インストルメントパネルはメニュー内のひとつ上の画面に戻り、"MEMORY" の文字が自動的に強調表示されます。

参考

DQS パラメーターの新設定を保存するには、"ライディングモードのパラメーターの保存" の段落に記載されている "ライディングモードのパラメーターの保存" 手順に従ってください。万一保存の手順を行わずにライディングモードメニューを終了した場合は、選択した設定は無効になります。

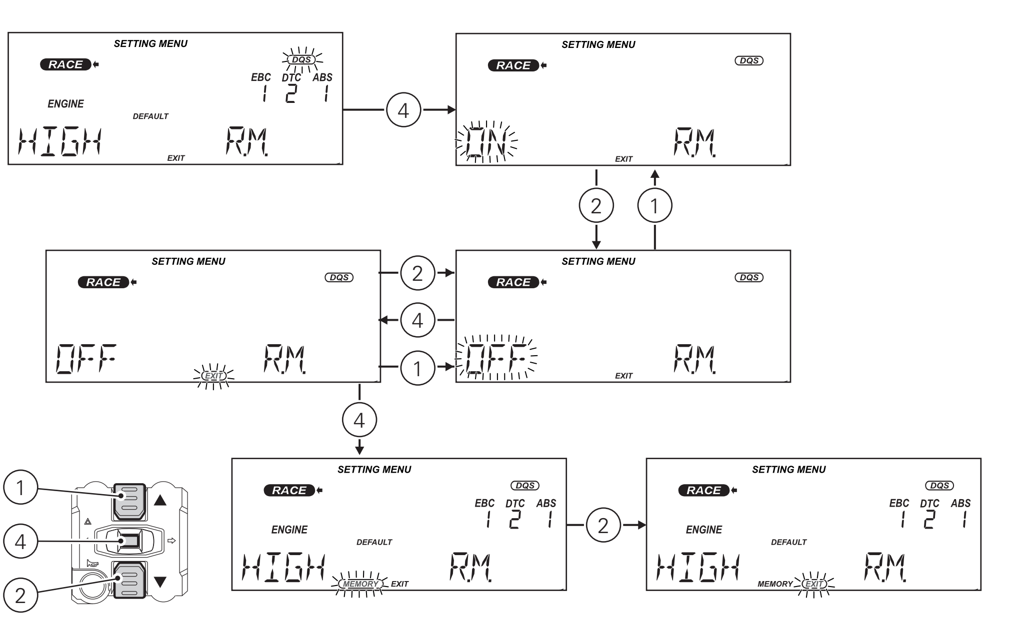

SETTING MENU
RACE
DQS
EBC DTC ABS
1 2 1
ENGINE
DEFAULT
HIGH
EXIT
R.M.
ON
OFF
MEMORY
4
2
1

図 56

ライディングモードのパーソナライズ: ABS 調整

この機能では一つのライディングモードの ABS システム干渉レベルの設定、または ABS システムの解除を行うことができます。設定メニューに入ります。ボタン（1）またはボタン（2）を押し、R.M.（ライディングモード）を選択します。
機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。
R.M.（ライディングモード）メニューに入ります。ボタン（1）または（2）を押して、希望のライディングモード（RACE、SPORT、WET）を選択します。
希望のライディングモードを選択（ライディングモード点滅の横に矢印）したら、メニュー決定ボタン（4）を押します。 選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。ボタン（1）または（2）を押して、パーソナライズするパラメーター（ABS）を選択します。希望のパラメーターが強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。
この機能に入ると、現在設定されている ABS レベル、またはステータスが点滅します。ボタン（1）または（2）を押し、新しく設定したい介入レベル、もしくは ″ - ″ マーク（ABS 機能 ″OFF″）を選択します。ボタン（4）を押し、選択を決定します。自動的に数値が点灯表示に移り、″EXIT″ の文字が強調表示されます。
メニューを終了して前画面に戻るには、″EXIT″ の文字を強調してボタン（4）を押します。インストルメントパネルはメニュー内のひとつ上の画面に戻り、″MEMORY″ の文字が自動的に強調表示されます。

参考

ABS パラメーターの新設定を保存するには、″ライディングモードのパラメーターの保存″ の段落に記載されている ″ライディングモードのパラメーターの保存″ 手順に従ってください。万一保存の手順を行わずにライディングモードメニューを終了した場合は、選択した設定は無効になります。

参考

この機能を使用して ABS システムを起動または解除する場合、すなわちシステムのステータスを解除から起動、起動から解除へ変更する場合、ABS システムの起動・解除プロセスが実施されます。ABS コントロールユニットのステータス変更には約 6 秒かかります。

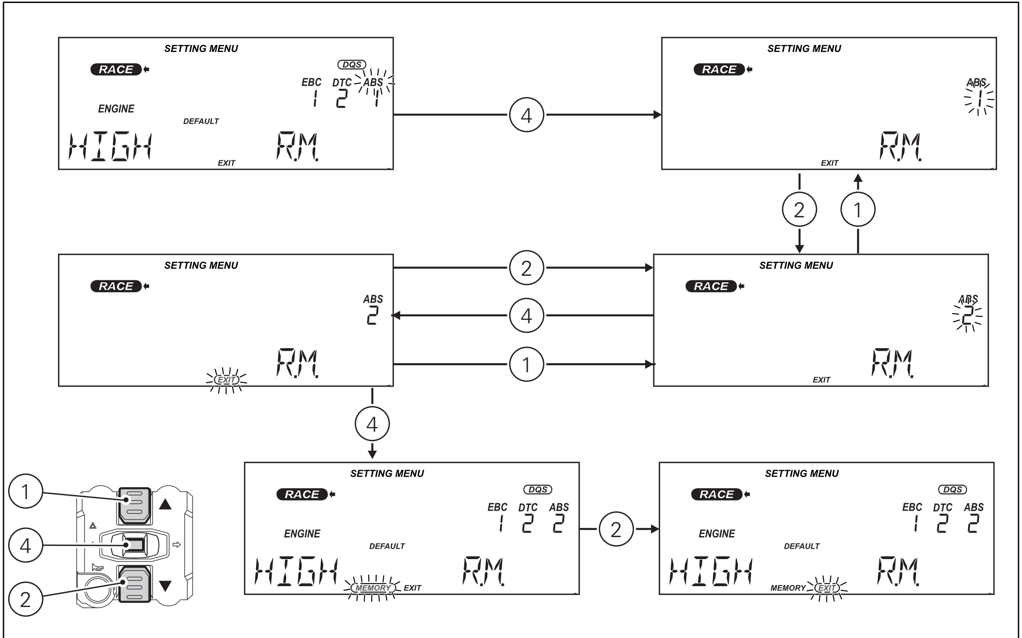

SETTING MENU
RACE
ENGINE
DEFAULT
DQS
EBC DTC ABS
1 2 1
HIGH
EXIT
RM
4
SETTING MENU
RACE
ABS
1
EXIT
RM
2
1
SETTING MENU
RACE
ABS
2
EXIT
RM
2
4
1
SETTING MENU
RACE
ABS
2
EXIT
RM
4
SETTING MENU
RACE
ENGINE
DEFAULT
DQS
EBC DTC ABS
1 2 2
HIGH
MEMORY
EXIT
RM
2
SETTING MENU
RACE
ENGINE
DEFAULT
DQS
EBC DTC ABS
1 2 2
HIGH
MEMORY
EXIT
RM
1
4
2

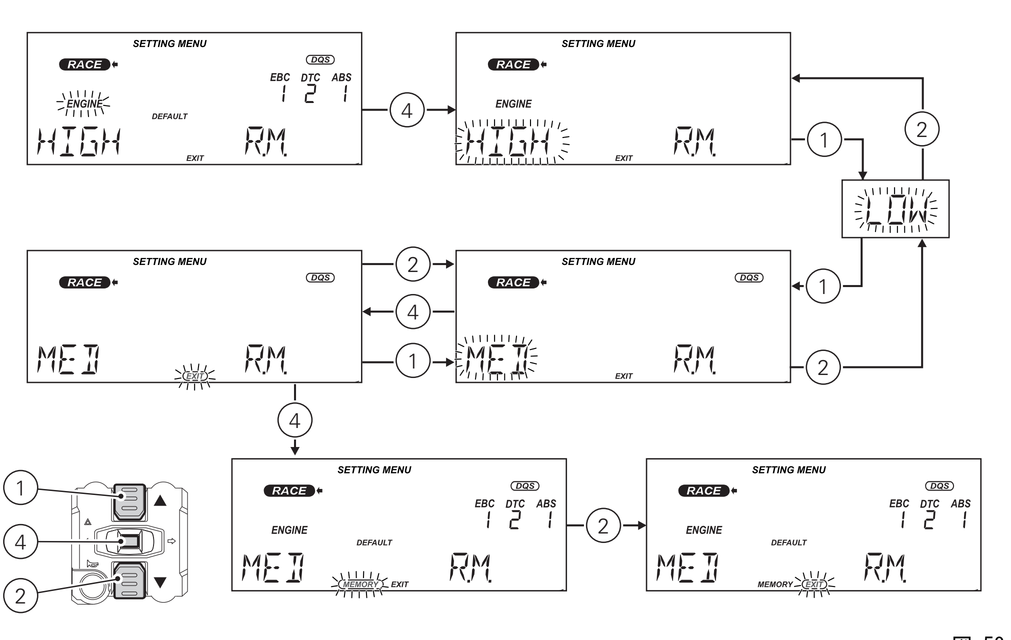
図 57

ライディングモードのパーソナライズ: エンジンの調整

ここでは各ライディングモードに連動したエンジン出力を設定することができます。
設定メニューに入ります。 ボタン (1) またはボタン (2) を押し、R.M. (ライディングモード) を選択します。
機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。 R.M. (ライディングモード) メニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して、希望のライディングモード (RACE、SPORT、WET) を選択します。 希望のライディングモードを選択 (ライディングモード点滅の横に矢印) したら、メニュー決定ボタン (4) を押します。
選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して、パーソナライズするパラメーター (ENGINE) を選択します。希望のパラメーターが強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。
この機能に入ると、現在設定されているエンジン出力 (HIGH、MED、LOW) が点滅します。ボタン (1) および (2) を押し、新しく設定したいエンジン出力を選択します。ボタン (4) を押し、選択を決定します。自動的に数値が点灯表示に移り、"EXIT" の文字が強調表示されます。
メニューを終了して前画面に戻るには、"EXIT" の文字を強調してボタン (4) を押します。インストルメントパネルはメニュー内のひとつ上の画面に戻り、"MEMORY" の文字が自動的に強調表示されます。

参考

ENGINE パラメーターの新設定を保存するには、"ライディングモードのパラメーターの保存" の段落に記載されている "ライディングモードのパラメーターの保存" 手順に従ってください。万一保存の手順を行わずにライディングモードメニューを終了した場合は、選択した設定は無効になります。



SETTING MENU
RACE
DQS
EBC DTC ABS
1 2 1
ENGINE
DEFAULT
HIGH
EXIT
R.M.
LOW
MED
MEMORY
1
2
4

図 58

ライディングモードのパーソナライズ：デフォルト設定の回復

ここではそれぞれのライディングモードに連動したパラメーターをドゥカティが設定したデフォルト値に回復させることができます。設定メニューに入ります。
ボタン（1）またはボタン（2）を押し、R.M.（ライディングモード）を選択します。 機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。 R.M.（ライディングモード）メニューに入ります。 ボタン（1）または（2）を押して、希望のライディングモード（RACE、SPORT、WET）を選択します。 希望のライディングモードを選択（ライディングモード点滅の横に矢印）したら、メニュー決定ボタン（4）を押します。
選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。 ボタン（1）または（2）を押して、パーソナライズするパラメーター（DEFAULT）を選択します。希望のパラメーターが強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を 2 秒間押します。

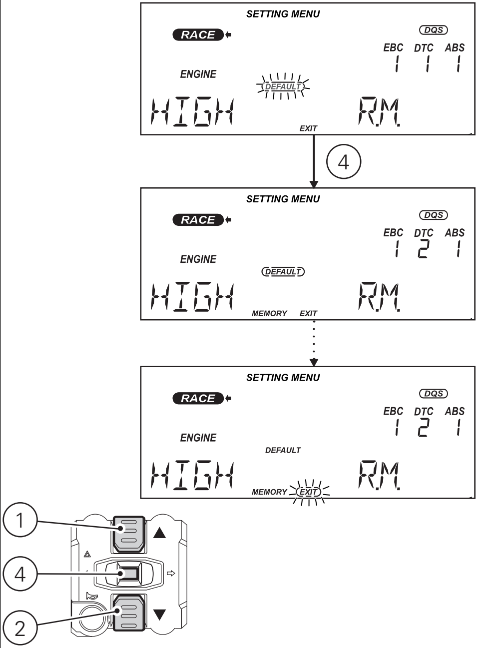


図 59

設定が回復されるまで、″DEFAULT″ の文字とその枠が点灯した状態が 2 秒間続きます。その後 ″EXIT″ が自動的に強調表示されます。
メニューを終了して設定メニューの最初のページに戻るには、″EXIT″ の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

エンジン回転数のデジタル表示(RPM)

この機能はエンジン回転数（RPM）をデジタル表示します（より正確な値を得るため、アイドリング中に行うことが推奨されます)。
設定メニューに入ります。 ボタン（1）または（2）を押して RPM を選択します。
機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。
ディスプレイには、エンジン回転数が 50 rpm 単位で表示され、エンジン回転数棒グラフに相当する目盛りが点灯します。
インストルメントパネルが回転数データを受信していない場合、点線 ″- - - - -″ が表示され、エンジン回転数棒グラフが点滅します。これは値が表示できないことを示しています。
メニューを終了して設定メニューの最初のページに戻るには、″EXIT″ の文字を強調表示し、ボタン（4）を押します。

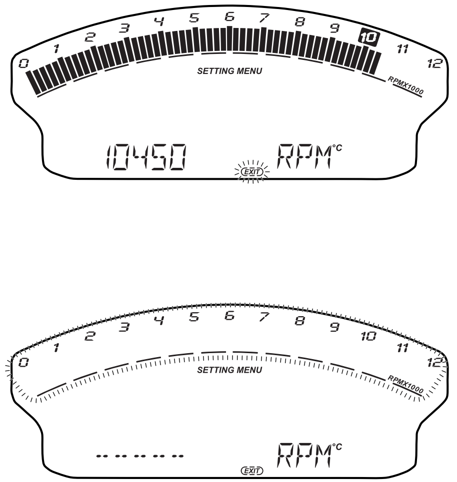


図 60

バッテリー電圧

ここでは車両のバッテリー電圧レベルを確認することができます。設定メニューに入ります。 ボタン (1) またはボタン (2) を押し、BAT. (バッテリー) を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。 BAT. (バッテリー) メニューに入ります。
ディスプレイ上には以下のように表示されます。

- バッテリー電圧が 11.0 V 未満の場合、"LOW" の文字が点滅表示されます。
- バッテリー電圧が 11.0 V から11.7 V の場合、電圧データが点滅表示されます。
- バッテリー電圧が 11.8 V から14.9 V の場合、電圧データが固定表示されます。
- バッテリー電圧が 15.0 V から16.0 V の場合、電圧データが点滅表示されます。
- バッテリー電圧が 15.0 V を超える場合、"HIGH" の文字が点滅表示されます。

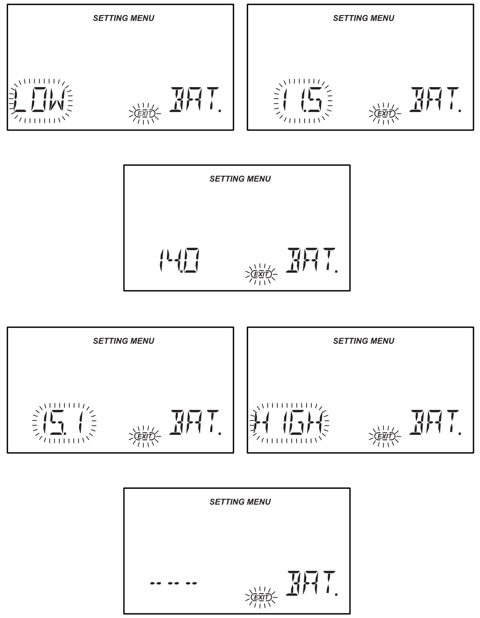


図 61

バッテリー電圧エラーの場合、インストルメントパネルの電圧値には " - - - " が点滅し、EOBD ランプ、警告マークが点灯します。またエラーメニューに "BATT." エラーが表示されます。
インストルメントパネルがバッテリー電圧値を受信していない場合は、点線 "- - -" が表示されます。
メニューを終了して設定メニューの最初のページに戻るには、"EXIT" の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

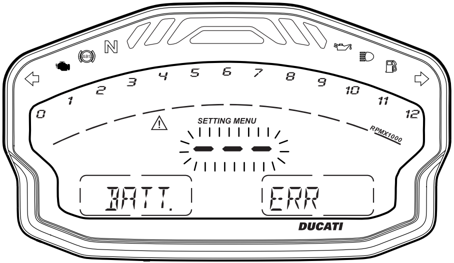


図 62

DDA

ここでは DDA 装置の起動および解除、メモリー占有率の表示、装置のメモリー削除を行うことができます。

DDA に関するページは車体に装置が搭載されている場合にのみ使用することができます。

DDA の起動/解除

DDA データロガー装置の起動/解除を行うには、まず設定メニューに入ります。ボタン（1）または（2）を押して DDA を選択します。
機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。
DDA メニューに入ります。
この機能に入ると、現在設定されている DDA ステータスが表示されています。DDA が起動している時は″ON″、DDA が解除されている時は″OFF″が表示されます。
ボタン（1）および（2）で新しく設定したいステータスを選択し（表示が点滅すると選択状態にあります）、ボタン（4）を押して決定します。
ステータスが新しく設定され、表示が点滅から固定表示に戻ります。
メニューを終了して前の画面に戻るには、″EXIT″の文字を強調表示し、ボタン（4）を押します。

参考
Key-OFF する度に DDA システムはインストルメントパネルにより自動的に解除されます。

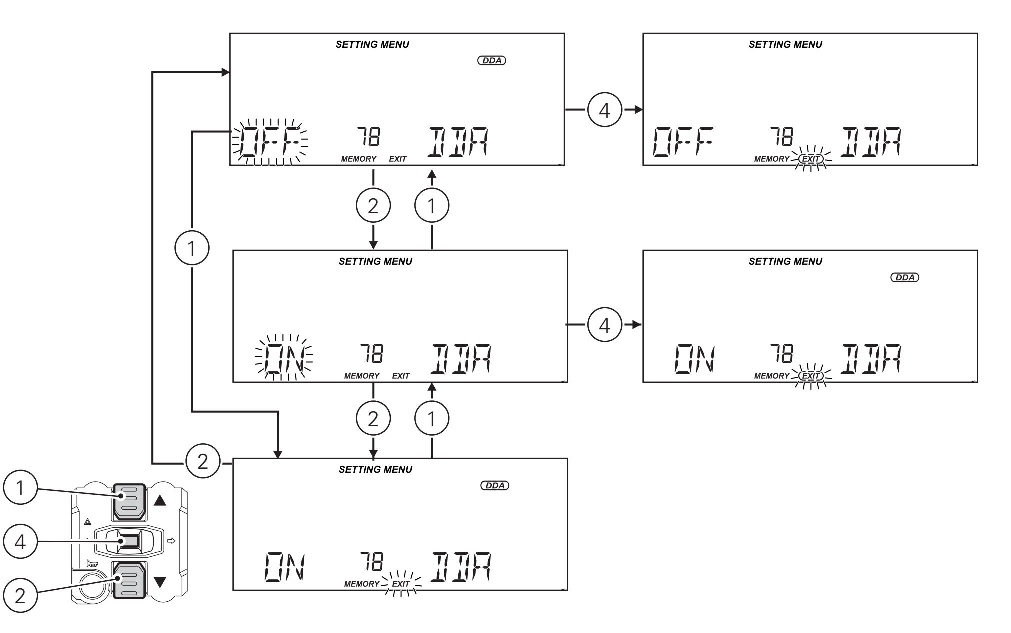


図 63

DDA メモリーの表示/削除

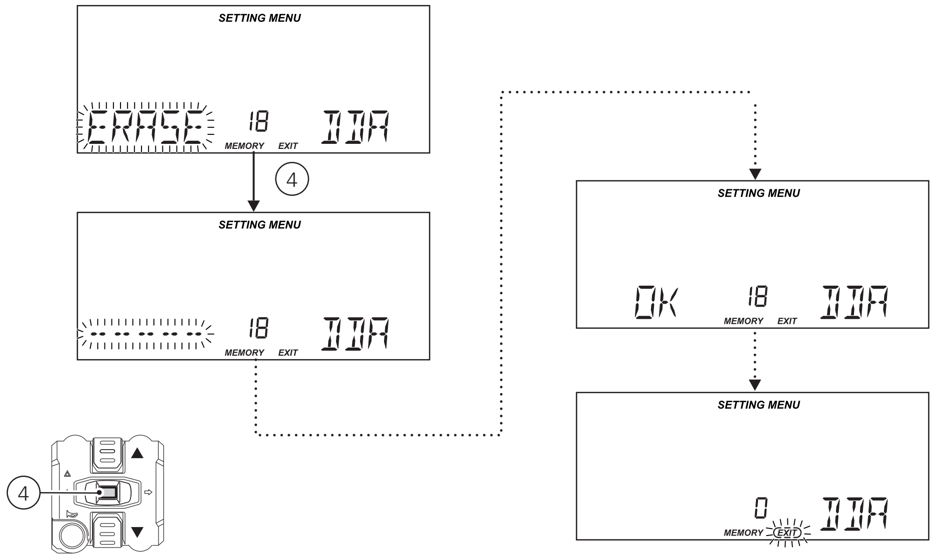
この機能では DDA メモリーステータスの表示と DDA メモリー内保存データの削除を行います。
この機能に入るには、まず設定メニューに入ります。ボタン（1）または（2）で DDA を選択し、ボタン（4）を押します。
この機能に入ると、DDA メモリーステータスと ″MEMORY″ の文字が表示され、表示される数字はメモリー占有率（パーセンテージ）を示します。

- ″0″ は、DDA に保存データがないことを示します。
- ″XX″ は、DDA メモリーの XX パーセントが使用中であることを示します。
- ″100″ は、DDA メモリーがフルであることを示します。

DDA が OFF の場合、メモリーを削除することができます。ボタン（1）または（2）を押し、点滅している ″ERASE″ を選択します。
メニュー決定ボタン（4）を 2 秒間押して決定します。
2 秒後、完全にデータが消去されるまでインストルメントパネルに点線 ″－－－－－－″ が点滅します（削除するデータ量に応じて 1～128 秒かかります）。
削除が正常に行われると、インストルメントパネルは ″OK″ を 2 秒間表示し、ディスプレイのメモリーステータスの表示を更新します。削除に失敗した場合、インストルメントパネルはメモリー占有率の表示に戻ります。
メニューを終了して前の画面に戻るには、″EXIT″ の文字を強調表示し、ボタン（4）を押します。

警告

DDA 装置が ″ON″ の状態にある時は、削除機能や ERASE キーの選択はできません。



SETTING MENU
ERASE
18
MEMORY
EXIT
4
SETTING MENU
18
MEMORY
EXIT
SETTING MENU
OK
18
MEMORY
EXIT
SETTING MENU
0
MEMORY
EXIT
4

図 64

Pin Code

この機能は、E-Lock システムに不具合が生じた場合に車両を一時的に起動します。
PIN CODE は最初車両に登録されていませんので、ユーザーが 4 桁の PIN をインストルパネルに入力して有効にします。これを行わないと、不具合が生じた場合に一時起動することができません。起動するには ″PIN CODE の入力″ の手順に従います。
PIN を変更するには ″PIN CODE の変更″ の手順に従います。
E-Lock システムに不具合が生じた際に車両を一時的に起動するには、″車両のブロック解除″ の手順に従います。

警告
PIN CODE は車両の所有者が設定（登録）しなければなりません。PIN がすでに設定されている場合には、Ducati 正規ディーラーに機能の ″リセット″ を依頼してください。機能のリセットを実施する際、Ducati 正規ディーラーは車両の所有者確認をさせていただくことがあります。

PIN CODEの入力

PIN CODE 機能を有効にし、PIN CODE を入力するには、設定メニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して PIN を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。
この機能に入ると、"N:" (NEW) の表示に続いて点線 "- - - -" が点滅します。

コードの入力：

1) ボタン (4) を押すと、"0" で表示される 1 桁のみが点滅します。
2) ボタン (2) を押す度に数字が 9 までひとつずつ大きくなり、その後 "0" に戻ります。
3) ボタン (1) を押す度に数字が 1 までひとつずつ小さくなり、その後 "0" に戻ります。
4) ボタン (4) を押して数字を決定します。

この手順を繰り返し、PIN CODE の 4 桁すべての数字を決定します。

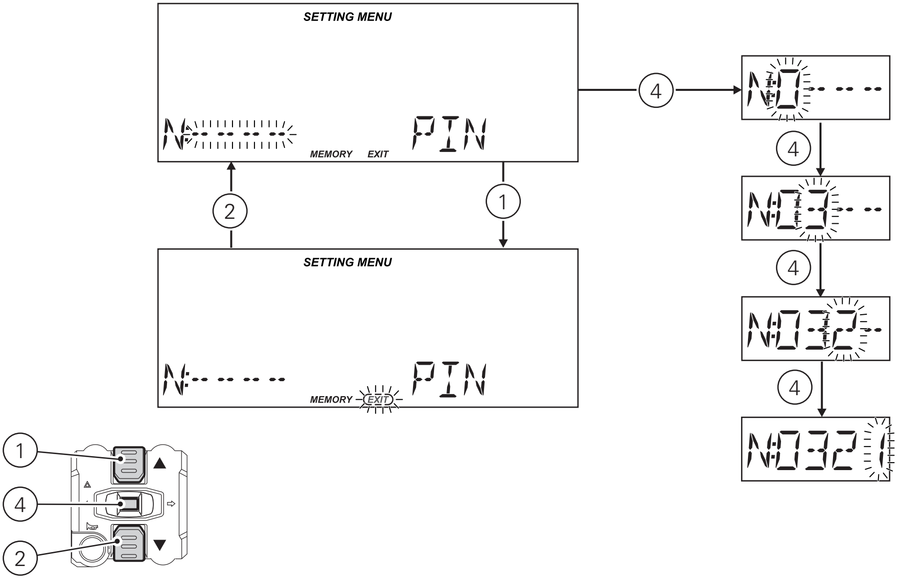

SETTING MENU
N:-- -- -- --
MEMORY
EXIT
PIN
SETTING MENU
N:-- -- -- --
MEMORY
EXIT
PIN
N:0- -- --
N:03- --
N:032-
N:0321
1
2
4
4
4
4
4
1
4
2

図 65

ボタン（4）を押して最後の桁を決定すると、"MEMORY" の文字が強調表示され、その枠が点滅します。
新しい設定を保存するには、"MEMORY" の文字が強調表示された状態でボタン（4）を 2 秒間押します。
保存が正しく完了すると、"MEMORY" の文字とその枠が点滅をやめ 2 秒間表示され、その後 "EXIT" の文字が強調表示されます。
最初の PIN CODE を設定して以降はメニューから PIN CODE 登録ページに入ることができなくなり、代わりに PIN CODE の変更のページになります。PIN CODE 機能がリセットされた場合（Ducati 正規ディーラーのみ行うことが可能）に限り、最初の PIN CODE の登録ページが有効になり、メニューから入ることができるようになります。

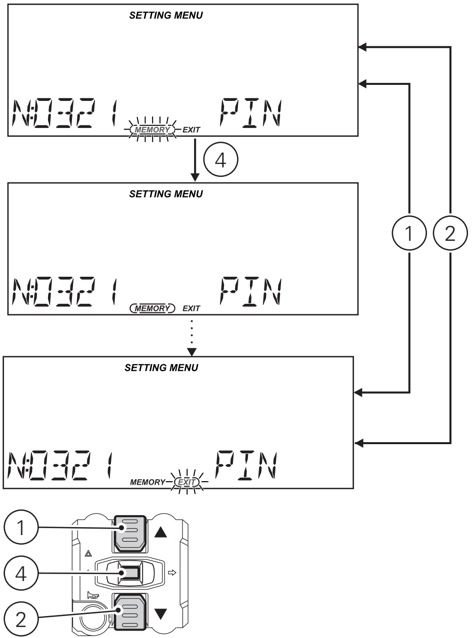


図 66

PIN CODEの変更

すでに登録されている PIN を変更し、新しい PIN を有効にするには、設定メニューに入ります。
ボタン（1）または（2）を押して PIN を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。 この機能に入ると、"O:"（OLD）の表示に続いて点線 "- - - -" が点滅します。

古いコードの入力：

1） ボタン（4）を押すと、"0" で表示される 1 桁のみが点滅します。
2） ボタン（2）を押す度に数字が 9 までひとつずつ大きくなり、その後 "0" に戻ります。
3） ボタン（1）を押す度に数字が 1 までひとつずつ小さくなり、その後 "0" に戻ります。
4） ボタン（4）を押して数字を決定します。

この手順を繰り返し、PIN CODE の 4 桁すべての数字を決定します。

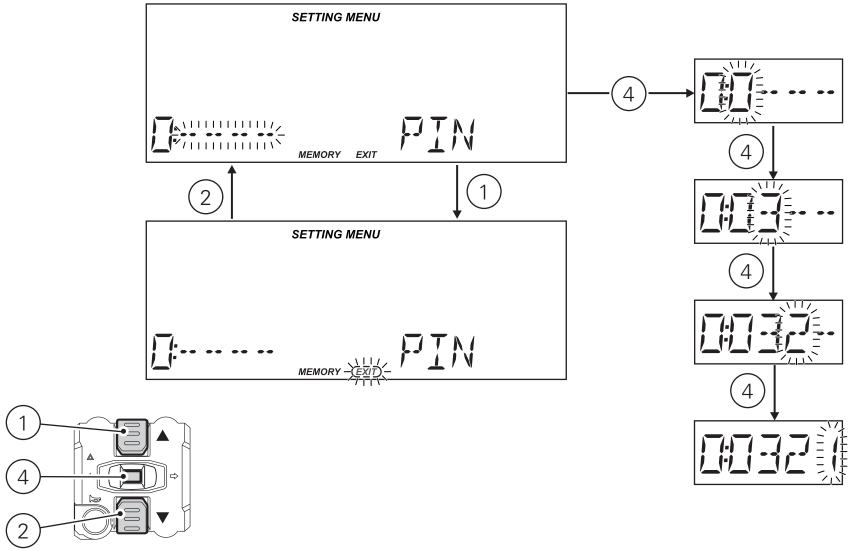

SETTING MENU
MEMORY
EXIT
PIN
SETTING MENU
MEMORY
EXIT
PIN
1
4
2
1
2
4
4
4
4

図 67

ボタン (4) を押して 4 桁すべての数字を決定した際、

- 正しい PIN CODE が入力されると、インストルメントパネルは "OK" を 2 秒間表示します。その後、" N: " (NEW) の表示に続いて新しい PIN を入力する点線 "- - - -" が表示されます。
- PIN CODE が正しくない場合、インストルメントパネルは "KO" を 2 秒間表示し、その後古い PIN を入力する点線 "- - - -" を強調表示します。もう一度 PIN CODE を入力してください。
- PIN CODE の確認中に問題が発生した場合、インストルメントパネルは "ERR." を 2 秒間表示し、その後 "EXIT" の文字を強調表示します。

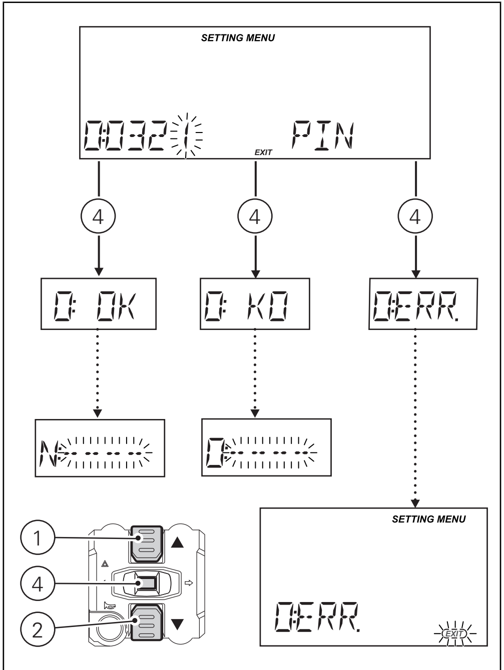


図 68

新しいコードの入力：

1） ボタン（4）を押すと、″0″ で表示される 1 桁のみが点滅します。
2） ボタン（2）を押す度に数字が 9 までひとつずつ大きくなり、その後 ″0″ に戻ります。
3） ボタン（1）を押す度に数字が 1 までひとつずつ小さくなり、その後 ″0″ に戻ります。
4） ボタン（4）を押して数字を決定します。

この手順を繰り返し、PIN CODE の 4 桁すべての数字を決定します。

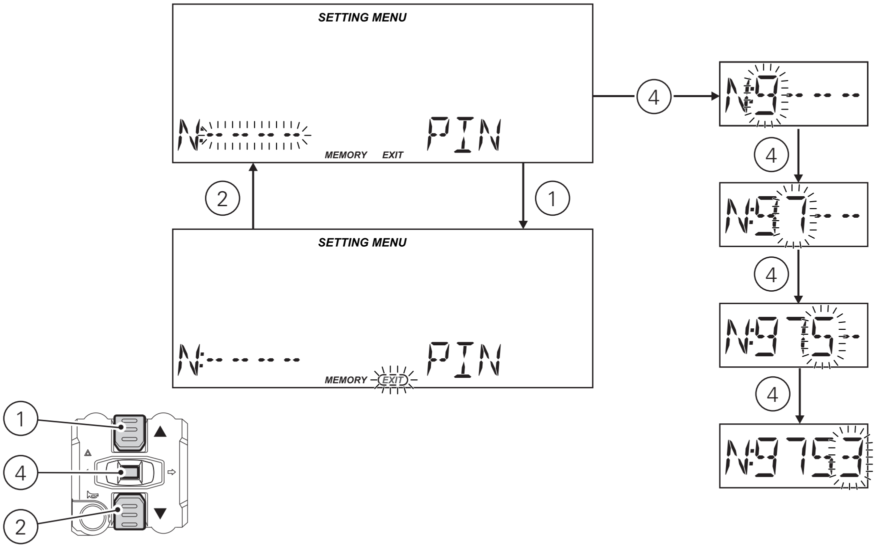

SETTING MENU
MEMORY
EXIT
PIN
SETTING MENU
MEMORY
EXIT
PIN
1
2
4
4
4
4
1
4
2

図 69

ボタン (4) を押して最後の桁を決定すると、"MEMORY" の文字が強調表示され、その枠が点滅します。
新しい設定を保存するには、"MEMORY" の文字が強調表示された状態でボタン (4) を 2 秒間押します。
保存が正しく完了すると、"MEMORY" の文字とその枠が点滅をやめ 2 秒間表示され、その後 "EXIT" の文字が強調表示されます。
保存に失敗した場合、インストルメントパネルは新しい PIN を入力する点線 "- - - -" を強調表示します。 もう一度新しい PIN CODE を入力してください。

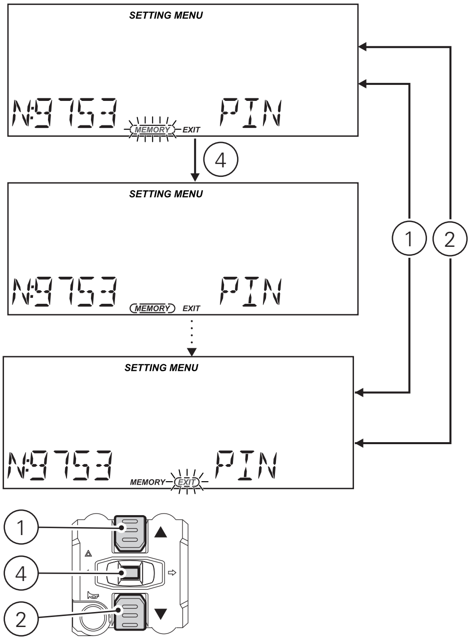


図 70

時計

この機能は時計の調整/設定をします。
時計の調整を行うには、まず設定メニューに入ります。ボタン (1) または (2) で "CLK" を選択し、ボタン (4) を押します。機能に入ると、現在の時刻 (例 : AM 10 : 30) が表示され、"AM" または "PM" が点滅します。
ボタン (1) または (2) を押すと "AM" または "PM"、"時間"、"分"、"EXIT" の順に点滅します。

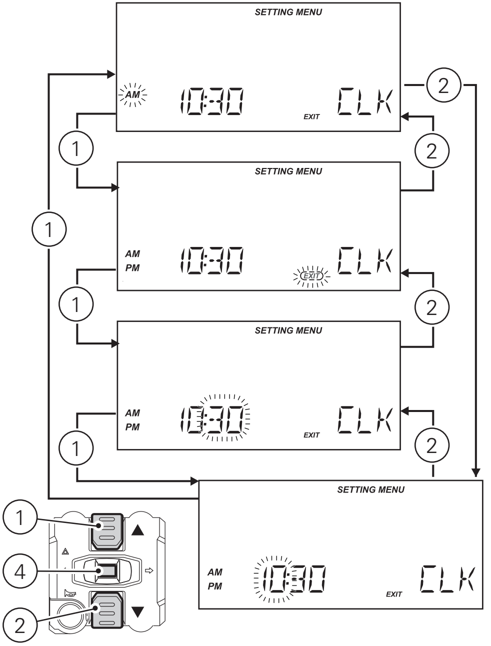


図 71

時間の調整

ボタン（1）および（2）で″時間″を表す数字を選択し（表示が点滅すると選択状態にあります）、ボタン（4）を押して決定します。″時間″データが高速で点滅します。ボタン（1）および（2）を押すと、″時間″の値が 1 づつ小さくなるか（AM の時は ″0″、″11″.....″1″、″0″、PM の時は ″12″、″11″......″1″、″12″）、1 つづ大きくなります（AM の時は ″11″、″0″、″1″.....″11″、PM の時は ″12″、″1″......″12″）。希望の値に達したら、メニュー決定ボタン（4）を押します。設定された ″時間″ が固定表示に代わります。

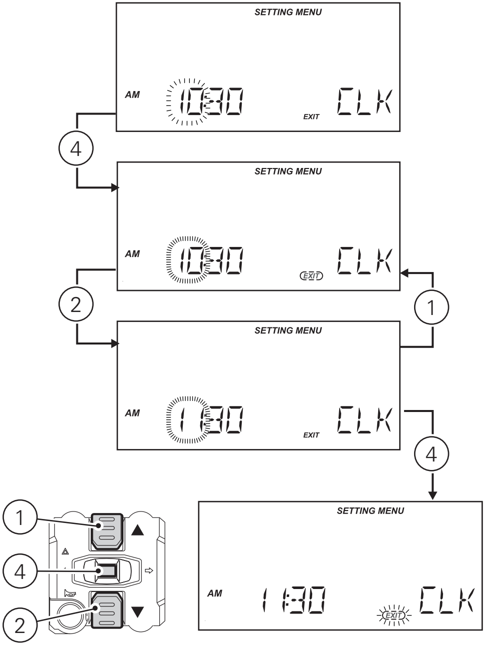


図 72

分の調整

ボタン（1）および（2）で”分”を表す数字を選択し（表示が点滅すると選択状態にあります）、ボタン（4）を押して決定します。”分”データが高速で点滅します。ボタン（1）および（2）を押すと、”分”の値が 1 づつ小さくなるか（”59”、”58”.....”00”、”59”）、1 つづ大きくなります（”00”、”01”.....”59”、”00”）。希望の値に達したら、メニュー決定ボタン（4）を押します。設定された”分”が固定表示に代わります。

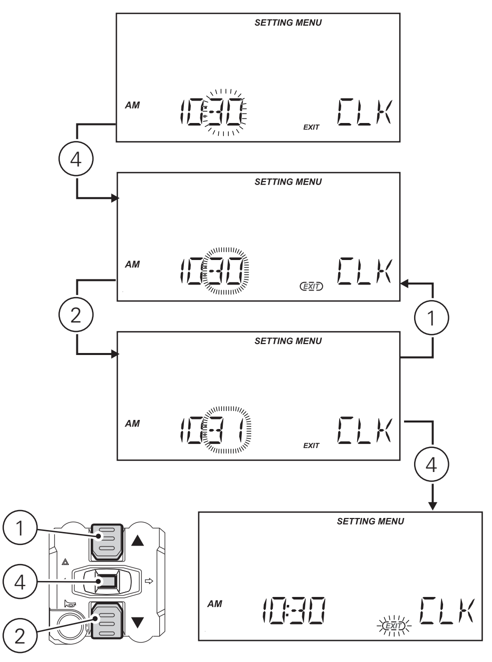


図 73

AM/PM の調整

ボタン（1）および（2）で"AM"または"PM"を選択し（表示が点滅すると選択状態にあります）、ボタン（4）を押して決定します。"AM/PM"データが高速で点滅します。ボタン（1）および（2）で"AM"と"PM"を切り替えます。希望の値に達したら、メニュー決定ボタン（4）を押します。設定された"AM/PM"が固定表示に代わります。

参考

バッテリーが切断される度に時計の情報はリセットされますでの、ユーザーは再度設定する必要があります。

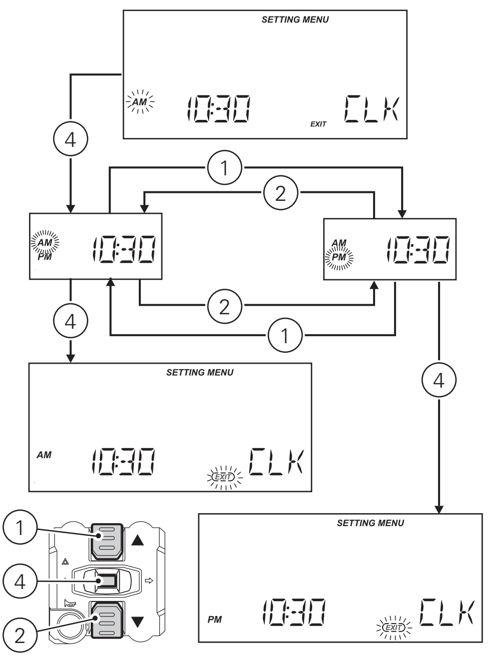


図 74

バックライトの設定

この機能では、ユーザーがバックライトの明るさを選択することができます。

バックライトの調整を行うには、まず設定メニューに入ります。ボタン（1）または（2）で"B.L."を選択し、ボタン（4）を押します。

この機能に入ると、現在使用中のモードが点滅する文字で強調表示します。

ボタン（1）および（2）で希望の明るさ（HIGH、MED、LOW）を選択し、ボタン（4）を押して決定します。

ユーザーが選択した明るさモードが固定表示され、バックライト設定が即座にインストルメントパネルに反映され、"EXIT"の文字が自動的に強調表示されます。

HIGH 設定を選択すると、ディスプレイは 100% の明るさに設定されます。外光が強い時の使用に適します。

MED 設定を選択すると、ディスプレイは 70% の明るさに設定されます。外光が中程度/弱い時の使用に適します。

LOW 設定を選択すると、ディスプレイは 50% の明るさに設定されます。外光が非常に弱い時や暗闇での使用に適します。

メニューを終了して前の画面に戻るには、"EXIT"の文字を強調表示し、ボタン（4）を押します。

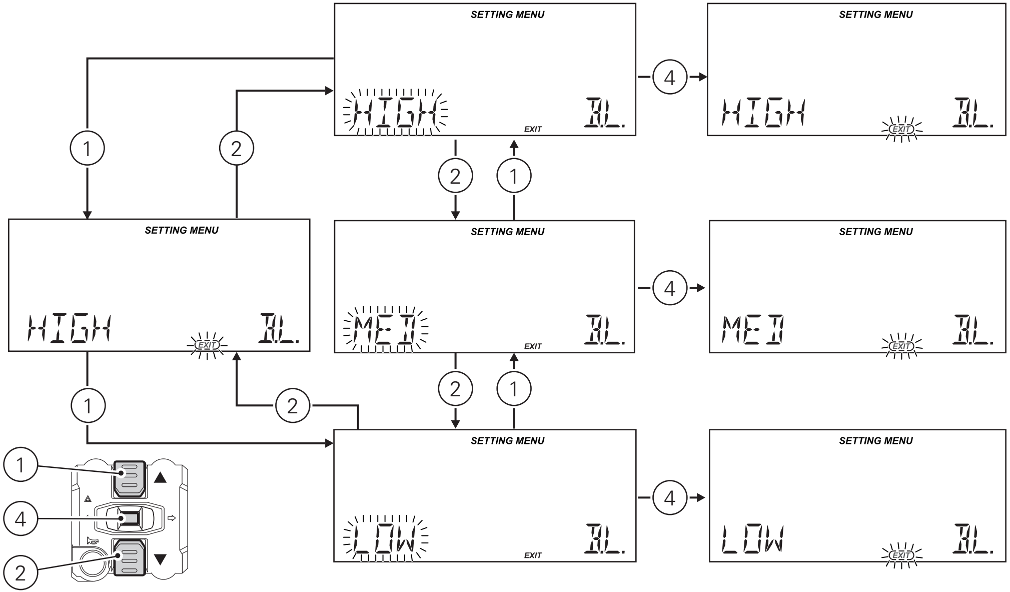

SETTING MENU
HIGH
B.L.
EXIT
4
SETTING MENU
HIGH
EXIT
B.L.
1
2
SETTING MENU
HIGH
EXIT
B.L.
2
1
SETTING MENU
MED
EXIT
B.L.
4
SETTING MENU
MED
EXIT
B.L.
1
2
2
1
SETTING MENU
LOW
EXIT
B.L.
4
SETTING MENU
LOW
EXIT
B.L.
1
4
2

図 75

LAP

LAP 機能は、設定メニューの LAP ページから起動/解除することができます。機能が有効になると、メイン画面のメニュー1 に停止した状態のストップウォッチ（ 0’ 00’’ 00 ）が表示されます。

参考

LAP 機能が起動中、FLASH ボタンはハイビームの点滅とストップウォッチのラップ Start / Stop 操作（新しい周回の開始指示）の両方に使用します。

LAP 記録の起動/解除

LAP 記録の起動/解除を行うには、まず設定メニューに入ります。ボタン（1）または（2）で LAP を選択し、ボタン（4）を押します。
この機能に入ると、現在設定されている LAP 機能ステータスが表示されます。ボタン（1）および（2）で新しく設定したいステータスを選択し（表示が点滅すると選択状態にあります）、ボタン（4）を押して決定します。ステータスが新しく設定され、表示が点滅から固定表示に戻ります。
メニューを終了して前の画面に戻るには、″EXIT″ の文字を強調表示し、ボタン（4）を押します。
LAP 機能ステータス ″OFF″ は LAP 機能が解除された状態、″ON″ は起動状態になります。″DATA″ を選択すると、メモリーされている LAP の表示に移ります（A）。一方 ″ERASE″ を選択すると、メモリーされている LAP を削除することができます（B）。

参考

Key-OFF 時に ″ LAP ″ 機能ステータスは保存され、次回の Key-ON 時に保存されたステータスを回復します。

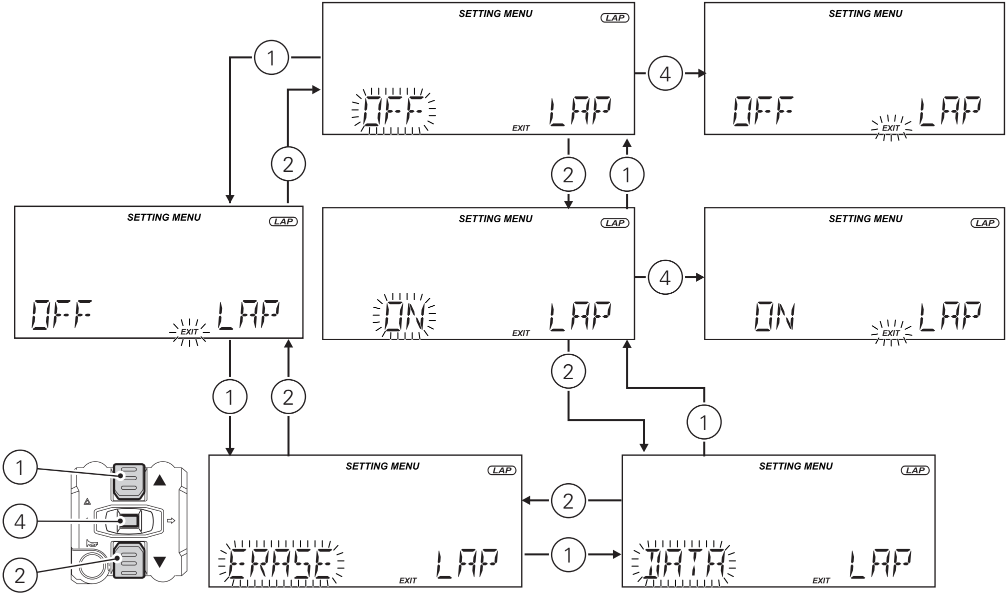


図 76

メニューの”LAP の記録”機能を使用して、すでにメモリーされている LAP をディスプレイに表示することができます。
表示可能な情報はラップタイム、最大回転数（rpm）、最高スピードです。さらに、メモリーされている LAP を削除することができます。

メモリーされている LAP の表示

メモリーされている LAP を表示するには、設定メニューに入ります。
ボタン（1）または（2）を押して LAP を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。
ボタン（1）および（2）で ″DATA″ を選択し（表示が点滅すると選択状態にあります）、ボタン（4）を押して決定します。
機能に入ると以下の内容が表示されます。

- LAP の文字の後、LAP 数（例：LAP 01）
- ″n″ の文字の後、LAP 数（例：n01）
- 記録されたラップタイム
- ラップ中に記録された最高スピード
- ラップ中に記録された RPM

ボタン（1）および（2）を押すとメモリーされた LAP をひとつずつ表示することができます。特に以下のように表示されます。ボタン（2）を押すと、次のラップが表示されます（LAP 01 ... LAP 02 ... LAP 03 ..... LAP 30 のようにラップを昇順で表示）。その後 ″EXIT″ の文字が表示されます。ボタン（1）を押すと、前のラップが表示されます（LAP 30 ... LAP 29 ... LAP 28 ..... LAP 01のようにラップを降順で表示）。その後 ″EXIT″ の文字が表示されます。
メニューを終了して前の画面に戻るには、″EXIT″ の文字を強調表示し、ボタン（4）を押します。

参考

記録最高スピードはラップ中に到達した速度です（5 % 増大させたもの）。

参考

メモリーにデータが記録されていない場合、ストップウォッチ ″-.--.--″、最大回転数 MAX = ------、最高スピード MAX = ----- が表示されます。

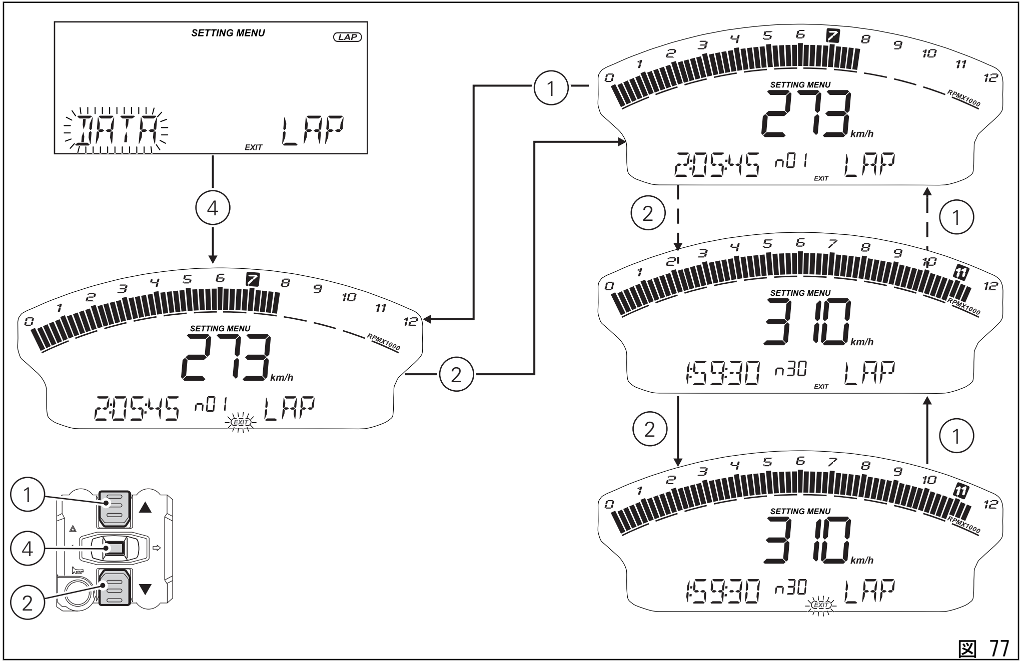

SETTING MENU
LAP
DATA
EXIT
LAP
4
1
2
SETTING MENU
273
km/h
2:05:45 n01 LAP
EXIT
1
2
1
2
1
2
4
310
1:59:30 n30
RPMX1000

図 77

メモリーされている LAP の削除

メモリーされている LAP を削除するには、設定メニューに入ります。
ボタン（1）または（2）を押して LAP を選択します。
機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。
ボタン（1）および（2）で "ERASE" を選択し（表示が点滅すると選択状態にあります）、ボタン（4）を 2 秒間押して決定します。
2 秒後、インストルメントパネルのディスプレイに以下が表示されます。

- 5 本の点線 "- - - - -" を 3 秒間。
- "OK" の文字を 2 秒間。削除の結果を表示しています。

メモリーされているすべてのラップが一度に削除されます。
削除が終了すると、インストルメントパネルは "EXIT" の文字を表示します。

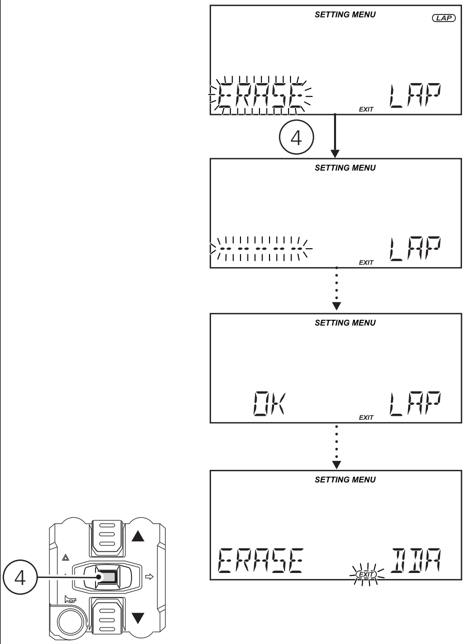


図 78

サブメニューの ″DATA″ 内でも、メモリーされている LAP を削除することができます。″DATA″ ページに入ると、メモリーされている LAP の情報が表示されます（″メモリーされている LAP の表示″ の段落を参照）。
ボタン（4）を押して ″ERASE″ を強調表示します。
ボタン（4）を 2 秒間押して削除を決定します。
2 秒後、インストルメントパネルのディスプレイに以下が表示されます。

- 5 本の点線 ″- - - - -″ を 3 秒間。
- ″OK″ の文字を 2 秒間。削除の結果を表示しています。

メモリーされているすべてのラップが一度に削除されます。
削除終了後、ラップ ″01″ から ″30″ のパラメーターはすべて空白表示 ″-″ されます（ラップタイム = –’ – –’ ’ – – 、回転数 = – – – – – – 、スピード = – – – ）。

メニューを終了して前の画面に戻るには、″EXIT″ の文字を強調表示し、ボタン（4）を押します。

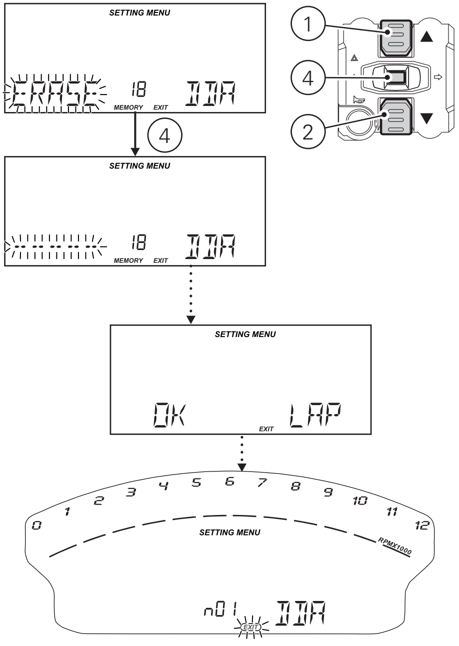


図 79

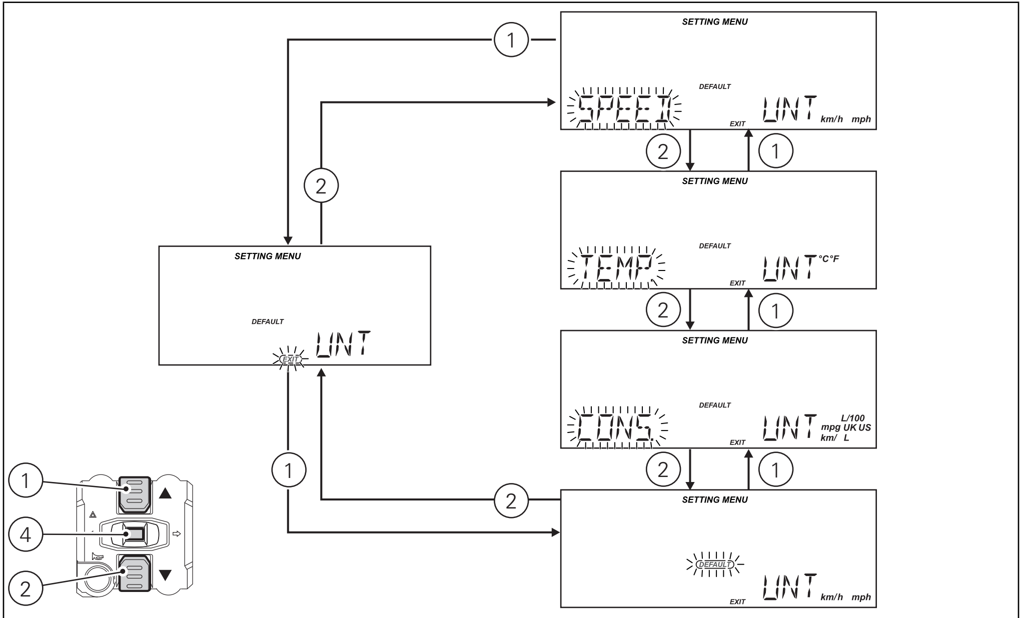
単位の設定

この機能では、使用する国に関わらず、表示される単位を変更することができます。
手動で単位の設定を行うには、設定メニューに入ります。
ボタン（1）または（2）を押して UNT を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。

この機能に入ると、ボタン（1）および（2）で単位を新しく設定したい測定項目、または自動設定回復を選択します。

- スピード（SPEED）
- 温度（TEMP.）
- 燃費（CONS.）
- 自動設定回復（DEFAULT）

メニューを終了して前の画面に戻るには、"EXIT" の文字を強調表示し、ボタン（4）を押します。



SETTING MENU
DEFAULT
EXIT
UNT
SPEED
km/h mph
TEMP.
°C°F
CONS.
L/100
mpg UK US
km/ L
1
2
4

図 80

単位の設定：スピード

この機能ではスピードの単位を変更することができます（走行距離の単位も同時に変更します）。この機能に入るには、まず設定メニューに入ります。ボタン（1）または（2）で UNT を選択し、ボタン（4）を押します。ボタン（1）または（2）を押して"SPEED"を選択します。
"SPEED"機能が強調表示されたら（A）、メニュー決定ボン（4）を押します。機能の入ると、現在設定されている単位が点滅表示され、選択可能な単位のリスト km/h、mph が表示されます。ボタン（1）および（2）を押すと、希望の単位を強調表示することができます。ボタン（1）を押すと次の単位が、ボタン（2）を押すと前の単位が強調表示されます。希望の単位を選択したら、メニュー決定ボタン（4）を押します。選択した単位がインストルメントパネルに保存され、単位が固定表示に戻ると、"EXIT"の文字が自動的に強調表示されます。
選択した単位はインストルメントパネルで以下の測定に使用されます。

- 車両スピード、平均スピード（km/h または mph）
- オドメーター、トリップメーター A、トリップメーター B、燃料リザーブトリップメーター（km または miles）

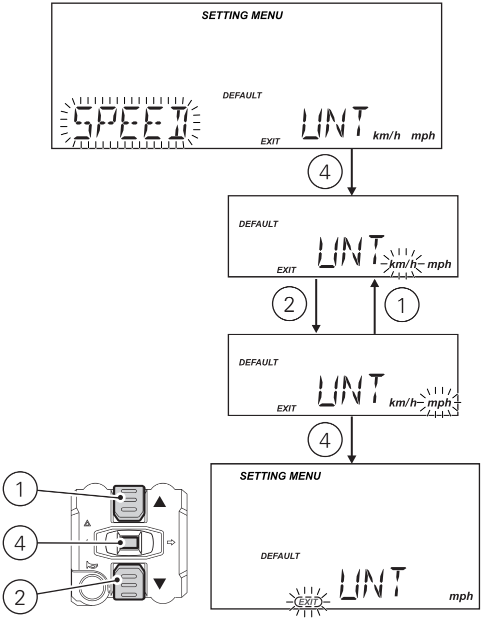


図 81

単位の設定：温度

この機能では温度の単位を変更することができます。この機能に入るには、まず設定メニューに入ります。ボタン (1) または (2) で UNT を選択し、ボタン (4) を押します。
ボタン (1) または (2) を押して "TEMP" を選択します。
TEMP 機能が強調表示されたら (B)、メニュー決定ボン (4) を押します。
機能に入ると、現在設定されている単位が点滅表示され、選択可能な単位のリスト ° C、° F が表示されます。
ボタン (1) および (2) を押すと、希望の単位を強調表示することができます。ボタン (1) を押すと次の単位が、ボタン (2) を押すと前の単位が強調表示されます。 希望の単位を選択したら、メニュー決定ボタン (4) を押します。選択した単位がインストルメントパネルに保存され、単位が固定表示に戻ると、"EXIT" の文字が自動的に強調表示されます。
選択した単位はインストルメントパネルで以下の測定に使用されます。

- エンジンクーラント温度および外気温

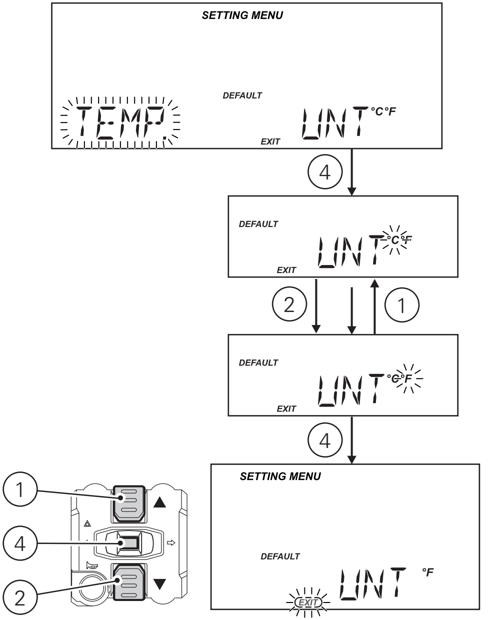


図 82

単位の設定：燃費

この機能では燃費の単位を変更することができます。この機能に入るには、まず設定メニューに入ります。ボタン（1）または（2）で UNT を選択し、ボタン（4）を押します。

ボタン（1）または（2）を押して "CONS." を選択します。CONS. 機能が強調表示されたら（C）、メニュー決定ボタン（4）を押します。機能の最初に現在使用している単位が表示され、その後使用可能な単位のリスト L / 100km、km / L、mpg（UK）、mpg（USA）が表示されます。

ボタン（1）および（2）を押すと、希望の単位を強調表示することができます。ボタン（1）を押すと次の単位が、ボタン（2）を押すと前の単位が強調表示されます。

希望の単位を選択したら、メニュー決定ボタン（4）を押します。選択した単位がインストルメントパネルに保存され、単位が固定表示に戻ると、"EXIT" の文字が自動的に強調表示されます。

選択した単位はインストルメントパネルで以下の測定に使用されます。

- 瞬間燃費および平均燃費

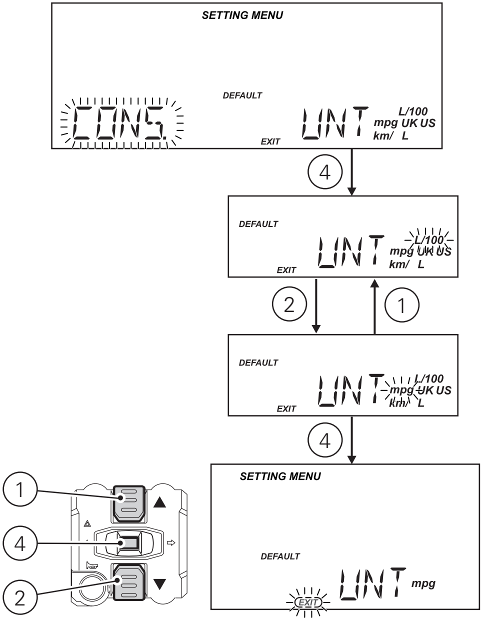


図 83

単位の設定：自動設定回復

この機能では、インストルメントパネルに表示されるすべての測定単位の自動設定を回復することができます。
この機能に入るには、まず設定メニューに入ります。ボタン（1）または（2）で UNT を選択し、ボタン（4）を押します。 ボタン（1）または（2）を押して "DEFAULT" を選択します。
DEFAULT 機能が強調表示されたら（D）、メニュー決定ボタン（4）を 2 秒間押します。2 秒後、"DEFAULT" の文字とその枠がディスプレイに 2 秒間表示されます。その後 "EXIT" が自動的に強調表示されます。
メニューを終了して前の画面に戻るには、"EXIT" の文字を強調表示し、ボタン（4）を押します。

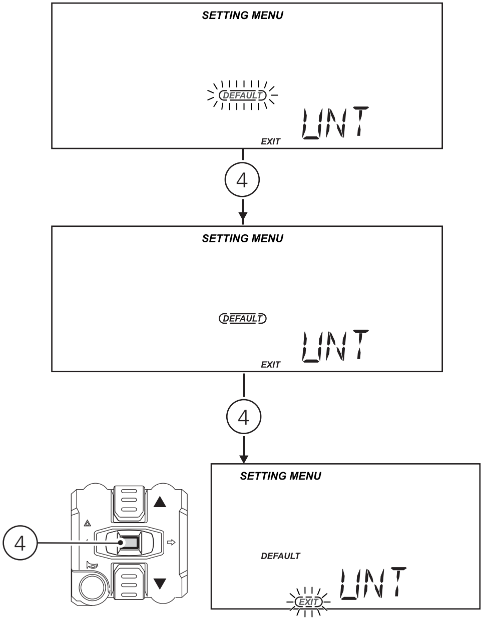


図 84

単位表

	オドメーター（TOT） トリップメーター A（TRIPA） トリップメーター B（TRIPB） 燃料リザーブトリップメーター（TRIP FUEL）	スピード 平均スピード	エンジン温度（T_ENGINE） 外気温（T_AIR）	瞬間燃費 平均燃費
ヨーロッパ	km	km/h	°C	l/100km
UK	miles	mph	°C	mpg UK
USA	miles	mph	°F	mgp USA
カナダ	km	km/h	°C	l/100km
フランス	km	km/h	°C	l/100km
日本	km	km/h	°C	l/100km
ブラジル	km	km/h	°C	l/100km
台湾	km	km/h	°C	l/100km
中国	km	km/h	°C	l/100km

その他の機能

UP-MAP

この機能は、Performance サイレンサーキット（部品番号：96450311B）の取り付けにおいて、UPMAP（キー）装置からエンジンコントロールユニットへパフォーマンス設定をダウンロードする際のインターフェースとして使用します。

警告
"Performance サイレンサー" キットは、サーキット走行専用品です。公道では使用できません。

参考
Performance サイレンサーキット（部品番号：96450311B）は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターでご購入いただけます。

警告
Performance サイレンサーキット（部品番号：96450311B）の取り付けは、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターへご依頼ください。

UP-MAP 装置は Key-ON の状態、かつエンジン停止の状態で使用することができます。

UP-MAP 装置が車両に接続されると、車両が上記の状態にあるかを確認します。すべて確認されると、UP-MAP、エンジンコントロールユニット、インストルメントパネル間で交信を始めます。

UP-MAP 装置が検知されると、枠に囲まれた "UP-MAP" の文字がディスプレイに表示さます。
装置の認証が正しく行われなかった場合は、"FAIL" の文字が 3 秒間表示され、その後 "UNPLG" のメッセージが表れます。車両から装置の接続を切り離してください。

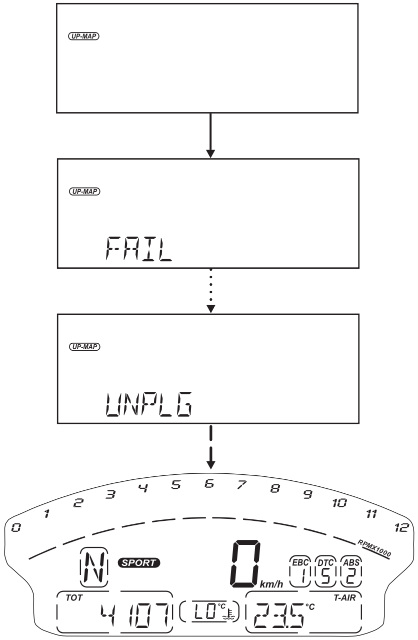


図 85

ダウンロードが可能な場合は、map_name（RACE）が表示され、″OK″ の文字が点滅します。
ボタン（4）を押して設定のダウンロードを承認します。インストルメントパネルには ″DLOAD″ の文字が点滅します。
map_name はコントロールユニットを設定するキャリブレーション名です。Performance サイレンサーのキャリブレーションは ″RACE″ と表示され、純正サイレンサーのキャリブレーションは ″OEM″ と表示されます。
ダウンロード進行中は、ディスプレイに ″DLOAD″ の文字が点滅します（ダウンロードにかかる時間は約 5 秒です）。
ダウンロードが終了すると、″DLOAD″ が固定表示に変わります。すべて正常に終了すると、ディスプレイに ″UNPLG″ のメッセージが表れます。車両から装置の接続を切り離してください。UNPLUG の表示は車両から UP-MAP 装置が切り離されるまで消えません。
車両から UP-MAP 装置が切り離されると、ディスプレイは ″スタンダードスクリーン″ に戻ります。

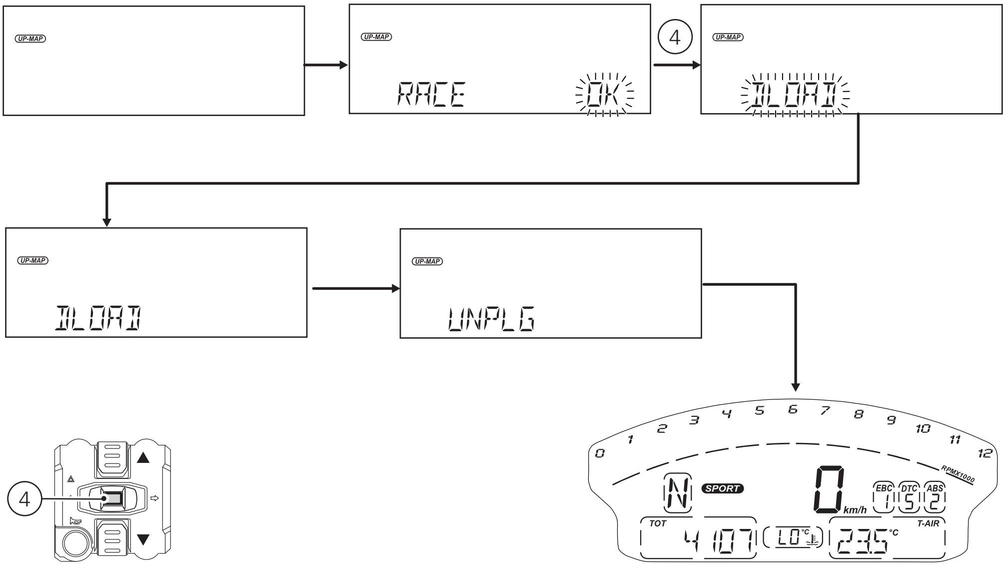

UP-MAP
RACE
OK
4
DLOAD
UNPLG
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
RPMX1000
N
SPORT
0
km/h
EBC
DTC
ABS
1 5 2
TOT
4 107
LO
T-AIR
23.5 °C

図 86

ダウンロードする設定がすでにコントロールユニットに存在しダウンロードができない場合は、"NOMAP"の文字が表示され、"OK" が点滅します。
ボタン (4) を押して終了します。
ボタン (4) を押すか、またはボタン (4) を押さずに10秒経過すると、"UNPLG" のメッセージが表れます。車両から装置の接続を切り離してください。

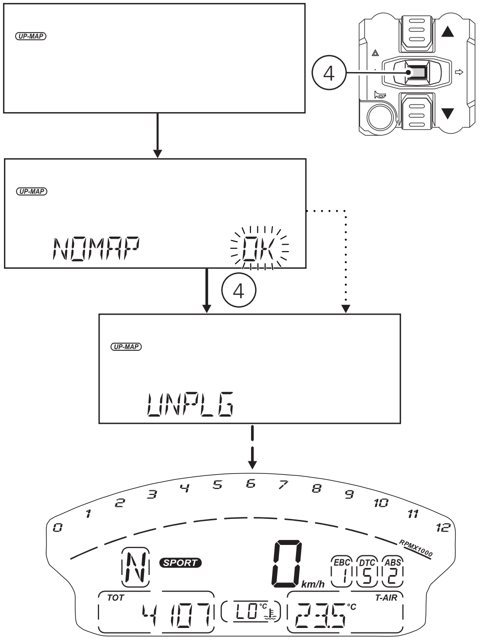


図 87

UP-MAP 装置の不具合が検知された場合、ボタン (4) を押さずに10秒が経過した場合、ダウンロードが正しく行われなかった場合のいずれの場合も "ABORT" の文字が 3 秒間表示され、その後 "UNPLG" の文字が表示されます。

警告

"Performance サイレンサー" キットは、サーキット走行専用品です。公道では使用できません。

参考

設定ダウンロードの作業が終了する前に車両が Key-OFF されたり、UP-MAP 装置の接続が切り離された場合、ダウンロードは無効になります。

参考

車両に UP-MAP 装置が接続されている状態でエンジンを始動することはできません。UP-MAP 装置を接続したまま車両を使用することはできません。

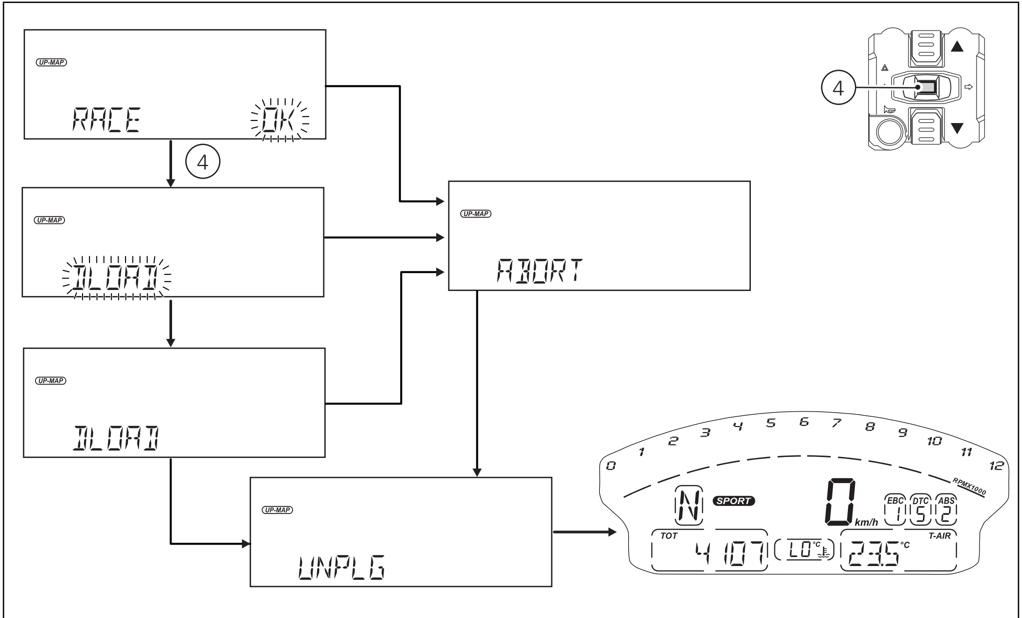

UP-MAP
RACE
OK
4
UP-MAP
DLOAD
UP-MAP
DLOAD
UP-MAP
ABORT
UP-MAP
UNPLG
4
N
SPORT
0
km/h
EBC
DTC
ABS
TOT
T-AIR
RPMX1000

図 88

ランプコントロール
ロービーム/ハイビームランプ

ヘッドランプの点灯および消灯を調整し、バッテリーの消費量を抑えます。
Key-ON 時、ロービームおよびハイビームランプは消灯（OFF）したままで、ポジションランプのみが点灯します。
エンジンを始動するとロービームランプが起動します。エンジンが起動している状態でランプの標準機能が回復します。ボタン（1）のポジション（A）でロービームとハイビームの切り替えを行います。ボタン（1）のポジション（B）でフラッシュします。
Key-ON した後にエンジンを始動しない場合でも、左側スイッチのボタン（1）をポジション（A）に押すことでロービーム/ハイビームランプを起動することができます。ボタンを 1 回押すとまずロービームランプが起動し、その後 1 回押すごとにロービームランプとハイビームランプが交互に切り替わります。

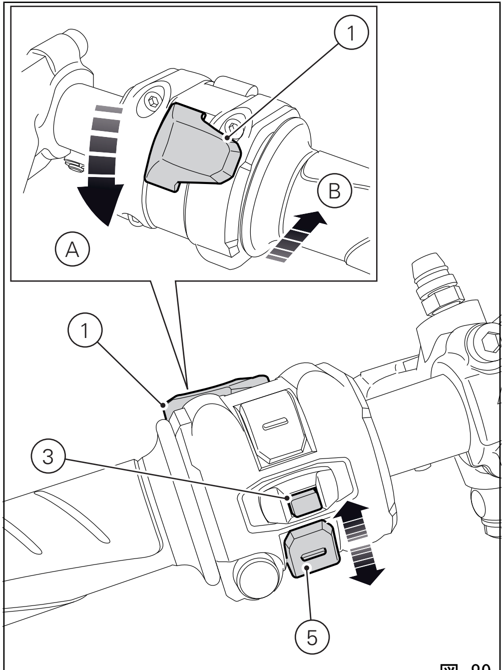


図 89

最初にボタンを押してから 60 秒以内にエンジンを始動しないと、ロービームおよびハイビームランプは再び停止します（OFF)。
エンジン始動前に（上記の方法で）ロービームまたはハイビームランプを点灯させた場合、エンジンを始動する際ヘッドランプが自動的に消灯し、エンジンが完全に起動してから再び点灯します。

ターンインジケーター

インストルメントパネルはターンインジケーターの自動リターンを行います。
2 つのうち、どちらかのターンインジケーターを点けた後、左側スイッチにあるボタン（3、図 89）で解除することができます。
ターンインジケーターコマンドの手動解除が行われなかった場合、起動してから 500 m（0.3マイル）走行すると、インストルメントパネルは自動的にターンインジケーターを停止します。自動解除の際、走行距離のカウントは 80 km/h（50 mph）以下でのみ行なわれます。
自動解除の走行距離カウントがスタートしてから速度が 80 km/h（50 mph）を上回った場合、カウントは中断されます。その後、前述の速度を下回るとカウントが再開されます。

パーキング機能

参考
パーキング機能作動中に突然バッテリーからの電源が遮断された場合、電源回復時にインストルメントパネルは機能を停止します。

″パーキング″ 機能では、車両を停止した状態でも駐車の際に目立つように、フロント/リアパーキングランプを点灯することができます。車両停止後（Key-OFF 後）60 秒以内に、ボタン（5、図 89）を 3 秒間押すと起動します。
この機能を起動すると、″PARK″ の文字がディスプレイに 3 秒間表示され、バッテリー電圧が 12.2 V 以上ある間は点灯したままになります。バッテリー電圧が 12.2 V より低下すると、バッテリー充電状態を維持するためにランプは自動的に消灯します。

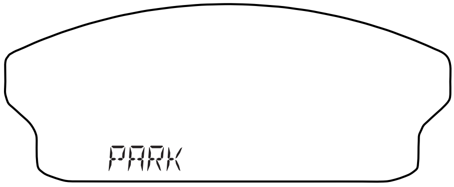


図 90

機能を中止するには、車両の起動（Key-ON）と停止（Key-OFF）を行う必要があります。

重要
この機能を頻繁に使用すると、バッテリーが著しく消耗する場合があります。必要な時にのみこの機能を使用するようにしてください。

ハザード機能（ターンインジケーターすべて点滅）

″ハザード″ 機能は、非常事態を知らせるために 4 つのターンインジケーターすべてを同時に起動します。ボタン（4）をポジション（6）に 3 秒間押すと、″ハザード″ 機能が起動します。車両が起動している場合にのみ、この機能を起動することができます（エンジンの起動/停止状態に関係なく、キーが ″ON″ の位置にある時）。″ハザード″ 機能の作動中は、4 つのターンインジケーターおよびインストルメントパネルの警告灯（7）が同時に点滅します。車両が起動している場合（キーが ″ON″ の位置にある時）は、ボタン（4）をポジション（6）に押すか、あるいはボタン（4）をセンター位置に押すと ″ハザード″ 機能を解除することができます。車両が停止している場合（キーが ″OFF″ の位置にある時）は、ボタン（4）をポジション（6）に押して解除します。

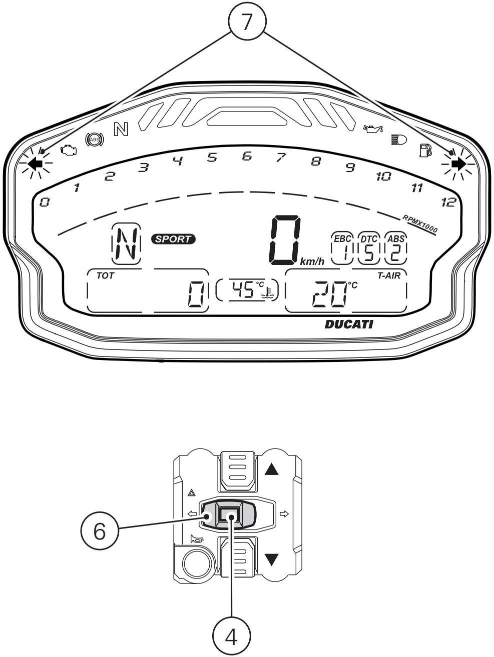


図 91

″ハザード″ 機能を起動している状態で車両を停止（キーが ″OFF″ の位置）すると、ユーザーが手動で解除するまで、あるいはバッテリー電圧が 12.2 V 以上の間は作動したままになります。バッテリー電圧が 12.2 V より低下するとバッテリー充電状態を維持するためにターンインジケーターは自動的に消灯します。

参考

″ハザード″ 機能の作動中に車両を Key-ON した場合、ハザード機能は作動し続けます（ただし、インストルメントパネルの初期点検中にハザード機能が一時的に中断される場合があります）。

参考

パーキング機能作動中に突然バッテリーからの電源が遮断された場合、電源回復時にインストルメントパネルは機能を停止します。

参考

″ハザード″ 機能は、ターンインジケーターの通常機能より優先されます。そのため、″ハザード″ 機能が作動している場合は左右インジケーターを個別に起動することはできません。

イモビライザーシステム

この車両には電子制御でエンジンをブロックする盗難防止システム(イモビライザー)が搭載されています。イモビライザーは、毎回エンジンを停止する度に自動的に作動します。

各キーのボディにはトランスポンダーが内蔵されています。トランスポンダーからの信号は、イグニッションスイッチ部に組み込まれたアンテナを介してコントロールユニットに送られます。

この信号はパスワードの役割を果たし、イグニッションキーがスイッチに差し込まれる度に変更し、CPUがその“パスワード”によってキーを認識した時にのみエンジンが始動します。

キー

バイクは2本のキーと一緒に納品されます。
キーには"イモビライザーシステムコード"が内蔵されています。
キー(B)は通常のイグニッションキーで、以下の場合に使用されます：

- エンジンの始動
- フューエルプラグの開閉
- シートロックの解除。

警告

2本のキーを外し、1本のみを使用するようにしてください。

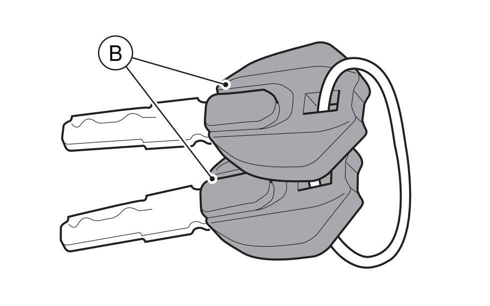


図 92

作業

イグニッションキーをONからOFFの位置に回す度に、システムはエンジンブロックを作動します。
この方法でもまだブロックが解除されない場合は、Ducatiサービスセンターに御連絡下さい。

警告

キーに強い衝撃を与えると内蔵された電子部品が破損しますので注意してください。作業中は常に同じキーのみを使用してください。違うキーを使用すると、システムのコード認識の妨げになる場合があります。

キーの複製

追加のキーが必要な場合は、お持ちのキー全てを持ってDucatiサービスセンターにご依頼下さい。
Ducatiサービスセンターは新しいキー、およびお手持ちのキーを再プログラミングします。
Ducatiアシスタントサービスは、お客様が車両のオーナーである証明の提示を求めることがありますので、必要書類をご持参下さい。
この作業時に再メモリーされなかったキーのメモリーは削除されて無効となるため、エンジンを始動する為に使用することはできません。

参考

オーナー変更の際、全てのキーを新しいオーナーに譲り渡されなければなりません。

PIN CODEによる車両ブロックの解除

キー認識システムの不具合、またはキーの不具合の場合、車両ブロックの一時解除のため PIN CODE の入力ができるようになります。PIN CODE 機能が有効でない場合、インストルメントパネルはブロック解除コード入力ページを表示せずスタンダードスクリーンを表示し、E-Lock エラーでキー読み取り/識別エラーがあることをユーザーに知らせます。またエラー（ERR.）ページ以外の設定メニューに入ることができなくなります。次の Key-OFF まで E-Lock エラーが表示されます。

PIN CODE 機能が起動している場合、インストルメントパネルはブロック解除のコード入力ページを表示し、"PIN" の文字とその下に緑色で強調表示された 4 本の点線 " －－－－ " が表示されます。

コードの入力 (A):

1) ボタン (4) を押すと、″0″ で表示される 1 桁のみが点滅します。
2) ボタン (2) を押す度に数字が 9 までひとつずつ大きくなり、その後 ″0″ に戻ります。
3) ボタン (1) を押す度に数字が 1 までひとつずつ小さくなり、その後 ″0″ に戻ります。
4) ボタン(4)を押して数字を決定します。

この手順を繰り返し、PIN CODE の 4 桁すべての数字を決定します。

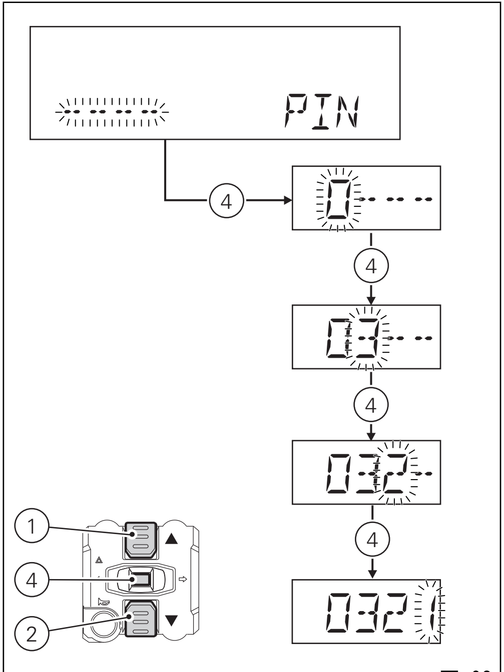


図 93

ボタン (4) を押して 4 桁すべての数字を決定した後、

- PIN CODE が正しい場合、インストルメントパネルは ″OK″ を 2 秒間表示します。その後 ″スタンダードスクリーン″ に移りますが、E-Lock エラーを起動してキーの読み取り/識別に問題があることをユーザーに通知します。
- PIN CODE が正しくない場合、インストルメントパネルは ″KO″ を 2 秒間表示し、その後再び点線 ″- - - -″ を強調表示します。もう一度 PIN CODE を入力してください。入力可能時間は 2 分間に設定してあります。入力可能時間が過ぎるとスタンダードスクリーンに戻り、E-Lock エラーを起動してエラー (ERR.) ページ以外の設定メニューへアクセスできなくなります。
- PIN CODE の検証中に問題が発生した場合、インストルメントパネルに ″ERR.″ の文字が 2 秒間表示され、その後上記の ″KO″ が表示される場合と同じ手順になります。

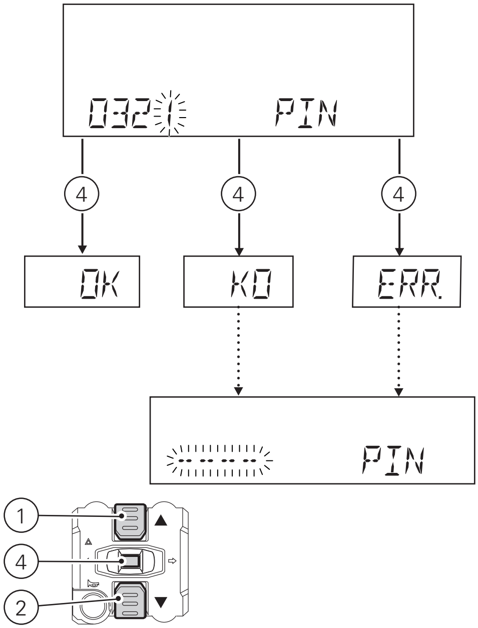


図 94

重要

起動するために上記のプロセスを踏まなければならない時は、早めに Ducati 正規サービスセンターにご連絡ください。

運転時に必要なコマンド

コマンド類の配置

警告
この章では車両を運転する上で必要なすべてのコマンド機能と配置を詳しく説明しています。コマンドを使用する前によくお読みください。

1) インストルメントパネル
2) イグニッションスイッチ / ステアリングロック
3) 左側スイッチ
4) クラッチレバー
5) 右側スイッチ
6) スロットルグリップ
7) フロントブレーキレバー
8) リアブレーキペダル
9) ギアチェンジペダル

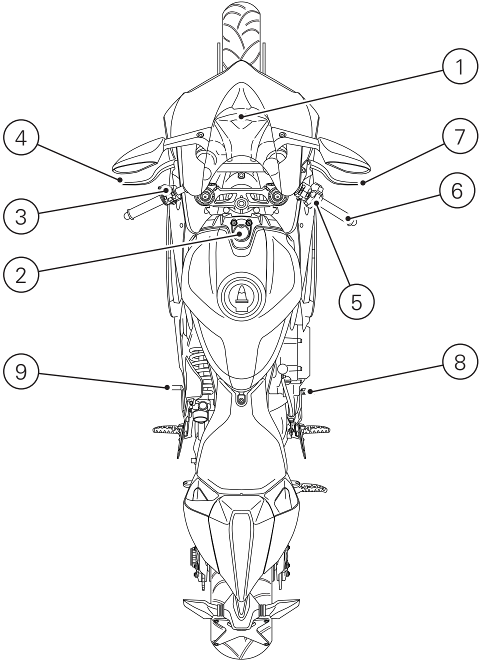


図 95

イグニッションスイッチ / ステアリングロック

燃料タンクの前にあり、3 つのポジションがあります。

A) ON : エンジンおよびランプを ON にする
B) OFF : エンジンおよびランプを OFF にする
C) LOCK : ステアリングロック状態

参考

キーを最後のポジションに合わせるには、キーを押してから回してください。(B)、(C) の位置でキーを引き抜くことができます。

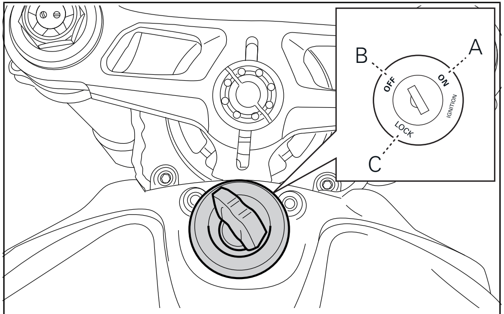


図 96

左側スイッチ

1) ディマースイッチ、ビームの選択、2ポジション：
(A) 下方向に押すたびにロービームライト点灯（ ≣D ）とロービームライトおよびハイビームライト点灯が切り替わります。
(B) 水平に押した場合（ ≣D ）、ハイビーム点滅 (FLASH) 、"START/STOP LAP" 機能。

2) 3 ポジション、ターンインジケーターボタン（ ⇦⇨ ）：
中央 ＝ OFF
ポジション（ ⇦ ）＝ 左折
3) ターンインジケーター停止ボタン、ライディングモード起動、メニュー操作
4) ボタン（ 📯 ）＝ 警告ホーン
5) メニュー操作ボタン、ディスプレイスクロール、TRIP A と TRIP A 機能のリセット
6) メニュー操作ボタン、ディスプレイスクロール

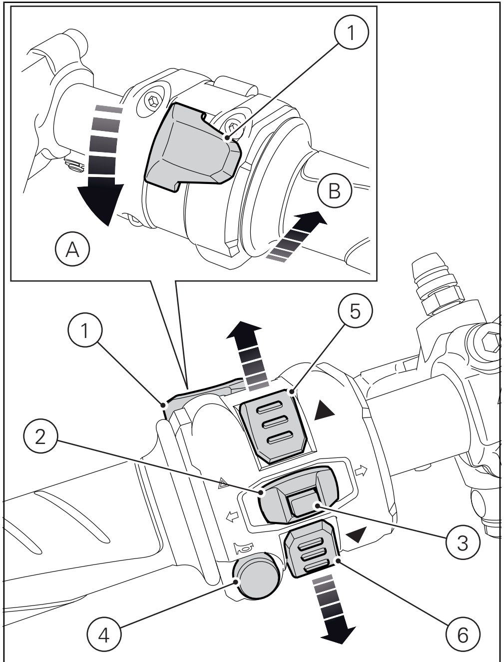


図 97

クラッチコントロールレバー

レバー（1）でクラッチの接続を操作します。 レバーにはアジャスター（2）がついており、レバーとグリップとの間隔を調整することができます。レバーの間隔はアジャスター（2）の 10 クリックで調整できます。時計回りに回すとレバーはスロットルグリップから離れます。アジャスターを反時計回りに回すと近づきます。レバー（1）を操作すると、エンジンの回転がトランスミッションおよび駆動輪に伝わらなくなります。クラッチの適切な操作は、スムーズなライディング、特に発進時に重要です。

警告

クラッチおよびブレーキレバーの調整は停車時に行ってください。

重要

クラッチレバーを正しく操作することで、トランスミッションの損傷を避け、車両の寿命を延ばすことができます。

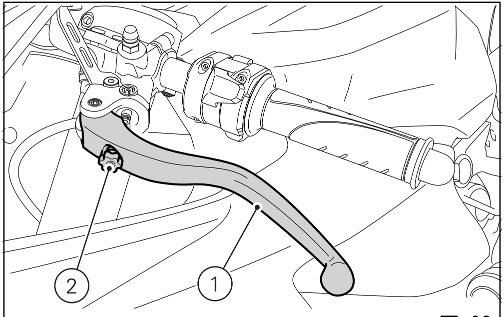


図 98

参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動することができます。ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いた状態で行ってください（この時サイドスタンドは上がっていなければなりません）。

右側スイッチ

1）赤スイッチ　ON/OFF
2）黒ボタン　エンジン始動

スイッチ（1）には 3 つのポジションがあります。

A）中央：RUN OFF
このポジションでのエンジン起動は不可、すべてのエレクトロニックデバイスは停止します。
B）下に押した場合：起動/停止
このポジションでシステムの起動（Key-ON）と停止（Key-OFF）が可能です。
C）上に押した場合：RUN ON
このポジションでのみ、黒ボタン（2）を押しながらエンジンの起動が可能です。

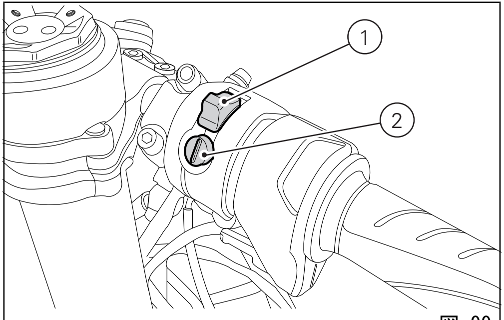


図 99

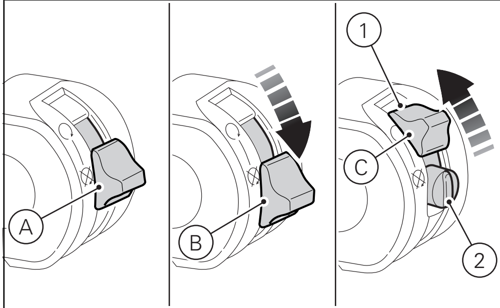


図 100

スロットルグリップ

ハンドルバー右側のスロットルグリップ（1）は、スロットルボディのバルブ開閉を制御します。
グリップを離すと、自動的に元の位置（アイドリング状態）に戻ります。

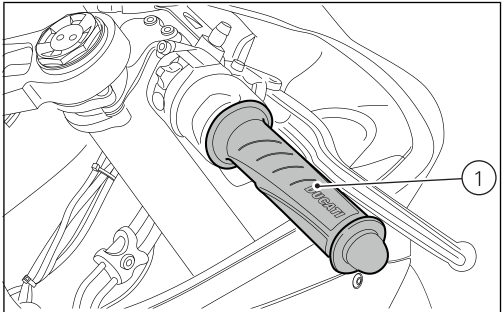


図 101

フロントブレーキレバー

レバー（1）をスロットルグリップの方向へ引くと、フロントブレーキがかかります。このレバーは油圧で作動するため、軽く握るだけで作動します。
コントロールレバー（1）にはアジャスター（2）が付いており、レバーとグリップとの間隔が調整することができます。
レバーの間隔はアジャスター（2）の 10 クリックで調整できます。時計回りに回すとレバーはスロットルグリップから離れます。アジャスターを反時計回りに回すと近づきます。

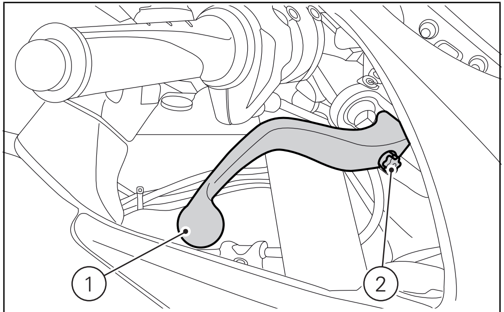


図 102

リアブレーキペダル

ペダル(1)を下に踏むことで、リアブレーキが機能します。
システムは油圧式で作動します。

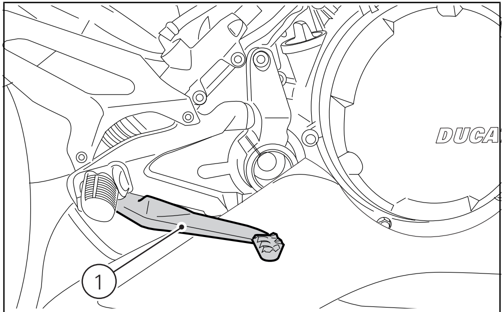


図 103

ギアチェンジペダル

ギアチェンジペダル (A) は中央のニュートラルのポジション (N) に自動的に戻ります。 ニュートラルポジションであることはインストルメントパネルのニュートラルランプ N で表示されます。
ペダルは以下のように動かせます。

- 下へ＝シフトダウンおよび 1 速へのチェンジは、ペダルを下に押します。この時、インストルメントパネルのニュートラルランプ N が消えます。
- 上へ＝ペダルを上へ上げることで、2 速から順次 3 、4 、5 、6 速へとチェンジします。

一回の操作が一速分のチェンジに相当します。

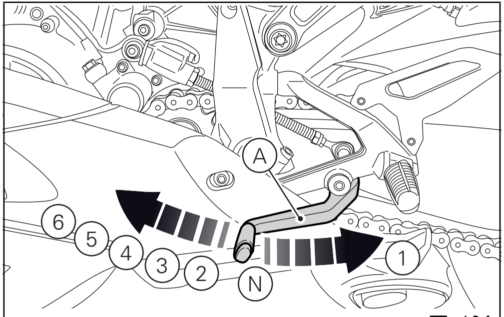


図 104

ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの配置調整

ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルのポジションは、ライダーのライディングスタイルとフットペグの位置に合わせて調整することができます。
これらの調整は以下の手順で行ってください。

ギアチェンジペダル

ロッド（1）を固定しながら、ナット（2）と（3）を緩めます。

参考

ナット（3）には右巻きスレッドが付いています。

ギアチェンジペダルを好みの位置に定めながら、スパナでロッド（1）の六角部分を回します。
ロッドに両ロックナットを締め付けます。

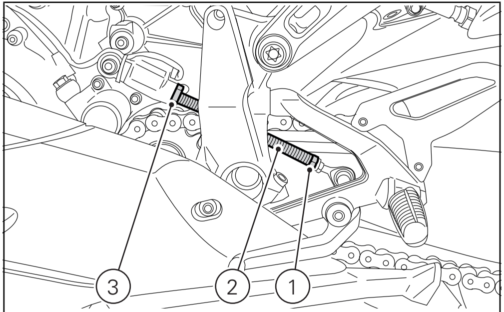


図 105

リアブレーキペダル

ナット (7) を緩めます。
ペダルが好みの位置になるまで、調整スクリュー (6) を回します。ロックナット (7) を締め付けます。
ペダル (8) を手で押しながら、ブレーキがかかり始めるまでに約 1.5〜2 mm の遊びがあるかを確認します。
上記のような遊びが確認できない場合は、マスターシリンダーのロッドの長さを調整します。

警告

ペダルの調整は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

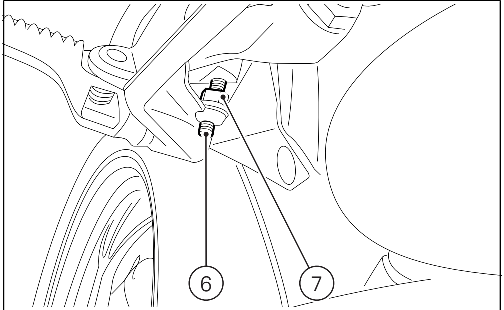


図 106

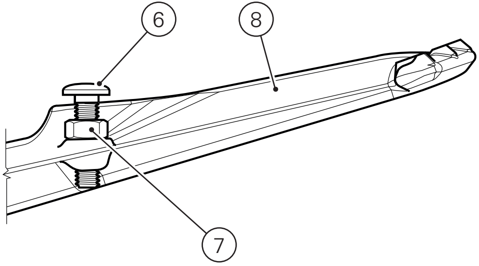


図 107

主要構成部品 / 装備

車両上の配置

1) フィラープラグ
2) シートロック
3) サイドスタンド
4) リアビューミラー
5) フロントフォークアジャスター
6) リアショックアブソーバーアジャスター
7) 触媒システム（両側）
8) エキゾーストサイレンサー（両側）

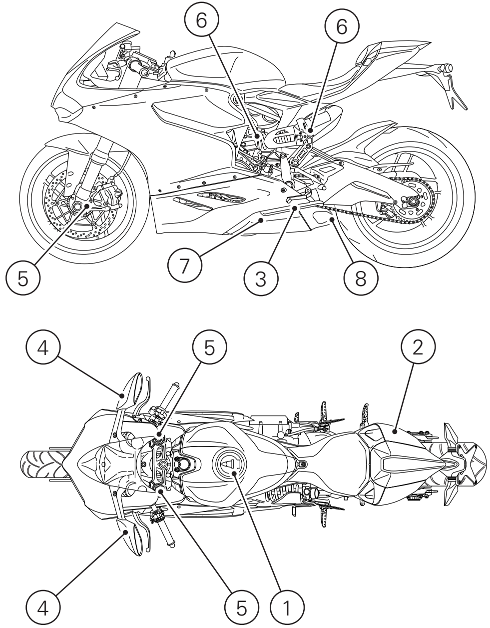


図 108

燃料フィラープラグ
開け方

プラグの保護カバー(1)を持ち上げ、イグニッションキーを差し込み、 キーを時計回りに1/4回転してロックを解除します。
プラグ(2)を持ち上げます。

閉じ方

キーの差し込まれたプラグ(2)で押しながら閉じてください。キーを抜き取り、プラグの保護カバー(1)を閉じます。

参考
プラグはキーが差し込まれていないと閉まりません。

警告
燃料補給後は、毎回プラグが正しい位置で確実に閉まっていることを確かめて下さい。

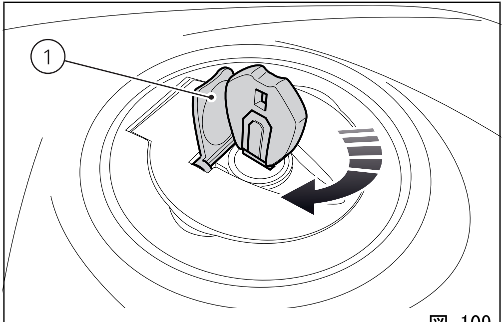


図 109

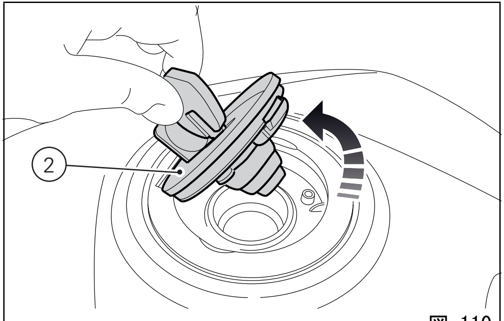


図 110

シートロック
開け方

鍵穴 (1) にキーを差し込み、シートカバー (2) のクリックという音が聞こえるまで回します。
シートカバー (2) を車両の前方に抜き取ります。

閉じ方

シート側からシートカバー (2) を挿入し、カバーを車両の後方に奥までスライドさせます。

警告
シートカバーを閉じる際は、車両前側からシートカバーを挿入し、カチッとロックの音が鳴るまで後方にスライドさせてください。

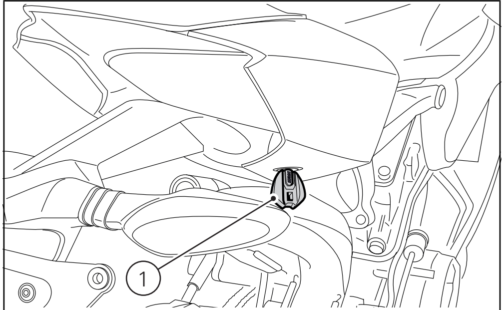


図 111

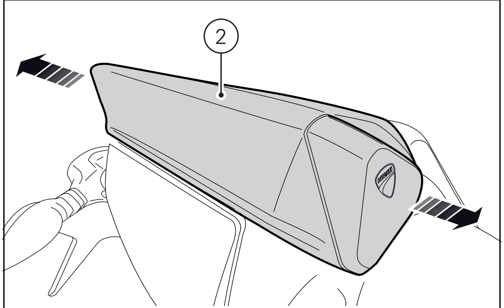


図 112

サイドスタンド

重要
短時間停車する場合に限り、サイドスタンドを使用して車両を支えます。サイドスタンドを使用する前に、地面に十分な固さがあり平らであるかを確かめてください。

柔らかい地面、砂利、日光で柔らかくなったアスファルト等に駐車すると、車両転倒の原因となります。傾斜面に停車する場合は、必ずリアホイールを斜面下側にして駐車してください。
サイドスタンドを使用するには、ハンドルバーを両手で掴み、車体を支えながら、スタンドのフック（1）を足でいっぱいに押します。次に、スタンドがしっかりと地面に着くまで、車体を徐々に傾けます。
サイドスタンドを元の位置 （水平位置） に戻すには、車両を右側に傾けながら、足でスタンドのアーム（1）を持ち上げます。

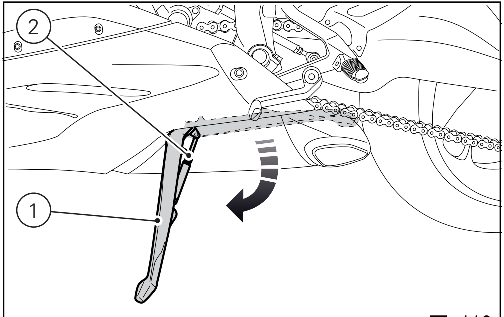


図 113

警告
サイドスタンド使用時には、車両にまたがらないでください。

参考
定期的にスタンド（内側と外側 2 つのスプリングの状態）と安全センサー（2）の作動を点検することをお勧めします。

参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動することができます。ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いた状態で行ってください（この時サイドスタンドは上がっていなければなりません）。

ステアリングダンパー

ハンドルバーの前にあり、ステアリングヘッドに固定されています。
このダンパーがステアリングのより正確で安定した操作に貢献し、あらゆるコンディションでの操縦性をアップします。

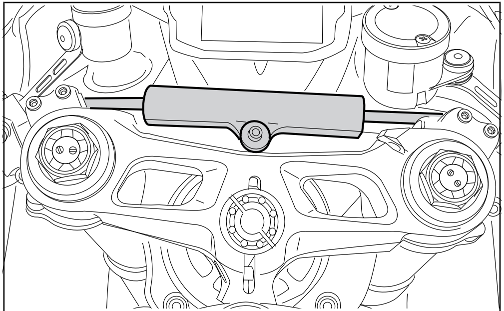


図 114

フロントフォーク調整

車両のフォークは、リバウンド/コンプレッションダンピング、およびスプリングプリロードの調整が可能です。
調整はアジャスターを使用して行います。

1) リバウンドダンピングの変更 (1、図 115)
2) コンプレッションダンピングの変更 (2、図 115)
3) スプリングプリロードの変更 (3、図 116)

車両をサイドスタンドで支え、安定した場所に駐車します。
マイナスドライバーでそれぞれのフォークレッグの先端にあるアジャスター (1) を回転させ、リバウンドダンピングを調整します。
マイナスドライバーでそれぞれのフォークレッグの先端にあるアジャスター (2) を回転させ、コンプレッションダンピングを調整します。

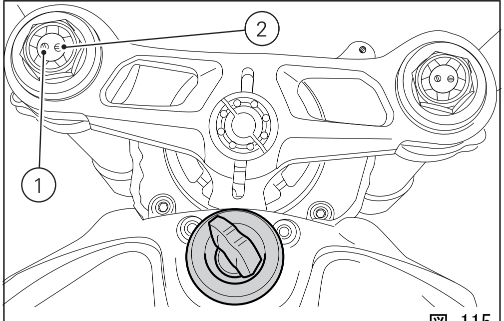


図 115

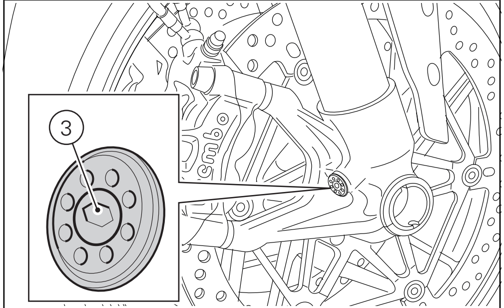


図 116

アジャスタースクリュー（1）、アジャスタースクリュー（2）を回し、ダンピングを調整します。アジャスターをいっぱいに締め込むと ″0″ 位置になり、ダンピングが最強にセットされます。この位置から反時計回りに回し回転数を数えることができます。
各レッグのスプリングプリロードを調整するには、すべて開いた位置から六角形のアジャスター（3、図 116）を六角レンチで回転させます（時計回り）。

標準設定は以下の通りです。
コンプレッションダンピング : 4 回転（すべて閉じた位置から）
リバウンドダンピング : 5 回転（すべて閉じた位置から）
スプリングプリロード : 4 回転（すべて開いた位置から）

警告
アジャスターは両方のレッグで同じ位置に調整してください。

リアショックアブソーバー調節

リアショックアブソーバーは荷重に合わせてバランスを調整できるようアジャスターを装備しています。
クランクケースにフロントショックアブソーバーを固定している位置にあるアジャスター（1）は、リバウンドダンピング（リターン）を調整します。
ショックアブソーバーのリザーバータンクにあるアジャスター（2）は、コンプレッションダンピングを調整します。
リングナット（3）はショックアブソーバーのスプリングプリロードを調整します。
スプリングプリロードを変更するには、上部固定リングナットを緩めます。締めたり緩めたりすることで、下部リングナットはプリロードを増大させたり減少させたりします。
希望のプリロードに調整したら、上部固定リングナットを締め付けます。

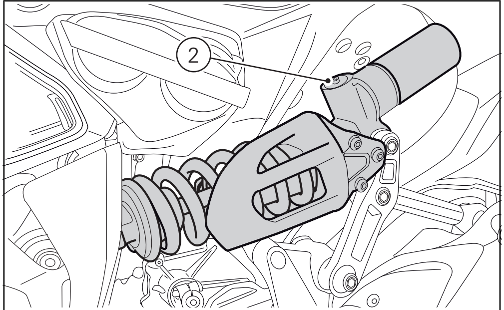


図 117

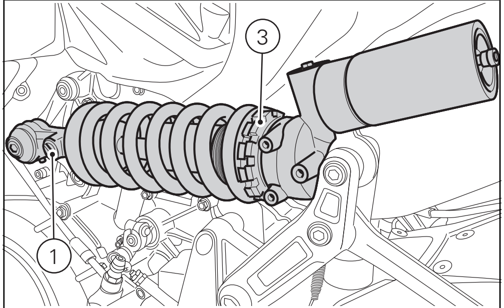


図 118

標準設定：すべて閉じた状態から（時計回り）次の数値だけ緩めます。
コンプレッションダンピング：すべて閉じた位置から 2.5 回転
リバウンドダンピング：すべて閉じた位置から 12 クリック
スプリングプリロード：17 mm

警告

ショックアブソーバーには高圧のガスが充填されています。未経験者による分解作業は重大な損傷の原因となる恐れがあります。

パッセンジャーと荷物を載せる場合は、リアショックアブソーバーのスプリングププリロードを最大に調整してください。これによりハンドリングを向上し、車両が地面に接触するのを防ぎます。この場合、リバウンドダンピングの再調整が必要になることがあります。

次ページの表に、使用条件、ユーザーの経験やニーズに合わせて推奨される設定を示します。

サスペンション設定

フロントフォーク、リアサスペンション設定は、表に記載の推奨設定を参照してください。ライダーの運転技術や快適性のニーズを基に、様々な運転状況に応じて推奨される設定です。

重要

表に記載されている調整は、ユーザーがインストルメントパネルから選択するライディングモード (RIDING MODE) とは別に行います。

サーキット – パフォーマンスの使用		
パラメーター	**フロントフォーク**	**リアショックアブソーバー**
スプリングプリロード	すべて開いた位置から 6 回転	19 mm（± 2 mm）
コンプレッション	すべて閉じた位置から 1 回転	すべて閉じた位置から 0.5 回転
リバウンド	すべて閉じた位置から 2.5 回転	すべて閉じた位置から 8 クリック

一般道 – コンフォートの使用		
パラメーター	**フロントフォーク**	**リアショックアブソーバー**
スプリングプリロード	すべて開いた位置から 2 回転	17 mm
コンプレッション	すべて閉じた位置から 7 回転	すべて閉じた位置から 3.5 回転
リバウンド	すべて閉じた位置から 5 回転	すべて閉じた位置から 15 クリック

市販車両の設定（前の段落に記載されている標準設定）は、あらゆる使用条件（運転状況、ライダーの運転技術やニーズ）に対応することを重視しており、一般道でのスポーツ走行にも最適な設定になっています。

慣らし運転の方法

慣らし運転時の最高速度

慣らし運転期間中および通常使用においてのエンジン最大許容回転数：
1）1,000 kmまで
2）1,000～2,500 kmまで

1,000 kmまで

最初の 1,000 km まではタコメーターに注意し、5,500～6,000 rpm を決して超えないようにしてください。
最初の数時間は、規定回転数の範囲内でエンジン負荷と回転数を色々変えて走行することをお勧めします。

慣らし運転の方法を守ることでエンジンの寿命を延ばし、調整やオーバーホールの回数を抑えることができます。

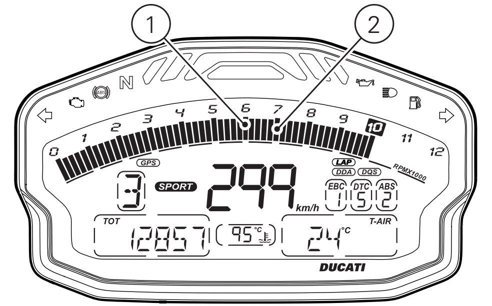


図 119

エンジン、ブレーキ、サスペンションのより効果的な慣らしには、カーブが多く起伏に富んだ場所を走行することが理想的です。
最初の100 km は、ブレーキディスクにパッドをよく慣らすために、優しくブレーキをかけ、急なブレーキングや長いブレーキングは避けてください。
すべての機械部分を互いに馴染ませるため、またエンジンの主要部分の寿命に悪影響を及ぼさないために、急な加速や、特に上り坂での長時間にわたるエンジン高回転は避けてください。
定期的にチェーンを点検し、必要であれば潤滑してください。

1000～2500 kmまで

この間エンジンからよりパワーを引き出す事は可能ですが、7,000 rpm　を決して超えないようにしてください。

重要

慣らし運転期間は、保証書に指定されている点検、整備を必ず受けてください。この条件が遵守されなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮については、Ducati モーターホールディング社はいかなる責任も負うものではありません。

慣らし運転の方法を守ることでエンジンの寿命を延ばし、調整やオーバーホールの回数を抑えることができます。

走行前の点検事項

警告
走行前にこれらの点検を怠ると、車両に損傷を与え、ライダーやパッセンジャーを危険に晒す恐れがあります。

走行前に以下の点検を実施してください。

- タンク内の燃料量
  タンク内の燃料の残量を確認します。必要であれば給油してください(ページ 206)。
- エンジンオイル量
  クランクケースの点検窓でオイルレベルを確認します。必要に応じて充填してください（ページ 232)。
- ブレーキおよびクラッチフルード量
  各リザーバータンクのフルードレベルを確認します（ページ 213)。
- クーラント量
  リザーバータンクのクーラントレベルを確認します。必要であれば補充してください（ページ 211)。
- タイヤコンディション
  空気圧と摩耗度を点検します（ページ 229)。
- コマンド機能
  ブレーキ、クラッチ、スロットルグリップ、ギアチェンジレバーまたはペダルを作動させて機能を確認します。
- ランプ類、インジケーター
  ランプ、インジケーター、警告ホーンが正しく機能するかを確認します。電球が切れている場合には交換してください（ページ 224)。
- ロック類
  フィラープラグ（ページ 185）およびシート（ページ 186）のロックを確認します。
- スタンド
  サイドスタンドがスムーズに作動し、適切な位置にあるかを確認します（ページ 187)。

ABS ランプ

Key-ON 後も ABS ランプ（9）は点灯し続けます。走行速度が 5 km/h を越えた時点でランプが消灯する場合は、ABS システムが正常に作動していることを示します。

⚠ 警告

異常が見つかった場合は車両の使用を中止し、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

ABS 装置

フロントフォニックホイール (1) とリアフォニックホイール (2) を汚れていないことを確認します。

警告

汚れなどが付着して読み取り窓が詰まっていると、システムが正常に機能しない恐れがあります。泥道を走行する時には ABS システムがうまく機能しない場合があります。システムを OFF にしておくことをお勧めします。

警告

ウィリー走行を長く続けると、ABS システムが停止してしまう恐れがあります。

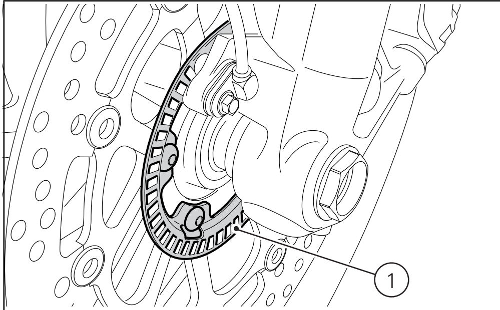


図 120

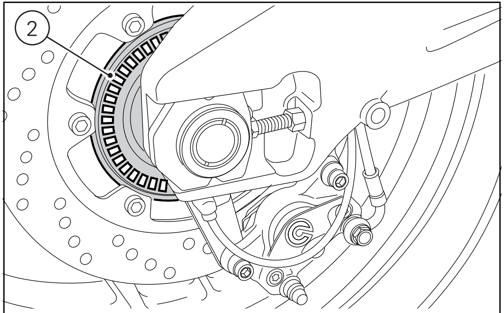


図 121

エンジンの始動

警告

エンジンを始動する前に、運転に必要なコマンド類の取り扱いに十分慣れておいてください。

警告

屋内では絶対にエンジンをかけないでください。排出ガスは有毒です。短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。

イグニッションキーを ON の位置に回します。インストルメントパネルの緑のランプ N (1) と赤のランプ (2) が点灯していることを確認してください。

重要

オイル圧警告ランプはエンジンを始動してから数秒後に消えなければなりません。

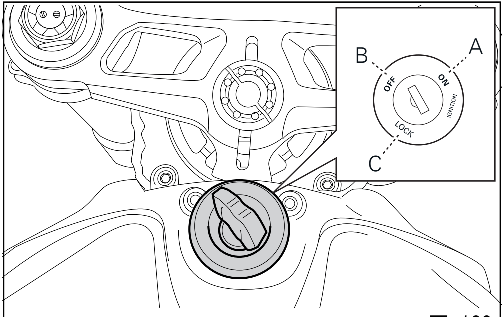


図 122

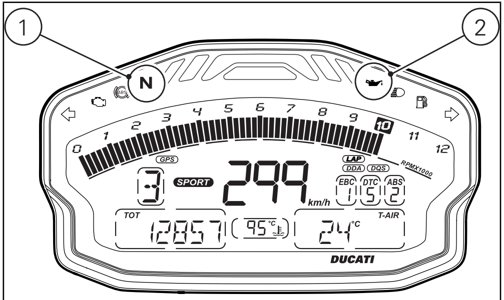


図 123

警告

サイドスタンドが完全に上げられて（水平）いない場合は、安全センサーが作動してエンジンを始動することはできません。

参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動させることができます。または、ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いたままの状態で始動させてください(この時サイドスタンドは上がっていなければなりません)。

重要

エンジン冷間時は回転数を上げすぎないでください。潤滑が必要なすべての部分にオイルを行き渡らせるために、エンジンが温まるまで待ってください。

エンジンストップスイッチ（3）が（RUN）位置にあることを確認してから、スタートボタン（4）を押してください。

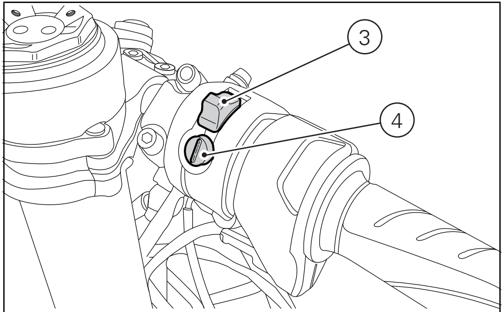


図 124

車両の発進

1) クラッチレバーを引いてクラッチを切ります。
2) 1速に変速するためにギアチェンジペダルをつま先でしっかり押し下げます。
3) スロットルグリップを回してエンジンの回転数を上げ、同時にクラッチレバーを徐々につなぐと、車両は発進し始めます。
4) クラッチレバーを完全に放し、エンジンの回転数を上げます。
5) シフトアップするには、エンジン回転数を落とすためにスロットルを戻し、クラッチを切り、ギアチェンジレバーをもち上げ、クラッチレバーを放します。シフトダウンは以下のように行います。スロットルグリップを放し、クラッチレバーを引いてから、ギアを同調させやすくするためにエンジンを軽くふかしてシフトダウンし、クラッチを放します。

これらの作業は適切に素早く操作しなければなりません。上り坂を走行する際には、車速が落ちてきたらすぐにシフトダウンし、車両への異常なストレスやエンジンのノッキングを避けて下さい。

警告

急な加速操作は、オーバーフローやトランスミッションのスナッチを招きますので避けて下さい。ギアを変速した後もクラッチレバーを引いたままでいると、機械部分の過熱や摩擦部分の異常な摩耗を引き起こします。

警告

ウィリー走行を長く続けると、ABS システムが停止してしまう恐れがあります。

ブレーキ操作

減速するには、最初にスロットルグリップを戻してエンジンブレーキをかけ、それからブレーキングします。エンジンが急に止まるのを防ぐため、車両が停止する前に、クラッチを切ります。

ABSシステム

困難な条件下でのブレーキ操作は、非常に慎重に行わなければなりません。ブレーキ操作は二輪車の運転で最も難しく危険な瞬間です。ブレーキ操作中に転んだり事故を起こす可能性が統計的に最も高くなっています。フロントホイールがロックされると、グリップによるバランス力を失うため車両のコントロールを失います。

アンチロックブレーキシステム（ABS）は、緊急時や悪路、悪天候下での走行時にブレーキ性能を最も効果的に発揮させるために開発されたものです。

ABS は電子制御油圧システムです。ホイールがロックしそうになると、ホイールのセンサーからコントロールユニットに信号が送られ、ブレーキ回路内の油圧を制御します。

一時的に油圧が下がることで、タイヤは理想的なグリップを維持したまま回転を続けることができます。

コントロールユニットはブレーキ回路内の油圧を再び上げてブレーキを作動させます。ホイールロックのリスクが完全になくなるまでこのサイクルを繰り返します。ブレーキング時 ABS が作動状態に入ると、ブレーキレバーとブレーキペダルに軽く振動する抵抗が感じられます。

フロントとリアブレーキのコントロールシステムはそれぞれ独立していますので、 ABS もフロントとリアブレーキに同時に作動するわけではありません。

このシステムを解除したい場合は、″ライディングモードのパーソナライズ：ABS 調整 ページ 108″ を参照してインストルメントパネルから解除することができます。

警告

ABS システムが解除された状態では、車両のブレーキシステムは標準仕様になります。このため､2 つのブレーキコマンドのうち片方だけを使用した場合、車両のブレーキ性能は低下します。急激に過度の力を掛けてブレーキコマンドを操作しないでください。ホイールがロックし、車両のコントロールを失う恐れがあります。雨天時や滑りやすい路面の走行ではブレーキ力が著しく低下します。このようなコンディションでは慎重に優しくブレーキ操作をしてください。急ブレーキを掛けると車両のコントロールを失う危険があります。長く急な下り坂を走行する際にはシフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、ブレーキは短く断続的に使用するようにしてください。ブレーキを長時間連続して使用すると、ブレーキパッドの過熱を招き、ブレーキ性能の著しい低下の原因となります。規定空気圧に満たないタイヤでの走行はブレーキ性能を低下させるだけでなく、正確な運転とカーブでの安定性を損ないます。

車両の停止

スロットルグリップを緩めると、車両は徐々にスピードを落とし始めます。シフトダウンしながら 1 速まで落とし、最後にニュートラルに入れます。
ブレーキをかけると、車両を完全に停止することができます。
エンジンを停止するには、キーを OFF 位置に回します。

パーキング

停止車両をサイドスタンドで支えて駐車します。盗難防止のため、ハンドルを左に振りきり、キーを LOCK 位置に回します。
車両をガレージやその他の建物内に駐車する際には、換気が充分され、車両の近くに熱源が無いことを確認してください。

重要

監視できない場所に停車するときは、キーを付けたままにしないでください。

警告

エンジン停止後でもエキゾーストユニットは高温の場合があります。身体が触れないよう十分注意し、車両を木材や木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにしてください。

警告

発進を妨げるタイプの盗難防止用ロック（ディスクロック、リアスプロケットロック等）は大変危険です。車両の機能だけでなく、ライダーとパッセンジャーの安全をも損なう恐れがあります。

燃料の補給

給油の際、入れすぎないように注意してください。燃料はプラグの下縁をこえてはいけません。

警告

燃料は、鉛の含有量が少なく、混合前のオクタン価が95以上のものを使ってください。

警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料（E10）のみ使用することができます。
エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

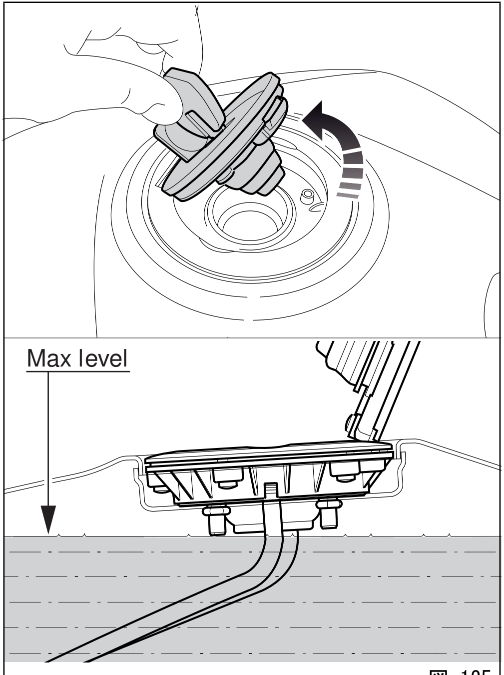


図 125

付属アクセサリー

パッセンジャーシート下部に以下のツールキット (1) が装備されています。

- スパークプラグ用六角レンチ
- プラグレンチ用ハンドル
- 差替式プラス・マイナスドライバー
- フェアリング用六角レンチ

このスペースにアクセスするにはパッセンジャーシートを取り外してください (ページ 186)。

以下の付属部品の取り付けは、必ず Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

- パッセンジャーシート
- 左右リアフットペグ

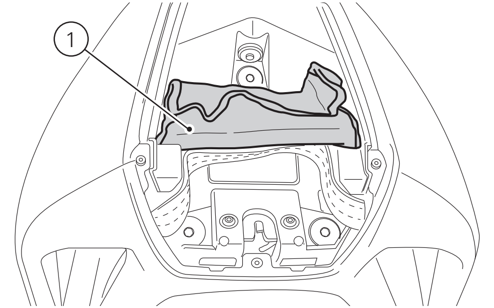


図 126

主な整備作業とメンテナンス

装飾部品の取り外し

車両を正しく整備、修理するためには、装飾部品の一部を取り外すことが必要です。

警告
取り外したパーツは正確に取り付けて下さい。適切に取り付けられていないと、走行中に部品が脱落し、車両のコントロールを失なう危険があります。

重要
車体の塗装部分、及びスクリーンのプレキシグラスに傷を付けないため、スクリュー再装着の際には常に専用ナイロンワッシャーをお使い下さい。

重要
装飾部品の取り外しが必要な場合は、ディーラー又はDucatiサービスセンターにご連絡下さい。

サイドフェアリング

フェアリングを取り外すには、シート下部にある六角レンチを使用して以下の部品を緩めます。

- フェアリングブラケットに固定している 2 本のスクリュー (1)
- ヘッドライトフェアリングに固定している 4 本のスクリュー (2)
- フレームに固定している 3 本のスクリュー(3)
- 左フェアリングと右フェアリングを固定しているフェアリング下部にある 2 本のスクリュー (4)
- 中央を固定している 2 本のスクリュー (5)
- ヘッドランプフェアリングにフロント部を固定している 2 本のスクリュー (6)

参考

フェアリングからフリーになっているスプラッシュガードに注意してください。

参考

左フェアリングを取り付けるには、サイドスタンドを下ろしてフェアリングの開口部に通します。

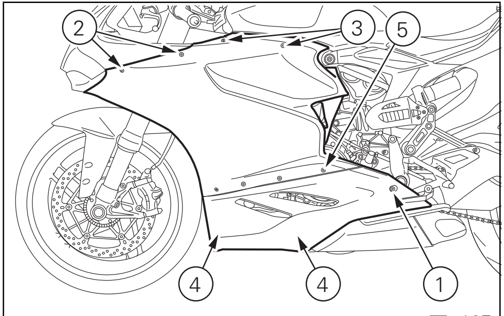


図 127

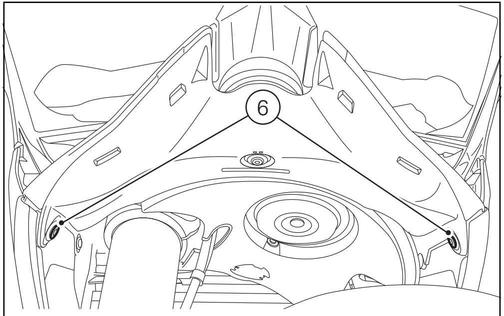


図 128

エアフィルターの交換

重要

エアフィルターのメンテナンス作業が必要な場合は、ディーラーまたはDucatiサービスセンターにご連絡下さい。

クーラントレベルの点検および補充

車両右側にあるリザーバータンク内のクーラントレベルを点検します。
クーラントレベルがリザーバータンク脇にある MIN (1) 及び MAX (2) の目盛の間にあることを確認します。
クーラントレベルが MIN より下の場合は補充します。
右側フェアリングを取り外します (ページ 209)。

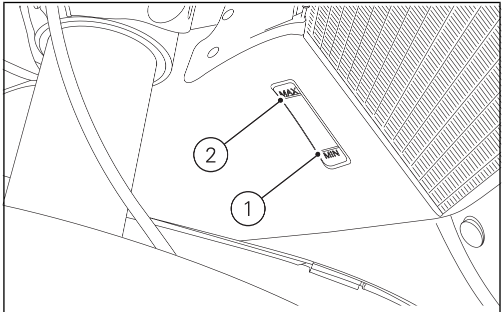


図 129

フィラープラグ (3) を緩め、不凍液 ENI Agip Permanent Spezial を薄めずに MAX のレベルになるまで補充します。
プラグ (3) をしっかりと閉め、取り外したパーツを元通りに取り付けます。上記の混合液を使用することで最良のコンディションを保つ事ができます
(-20° C/-4° F から凍結し始めます)。
クーリングシステムの容量 : 2.3リットル

警告

この作業はエンジン冷間時に、水平な場所で車両を垂直に立てた状態で実施してください。

重要

クーラントの補充は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

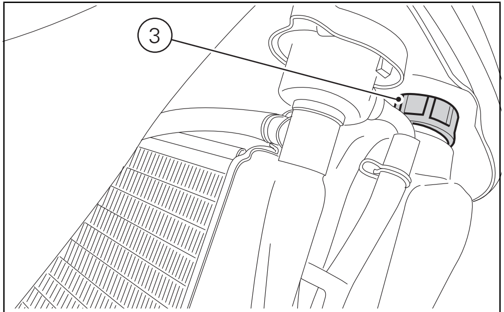


図 130

ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検

ブレーキ/クラッチフルードのレベルは、絶対に各リザーバータンクの MIN 目盛以下になってはいけません。
フルードレベルが下がりすぎると、回路内にエアが混入し、システムの作動に悪影響を及ぼします。
また、保証書内の定期点検表で指定されているブレーキ/クラッチフルード補充および交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

重要

ブレーキ/クラッチシステムのホース類はすべて 4 年毎に交換してください。

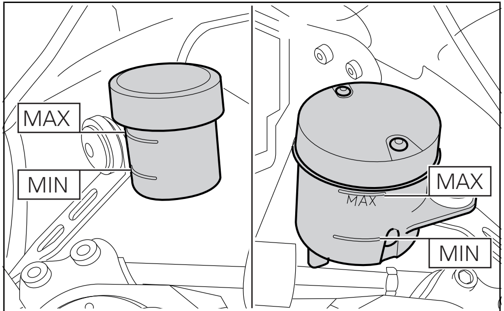


図 131

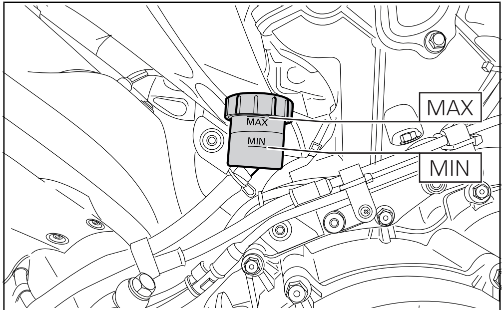


図 132

ブレーキシステム

ブレーキパッドが磨耗していないのにブレーキレバー、ブレーキペダルに過度の遊びがある場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡いただき、システムの点検とエア抜きを行ってください。

警告
ブレーキ/クラッチフルードはプラスチック製部品や塗装部分に損傷を与えますので、これらの部分にフルードが触れないよう注意してください。
これらの液体は腐食性ですの損傷やケガを引き起こす恐れがあります。異なる品質のオイルを混ぜないでください。シールの状態を点検してください。

クラッチシステム

クラッチレバーに過度の遊びがあり、ギアチェンジの際にエンジンがノッキングしたり止まったりする時は、システム内にエアが混入している事があります。システムを点検とエア抜きを行う必要があるため、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

警告
クラッチフルードレベルはクラッチディスクの磨耗材が消耗すると上昇する傾向があります。規定レベルを超えないようにしてください（最低レベルの 3 mm 上)。

ブレーキパッドの摩耗点検

キャリパー間の開口部をからパッドの摩耗を点検します。どちらか片方でもパッドの厚さが約 1 mm になっている場合は、両方のパッドを交換します。

警告

パッドが消耗しすぎると、ブレーキディスクと金属製サポートが接触することでブレーキ性能、ディスクの正常な状態、またライダーの安全を損なう恐れがあります。

重要

ブレーキパッドの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

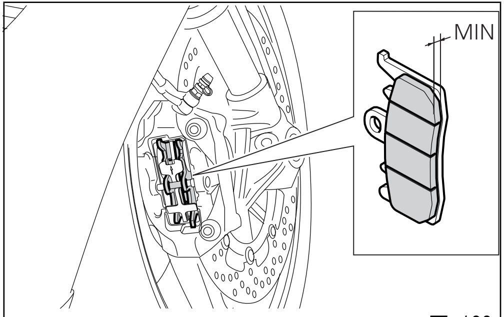


図 133

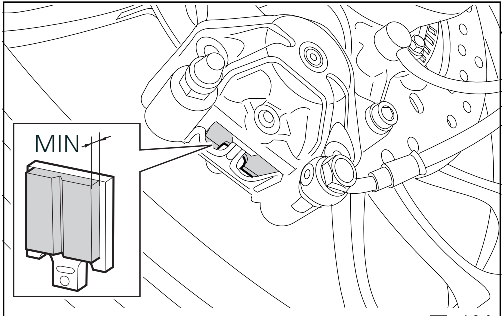


図 134

バッテリーの充電

バッテリーを充電する際は、バッテリーを車両から取り外してください。

左側フェアリングを取り外します（ページ 209）。

スクリュー（1）を緩め、バッテリーを固定するカバー（2）を取り外します。

所定の位置からバッテリー（3）を抜き取り、陰極端子（-）からスクリュー（4）を緩めます。

陽極ケーブル（5）、ABS 陽極ケーブル（6）を陽極から、陰極から陰極ケーブル（7）を外します。

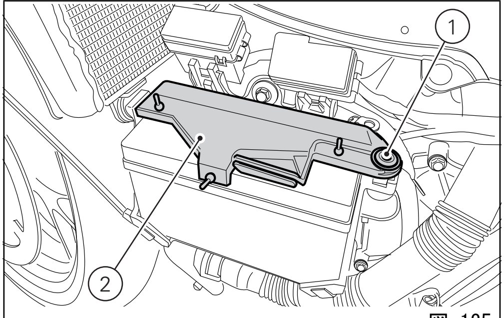


図 135

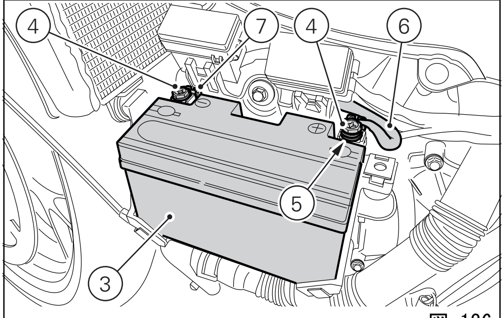


図 136

警告

バッテリーは爆発性のガスを発生させます。熱源から遠ざけてください。

警告

バッテリーはお子様の手の届かないところに置いてください。

バッテリーは 0.9A で 5 ～10 時間充電します。
充電は換気の良い場所で行ってください。
端子に充電器のコンダクターを接続します。赤い端子がプラス (+)、黒い端子がマイナス (-) です。

重要

バッテリーを充電器に接続する前に充電器の電源を入れないでください。接続する際に火花が発生し、セル内の可燃性ガスに引火する恐れがあります。接続は常に赤のプラス (+) 端子から行ってください。

ABS システムの陽極ケーブル (6) を陽極ケーブル (5) の上に置き、スクリュー (4) をその上に差し込みます。

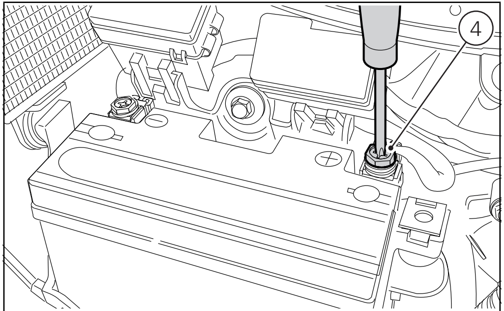


図 137

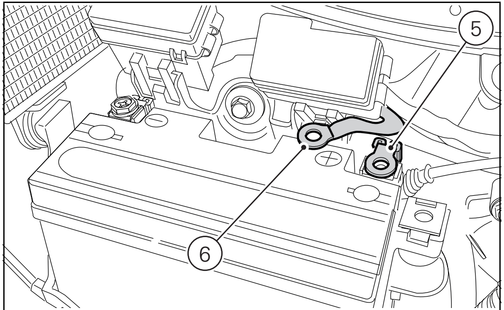


図 138

前もって ABS ケーブル（6）と組み立てておいた陽極ケーブル（5）をバッテリーの陽極に、陰極ケーブル（7）をバッテリーの陰極に接続し、スクリュー（4）を差し込みます。
電極のスクリュー（4）を 5 Nm±10% のトルクで締め付け、酸化を防ぐためにバッテリー電極周辺にグリースを塗布します。
（図 136）に示す方向にケーブル（5）および（6）を向け、バッテリー（3）をマウントに取り付けます。
バッテリー固定カバー（2）を取り付け、スクリュー（1）を 10 Nm ±10% のトルクで締め付けます。
左側フェアリングを取り付けます（ページ 209）。

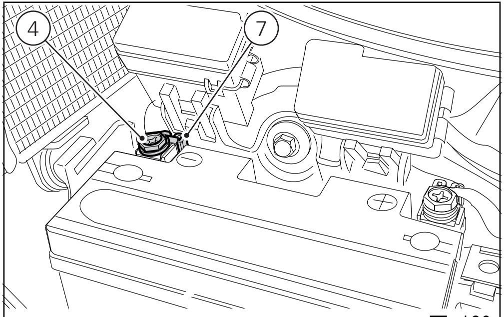


図 139

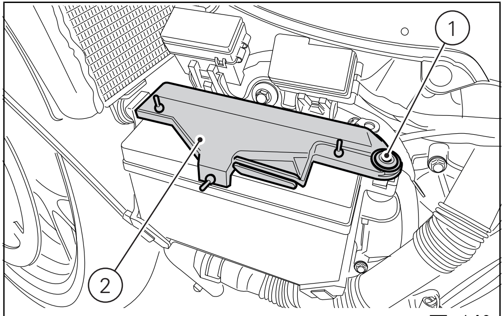


図 140

バッテリー充電および冬季の断熱

車両には所定の充電器 (2) (バッテリーメンテナーキット、部品番号 : 69924601A - 多くの国、バッテリーメンテナーキット、部品番号 : 69924601AX - 日本、中国、オーストラリアのみ) を接続することができるコネクター (1) が装備されています。充電器は当社の販売店でお求めいただけます。

参考

899 Panigale のエレクトリカルシステムはエンジン停止状態での消費電力を非常に低く抑えるよう設計されています。ただし、バッテリーは自然に放電しており、放電量は使用していない期間や環境条件によって変化します。

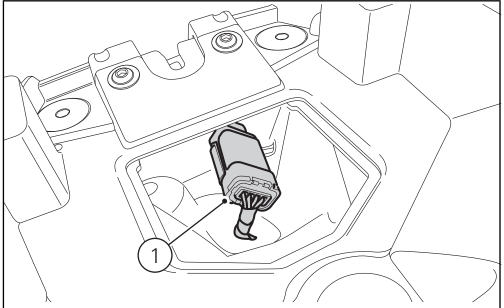


図 141

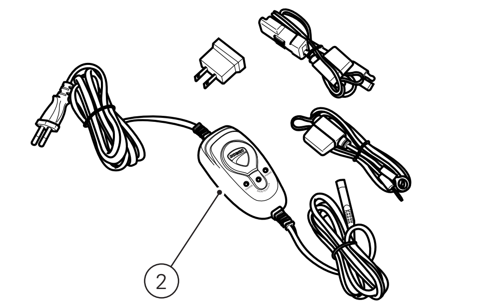


図 142

重要

所定のメンテナーを介してバッテリー電力の最低値が維持されないと、修理が不可能なバッテリーの劣化を招くサルフェーション現象が生じます。

参考

車両を使用しない期間（およそ30日以上)、Ducati バッテリーメンテナー (バッテリーメンテナーキット、部品番号：69924601A - 多くの国、バッテリーメンテナーキット、部品番号：69924601AX - 日本、中国、オーストラリアのみ）の使用をお勧めします。電力をモニターする内部エレクトロニクスが搭載されており、充電電流は最大 1.5 A/hです。メンテナーを車両後部にある診断プラグに接続します。

参考

Ducati が認可していないバッテリーメンテナーを使用すると、車両のエレクトリカルシステムに損傷を与える恐れがあります。上記の理由でバッテリーが損傷した場合には、不適切なメンテナンスとみなし保証の対象にはなりません。

トランスミッションチェーン張力の点検

重要
チェーン張力の調整は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

リアホイールを回転させ、チェーンが最も張る位置を探します。サイドスタンドで車両を支えて駐車します。チェーンの測定位置を指で下に押して放します。
チェーンピンの中心とスイングアームのアルミニウムとの間の距離（A）を測定します。値 A = 49～51 mm でなければなりません。

重要
この手順は、納車時と同じ標準設定の車両に対してのみ有効です。

重要
ドライブチェーンが張りすぎ、もしくは緩みすぎている場合は、測定値が指定の値になるように調整します。

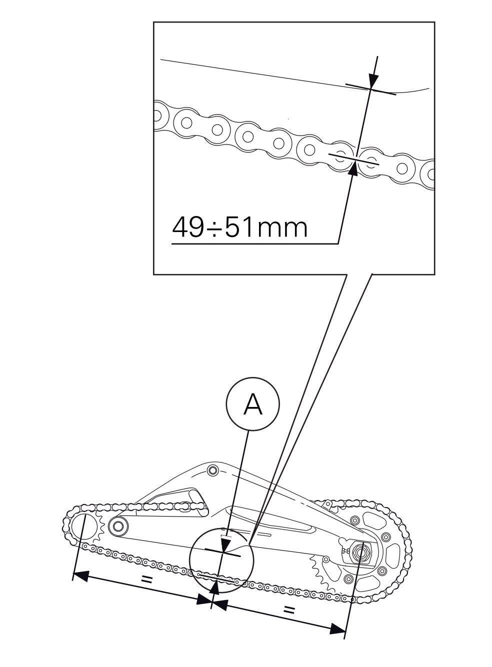


図 143

警告
安全な走行状態を維持するには、スイングアームのスクリュー（1）の正しい締め付けが重要です。

重要
チェーンの張りが不適切だとトランスミッション部品の磨耗を早めます。

スイングアーム両側の位置決めマーキングが合っていることを確認します。これにより正確なホイールアラインメントを取ることができます。

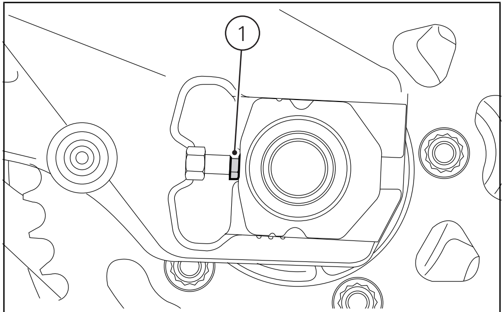


図 144

チェーンの潤滑

この車両には、泥などの侵入を防ぎ、潤滑をより保つOリングシールの付いたチェーンが装備されています。

チェーンを洗浄する場合には、シールの損傷を防止するため、専用の溶剤を使用して下さい。ウォッシャー等でスチームや圧力のかかった水で洗浄しないで下さい。

洗浄後は、コンプレッションエアーでチェーンを乾かし、SHELL Advance ChainまたはAdvance Teflon Chainで潤滑します。

⚠ **重要**

規定オイル以外を塗布すると、チェーン、フロント / リアスプロケットに損傷を与える可能性があります。

ハイ/ロービーム電球の交換

切れた電球を交換する前に、新しい電球が ページ 252 の "エレクトリカルシステム" の段落に記載されている電圧、電力と同じであることを確認してください。

取り外した部品を再度取り付ける前に、必ず新しく取り付けた電球の機能を点検してください。図にはロービーム (LO)、ハイビームランプ (HI)、LED ポジションランプ (1) の位置が示されています。

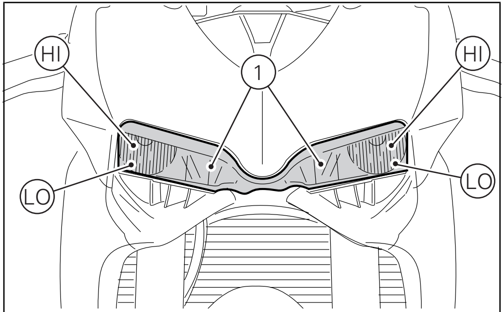


図 145

ヘッドランプ

左の電球を交換します。
ランプ上部のロックナットを反時計回りに回転させ、切れた電球を取り外します。
同じ品質の新しい電球と交換します。取り付けの際、ロックナットを時計回りに回転させ、電球を固定します。
左の電球の交換と同様の方法で右の電球を交換します。

重要

ヘッドランプの電球を交換する際、ヘッドランプ自体からメインケーブルの電線を切り離す必要はありません。

参考

レンズの部分には絶対に指で触れないでください。電球の高度が落ちる原因となります。

警告

雨天時または洗車後に車両を使用する際は、ランプレンズが曇っている場合があります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

ポジションランプ電球の交換

ポジションランプは LED 電球ですのでメンテナンスの必要はありません。

リアターンインジケーター

ターンインジケーターランプはLED電球なのでメンテナンスの必要はありません。

ヘッドランプの光軸調整

ヘッドランプの光軸をチェックするには、適切な空気圧のタイヤの車両にまたがり、車体を垂直に保ち、縦軸に対して正しい角度を保持します。車両は壁またはスクリーンから10mの距離に配置します。壁にヘッドランプの中心と同じ高さで水平に線を引き、また車体の縦軸に一致する垂直線も引きます。この作業はできれば薄暗い場所で行って下さい。ロービンランプをつけ、左右の光の強さを調整します光の照射範囲の高さが(照射された部分と明るいの部分との境界の上限)、地上からヘッドランプの中心までの高さの9/10以下でなければなりません。

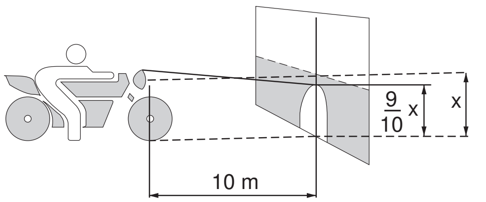


図 146

参考

この方法は、光軸の高さに関するイタリアの規則に準拠したものです。イタリア以外の国で使用する場合は、それぞれの国で法律に従い調整してください。

ヘッドランプの垂直方向の光軸調整は、車両前側にある左右のスクリュー（1）を回して行います。

警告

雨天時または洗車後に車両を使用する際は、ランプレンズが曇っている場合があります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

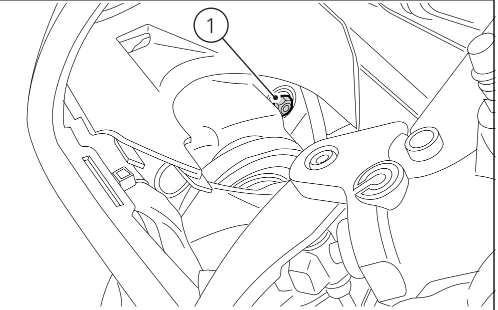


図 147

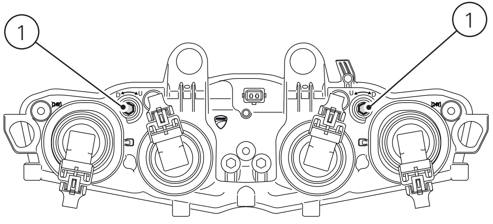


図 148

リアビューミラーの調整

(A)を手で押し、ミラーを調整します。

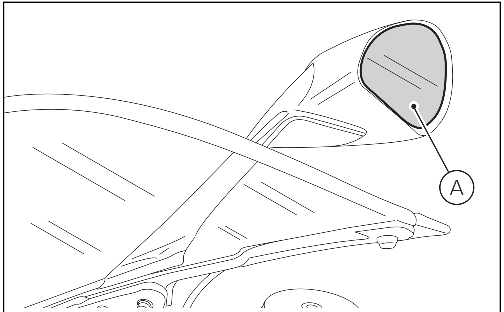


図 149

チューブレスタイヤ

公道走行時

フロントタイヤ空気圧：
2.5 bar - 2.55 Kg/cm^2
リアタイヤ空気圧：
2.5 bar - 2.55 Kg/cm^2

サーキット走行時

フロントタイヤ空気圧：
2.3 bar - 2.35 Kg/cm^2
リアタイヤ空気圧：
2.1 bar - 2.14 Kg/cm^2

タイヤの空気圧は外気温や高度によっても変化します。標高の高い場所や気温差のある場所を走行する時は、その都度点検と調整を行ってください。

重要
タイヤの空気圧はタイヤ冷間時に測定してください。フロントリムがダメージを受けないように、悪路を走行する時はタイヤの空気圧を 0.2～ 0.3 bar 上げてください。

タイヤの修理、交換（チューブレス）

タイヤに穴が開いた場合、チューブレスタイヤは空気の減り方が遅いため、気付くまでに時間がかかることがあります。タイヤの空気圧が下がってきた場合は、パンクの可能性をチェックします。

警告
パンクしたタイヤは交換してください。交換する際は、標準装備タイヤと同じメーカー、タイプを指定してください。走行中のエア漏れを防ぐため、タイヤのバルブキャップがしっかり締まっていることを確認してください。チューブタイプのタイヤは絶対に装着しないでください。突然タイヤが破裂し、ライダー、パッセンジャーに重大な危険を及ぼす恐れがあります。

タイヤ交換の後には、必ずホイールバランスの点検を行ってください。

警告
ホイールのバランスウェイトを外したり、移動させたりしないでください。

参考

タイヤの交換ではホイールを正しく着脱することが重要です。タイヤ交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。ホイールにはセンサー、フォニックホイールなどの ABS システム部品が装着されており、特別の調整が必要になります。

タイヤの摩耗限度

タイヤのトレッド面が一番摩耗している箇所(S、図 150) の溝の深さを測定します。溝の深さは 2 mm 以上でなければならず、また現地法で定めれた規定値以下であってはなりません。

重要

タイヤは定期的に点検し、特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかチェックしてください。損傷が著しい場合はタイヤを交換してください。トレッドに入り込んだ石や異物は取り除いてください。

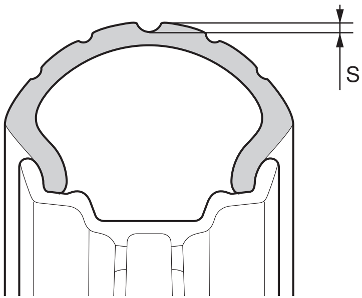


図 150

エンジンオイルレベル点検

エンジンオイルの量は、クラッチカバーにある点検窓（1）から見ることができます。レベルチェックは車体を垂直に配置し、エンジン冷間時に行ってください。オイル液面は、点検窓の横に指示された目盛の間になければなりません。オイル量が不足している場合は、エンジンオイル SHELL Advance 4T Ultraを補充してください。フィラープラグ（2）を外し、指定オイルを規定のレベルまで補充してください。プラグを取り付けます。

重要

保証書に記載されている定期点検表に従い、エンジンオイルとオイルフィルターの交換は、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

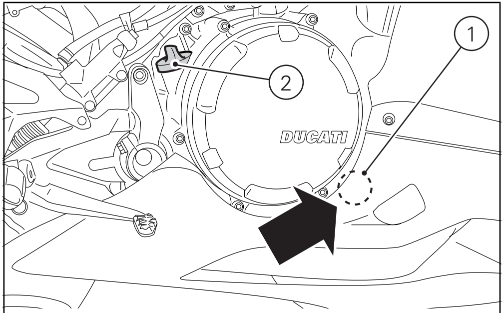


図 151

粘度

SAE 15W-50
車両を使用する環境の平均気温が規定範囲内であれば、表に記載されている以外の粘度のオイルも使用することができます。

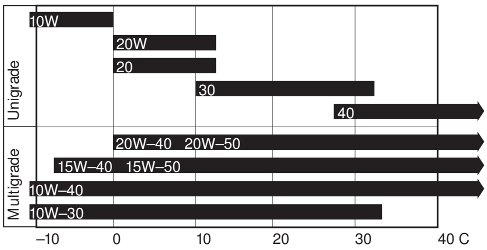


図 152

スパークプラグの清掃と交換

スパークプラグはエンジンの重要な部品ですので、定期的な点検が必要です。
スパークプラグの交換が必要な場合は、ディーラーまたはDucatiサービスセンターにご連絡下さい。

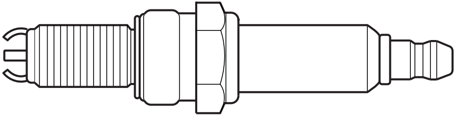


図 153

車両の清掃

塗装部分とメタリック部分の本来の艶を長期間保つため、走行する道路の状態に合わせて、車両を定期的に清掃、洗車しなければなりません。車両に損傷を与えないように、強力な洗剤や溶剤を使用せず、専用の洗剤と水を使って洗車します。
プレキシグラス部分やシートのお手入れには、水と中性洗剤をお使いください。
定期的にアルミニウム製部品を手作業で清掃してください。研磨剤や水酸化ナトリウムが含まれていないアルミニウム専用洗剤を使用してください。

参考

研磨剤付きスポンジやスチールウールは使用せず、柔らかい布のみを使用してください。

十分なメンテナンスが行われていない車両は保証の対象になりません。

重要

走行後のボディがまだ暖かい間は、水染み等を防ぐためすぐには洗車をしないで下さい。
高温や、ウォッシャー等の圧力のかかった水で洗浄しないで下さい。
ウオッシャー等の使用は、フォークやホイールベアリング、電装部分、ランプ内部の結露（くもり）、フォークシール、エアー吸入口、エキゾーストサイレンサーの磨耗や変形をもたらし、車両の安全を損ねるおそれがあります。
エンジンにひどく汚れた部分や油脂汚れなどがある時は、油取り用洗剤を使って、トランスミッション系統（チェーン、ギア、リム等）に洗剤がかからない様に洗浄します。

水道水で良くすすぎ、車体全表面部をセーム革で拭きます。

警告

洗車後は、ブレーキ能力が落ちることがあります。ブレーキディスクには絶対に、グリースやその他のいかなるオイルを付けないで下さい。ブレーキ能力が失われます。ディスクは非油性の溶剤で清掃してください。

警告
洗浄、雨、結露などにより、ヘッドランプレンズにくもりが生じることがあります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

ABSシステムが効率よく作動するように、フォニックホイールを入念に清掃してください。ホイールやセンサーをいためますので、強い洗剤、溶剤の使用は避けてください。

参考
インストルメントパネルの清掃にアルコール又はその二次製品を使用しないでください。

ビレットアルミ製の部品があるのでホイールリムの清掃には細心の注意を払ってください。車両を使用する度に清掃し水分を拭き取ってください。

長期間の保管

車両を長期間使用しない場合は、保管する前に以下の作業を行うようお薦めします。

- 車両を清掃します。
- 燃料タンクを空にします。
- 車両をスタンドに立てかけて停車します。
- 接続を切り離し、バッテリーを取り外します。バッテリーメンテナーで定期的に充電します（ページ 219 参照）。
- 結露を防止し塗装を保護するため、車体はカバーで覆います。車体カバーは Ducati Performance にて取り扱っております。

重要注意事項

国によっては(フランス、ドイツ、イギリス、ヨーロッパ、スイス等)排気ガス、騒音規制の基準を設けている場合があります。
法規に義務付けられた定期点検を行う他、規制に適さない部品がある場合は、適合するDucatiオリジナルパーツと取り替えて下さい。

メンテナンスプログラム

メンテナンスプログラム：ディーラーで行うメンテナンス

警告
このメンテナンスプログラムは 899 Panigale の公道での使用を想定しています。サーキットで使用する場合、競技でなくても車両のすべてのシステムに多大な負荷がかかりますので、定期点検をより頻繁に行う必要があります。

警告
899 Panigale を競技で使用するためのパーソナルアドバイスをお受けになられたい場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル 毎、または経過時間*) Km x1000 / マイル x1000	1 / 0.6	12 / 7.5	24 / 15	36 / 22.5	48 / 30	期間（月）
DDS 2.0 による不具合メモリー読み取り、コントロールユニットのソフトウェアバージョン更新の確認	●	●	●	●	●	12
テクニカルアップデート、リコール有無の確認	●	●	●	●	●	12
エンジンオイル、オイルフィルターの交換	●	●	●	●	●	12
エンジンオイルインテークメッシュフィルター清掃			●		●	-
バルブクリアランスの点検と調整			●		●	-
チェーンタイミングシステムの摩耗の目視点検					●	-

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル 毎、または経過時間*)	Km x1000 マイル x1000	1 0.6	12 7.5	24 15	36 22.5	48 30	期間 (月)
スパークプラグの交換				●		●	–
エアフィルターの清掃			●		●		–
エアフィルターの交換				●		●	–
クラッチカバー、クラッチプロテクションカバーを固定しているスクリューの締め付け点検			●	●	●	●	–
オイルパンを固定しているスクリューの締め付け点検				●		●	–
ブレーキ/クラッチフルードレベルの点検		●	●	●	●	●	12
ブレーキ/クラッチフルードの交換							24
ブレーキパッドの点検必要な場合は交換		●	●	●	●	●	12
ブレーキキャリパー、ブレーキディスクフランジスクリューの締め付け点検		●	●	●	●	●	12
フロント、リアホイールナットの締め付け点検		●	●	●	●	●	12
ホイールハブベアリングの点検				●		●	–
リアホイールシャフトの点検と潤滑				●		●	24
リアスプロケットのダンパーの点検				●		●	–
リアスプロケットのナット、セカンダリートランスミッションスプロケットの締め付け点検		●	●	●	●	●	12
チェーンガイドの摩耗点検		●	●	●	●	●	12

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル 毎、または経過時間*) Km x1000 マイル x1000	1 0.6	12 7.5	24 15	36 22.5	48 30	期間（月）
チェーン張力の点検と潤滑	●	●	●	●	●	12
ステアリングベアリングの点検と潤滑			●		●	24
フロントフォークオイルの交換						36
フロントフォーク、リアショックアブソーバーのシーリング部品の目視点検	●	●	●	●	●	12
サイドスタンドの作動、締め付け点検	●	●	●	●	●	12
フューエルホースの目視点検		●	●	●	●	12
フレキシブルケーブルと配線ケーブルの摩擦部分、遊び、自由な動作、ポジショニングの点検	●	●	●	●	●	12
ハンドルレバー、ペダルコマンドの潤滑		●	●	●	●	12
クーラントの交換					●	36
クーラントレベルの点検	●	●	●	●	●	12
電動ファンの作動点検	●	●	●	●	●	12
タイヤ空気圧、磨耗点検	●	●	●	●	●	12
バッテリー充電レベルの点検	●	●	●	●	●	12
アイドリング点検	●	●	●	●	●	12
セカンダリーエアシステムの機能点検			●		●	-

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル 毎、または経過時間*) Km x1000	1	12	24	36	48	**期間（月）**
マイル x1000	0.6	7.5	15	22.5	30	
電気安全装置の作動点検（サンドスタンドセンサー、フロント/リアブレーキスイッチ、エンジン停止スイッチ、ギア/ニュートラルセンサー）	●	●	●	●	●	12
ランプ、インジケーターの点検	●	●	●	●	●	12
DDS 2.0 を介したサービスインジケーターのリセット	●	●	●	●	●	12
セーフティデバイス（ABS、DTC など）のロードテスト	●	●	●	●	●	12
車両の清掃	●	●	●	●	●	12
定期点検実施の保証書への記入	●	●	●	●	●	12

メンテナンスプログラム：お客様が行うメンテナンス

メンテナンス項目/作業内容(km/マイル毎、もしくは経過時間 *) Km x1000	1
マイルx1000	0.6
月	6
エンジンオイルレベル点検	●
ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検	●
タイヤ圧、磨耗点検	●
チェーン張力の点検と潤滑。必要であれば、ディーラーにて交換して下さい。	●
ブレーキパッドの点検。必要であれば、ディーラーにて交換して下さい。	●

* 走行距離(km)又は経過月数のうち、どちらか最初の期限に達した場合に作業を実施して下さい。

テクニカルデータ

重量

車両重量（燃料 90% を含むすべての液体類を装備 –
93/93/CE ガイドラインに準拠）: 193 kg
車両重量（液体類、バッテリーを含まない）: 169 kg
最大許容重量（最大負荷）: 370 kg

警告

重量制限を遵守しない場合、操縦性と性能の低下を招き、車両のコントロールを失う原因となります。

寸法

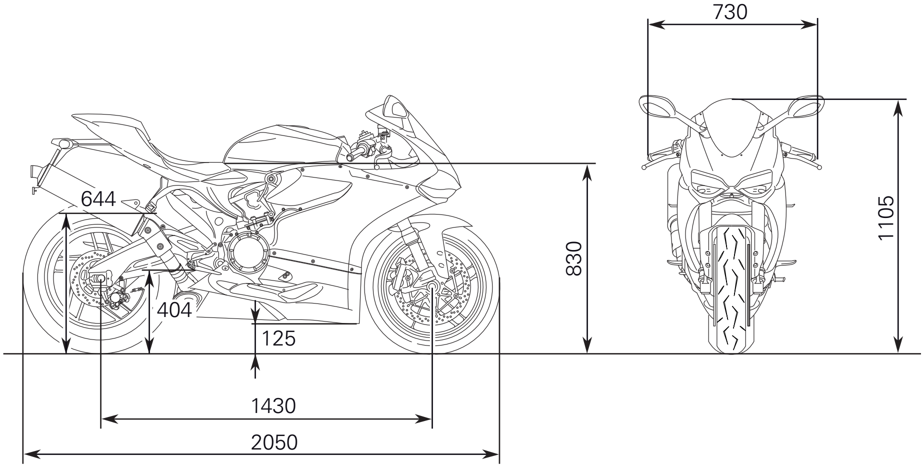


図 154

給油

補給	タイプ	
燃料タンク、リザーブ 5 リットルを含む	オクタン価 95 以上の無鉛ガソリン	17 リットル
エンジンクランクケースおよびフィルター	SHELL - Advance 4T Ultra	3.9 リットル
フロント/リアブレーキシステム、クラッチ	SHELL Advance Brake DOT 4	-
電極保護液	SHELL Advance Contact Cleaner	-
フロントフォーク	SHELL Advance Fork 7.5 または Donax TA	563 ± 2 cm^3、各レッグ
クーラントシステム	不凍液 ENI Agip Permanent Spezial（薄めずに使用します）	2.3 リットル

重要

燃料、潤滑液等には絶対に添加剤を加えないでくださいこうした燃料を使用すると、エンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。

警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料（E10）のみ使用することができます。
エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

エンジン

4 ストローク 90° ″L″ 型 2 気筒、低タンクダイキャストクランクケース

ボア mm：100

ストローク mm：57.2

総排気量、cm^3：898

圧縮比：12.5:1 ± 0.5

タイミングシステム

チェーンおよびスプロケット駆動ダブルオーバーヘッドカムシャフト、シリンダーごとに 4 バルブ、デスモドロミックシステム

デスモドロミックタイミングシステム

1) オープニング（アッパー）ロッカーアーム
2) オープニングロッカーシム
3) クロージング（ロア）ロッカーシム
4) ロッカーアームリターンスプリング
5) クロージング（ロア）ロッカーアーム
6) カムシャフト
7) バルブ

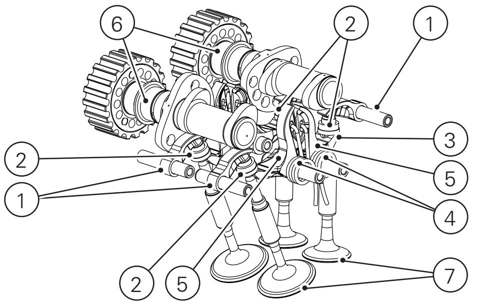


図 155

性能データ

各ギアにおける最高速度は、決められた慣らし期間を正しく行い、適切な規定点検整備を受けた場合にのみ出すことができるようになります。

重要

これは保証の必須条件で、この条件が守られなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮について、Ducatiモーターホールディング社はいかなる責任を負うものではありません。

スパークプラグ

メーカー：
NGK
タイプ：
MAR9A-J

燃料供給

MITSUBISHI 製間接式エレクトロニックインジェクションシステム
楕円スロットルボディ（相当径）：
62 mm
インジェクター（各シリンダー）：1
インジェクター孔数：12
ガソリン燃料：95-98 RON

警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料（E10）のみ使用することができます。
エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

ブレーキ

各ブレーキのアンチロックシステムは、両タイヤに装備されたホール効果センサーで制御されます。ABSの解除が可能です。

フロント
穴付きセミフローティングダブルディスク
ブレーキシュー材質：ステンレス
ハウジング材質：アルミニウム
ハウジングカラー：ブラック
ディスク径：320 mm
右側ハンドルレバーによる油圧コントロール
ブレーキキャリパーメーカー：BREMBO
タイプ：M4.32b
ブレーキパッド材質：TT2182FF
ポンプタイプ：PR18/21

リア

穴付き固定ディスク、スチール製
ディスク径：245 mm
車体右側ペダルによる油圧コントロール
メーカー：BREMBO
タイプ：P34e（Ø 34 ピストン付きキャリパー）
ブレーキパッド材質：FERIT I/D 450 FF
ポンプタイプ：PS 13

警告
ブレーキフルードは腐食性です。
万一目に入ったり肌に触れたりした場合は、流水でしっかりと洗い流してください。

トランスミッション
湿式クラッチ、左ハンドルレバーによる操作
エンジンとギアボックスメインシャフト間の駆動伝達：
エンジンスプロケット/クラッチスプロケット比：30/53
6 速コンスタントギア、車体左側ペダルによる操作

ギアスプロケット/リアスプロケット比：15/44
変速比：
1速 15/37
2速 16/30
3速 18/27
4速 20/25
5速 22/24
6速 24/23

チェーンによるギアボックスとリアホイール間の駆動伝達：
メーカー、モデル：REGINA 520 ZRDK
リンク数：106

重要
上記のギア比は認可時の値ですので、いかなることがあっても変更してはいけません。

この車両を競技用に仕様変更を望まれるお客様に、Ducati モーターホールディング社から特別なギア比に関する情報を提供することが可能です。Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

警告
リアスプロケットの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。
この部品の誤った交換は、ライダーおよびパッセンジャーの安全に深刻な危険をもたらし、車両に修復不能な損傷を与える恐れがあります。

フレーム
アルミニウム合金鋳造モノコックフレーム
スチールパイプトレリスチューブラーリアサブフレーム
キャスター角：24°　50'
ステアリングアングル：左 27°　/右 27°
トレール：100 mm

ホイール
フロント
5 本スポーク軽合金鍛造リム
サイズ：MT3.50x17"

リア
5 本スポーク軽合金鍛造リム
サイズ：MT5.50x17"

タイヤ
フロント
"チューブレス"ラジアルタイヤ
サイズ：120/70

リア
"チューブレス"ラジアルタイヤ
サイズ：180/60

サスペンション
フロント
スプリングプリロード、リバウンド/コンプレッションの外部調整システム付き油圧式倒立フォーク
スタンションチューブ径：
TIN加工 43 mm
ホイールトラベル：
120 mm

リア
ショックアブソーバーは、リバウンド/コンプレッションダンピング、スプリングプリロードの調整が可能です。
ショックアブソーバーはエンジンクランクケースに対しては前部に、ロッカーアームに対しては後部に支点があります。
フォークはエンジンを通るピボットシャフトの周りを回転します。このシステムは車両に高い安定性をもたらします。
ホイールトラベル：
130 mm

エキゾーストシステム
ダクトレイアウト　"2 in 1 in 2"。
ステンレス製サイレンーサー2つ及びアルミニウム合金製アウタージャケット。
ラムダセンサー2つ、触媒2つ。

カラーバリエーション

Ducati アニバーサリーレッド 部品番号：473.101
(PPG)
ベース（アクリフレックス ホワイト)、部品番号：
LMC06017 (LECHLER)
マットブラック 4 グロスサブフレーム
グレーモノコックフレーム、ブラックホイール

アークティック ホワイトシルク
ベース（デュアルプライマー アーティックホワイト)、部品番号： L2920057 (LECHLER)
ベース（ドゥカティパールホワイト SF)、部品番号：
L2909004 (LECHLER)
クリアー 部品番号：96598 (LECHLER)
マットブラック 4 グロスサブフレーム
グレーモノコックフレーム、レッドホイール

エレクトリカルシステム

主要構成部品は以下の通りです。
ヘッドライトタイプ：
H11 12V 55W 電球（ロービーム） 2 個
H11 12V 55W 電球（ハイビーム） 2 個
パーキングランプタイプ：
LED Seoul STW8Q14B 8 個
テールライトタイプ：
LED REBEL LXM2-PH01-0060 2個
LED ストップランプタイプ：
LED LA G6SP-CBEA-24-1 8個
LED ナンバープレートランプタイプ：
LED CREE CLA1A-WKW-CXAYB453 3個
ハンドル上スイッチ
LED フロントターンインジケーター：LED 15 個
LED リアターンインジケータータイプ：LED OSRAM LYE65F 4 個
リアターンインジケータータイプ（USA）：R10W（12V-10W）オレンジ色
警告ホーン
ストップランプスイッチ
バッテリー12 V - 6.5 AH 密閉タイプ
システム電圧 12 V
ジェネレーター 14V-510W

電子レギュレーターは 30A ヒューズで保護されています。バッテリー（C, 図 158）下のスターターコンタクター上に配置されています。
スターターモーター 12V-0.6kW
ナンバープレートホルダーランプ：LED

参考

電球の交換は、″ハイ/ロービーム電球の交換″を参照してください。

ヒューズ

電装品の保護ヒューズはフロントヒューズボックス内に 12 個、スターターコンタクター上に 1 個あります。各ヒューズボックス内には予備ヒューズが 1 個あります。
ヒューズが保護する装置、アンペア値については表を参照してください。
左フロントヒューズボックス (A、 図 156) および右フロントヒューズボックス (B、 図 157) は、バッテリー上に配置されています。
ヒューズの作業をするには左フェアリングを取り外します (ページ 209)。
ヒューズを交換するには、各ヒューズの配置と定格が表記された保護カバーを外します。

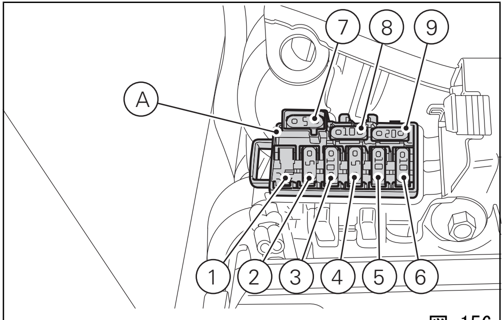


図 156

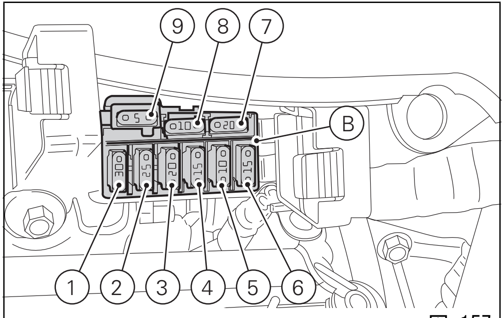


図 157

左フロントヒューズボックス凡例		
配置	保護装置	容量
1	-	-
2	GPS	5 A
3	Key-sense	10 A
4	診断	5 A
5	スロットルオープンリレー (ETV)	10 A
6	インストルメントパネル	10 A
7	スペア	5 A
8	スペア	10 A
9	スペア	20 A

右フロントヒューズボックス凡例		
配置	保護装置	容量
1	ABS 1	30 A
2	ABS 2	25 A
3	インジェクションリレー	20 A
4	ランプ	15 A
5	エンジンコントロールユニット	10 A
6	Black Boxシステム (BBS)	15 A
7	スペア	20 A
8	スペア	10 A
9	スペア	5 A

メインヒューズの作業をおこなうには、左フェアリングを取り外します（ページ 209）。
メインヒューズ（C, 図 158）は、スターターコンタクター（D, 図 158）上、バッテリーの近くに位置しています。交換の際は保護キャップ（E, 図 158）を取り外してください。切れたヒューズは、インナーフィラメント（F, 図 159）が溶断しているかどうかで確認することができます。

重要

回路のショートを防止するために、ヒューズ交換の前にイグニッションキーを OFF にしてください。

警告

表示されている規定以外のヒューズは決して使用しないでください。上記事項を守らなかった場合、エレクトリカルシステムの損傷や火災を引き起こす起これがあります。

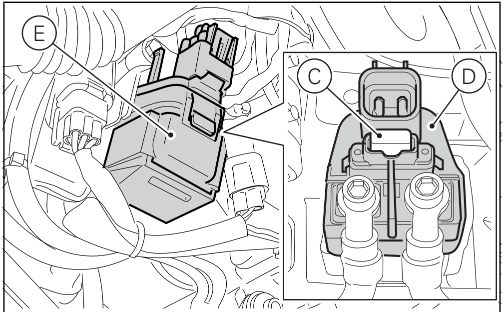


図 158

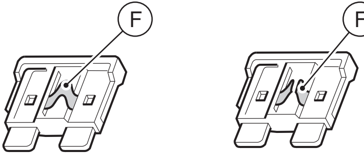


図 159

インジェクション/エレクトリカルシステム配線図凡例

1)　右側スイッチ
2)　E-Lock コントロールユニット
3)　E-Lock リレー
4)　ヒューズボックス 1
5)　ヒューズボックス 2
6)　エンジンコントロールユニット
7)　APS センサー
8)　スターターモーター
9)　ヒューズコンタクター
10)　バッテリー
11)　エンジンアース
12)　レギュレーター
13)　ジェネレーター
14)　右リアターンインジケーター
15)　テールライト
16)　左リアターンインジケーター
17)　ナンバープレートランプ
18)　診断コネクター
19)　車両コントロールユニット(BBS)
20)　EX-UP モーター
21)　ギアセンサー
22)　リアスピードセンサー
23)　フロントスピードセンサー
24)　フューエルポンプ
25)　燃料レベル
26)　ホリゾンタルコイル
27)　バーチカルコイル
28)　エンジン回転数/タイミグセンサー
29)　バーチカルラムダセンサー
30)　ホリゾンタルラムダセンサー
31)　クイックシフト
32)　サイドスタンドスイッチ
33)　オイル圧センサー
34)　リアストップスイッチ
35)　クラッチスイッチ
36)　フロントストップスイッチ
37)　フューエルポンプリレー
38)　バーチカル ETV リレー
39)　ホリゾンタル ETV リレー
40)　バーチカル MAP センサー
41)　ホリゾンタル MAP センサー
42)　クーラント温度センサー
43)　気温センサー
44)　ホリゾンタル TPS
45)　バーチカル TPS
46)　ホリゾンタルメインインジェクター
47)　バーチカルメインインジェクター
48)　ホリゾンタル ETV モーター
49)　バーチカル ETV モーター

50)　セカンダリーエアアクチュエーター
51)　ABS コントロールユニット
52)　左側スイッチ
53)　警告ホーン
54)　GPS
55)　左フロントターンインジケーター
56)　インストルメントパネル
57)　左ハイビームランプ
58)　左ロービームランプ
59)　ポジションランプ
60)　右ロービームランプ
61)　右ハイビームランプ
62)　右フロントターンインジケーター
63)　ロービームランプリレー
64)　ハイビームランプリレー
65)　ファン

配線カラー表

B 青
W 白
V 紫
Bk 黒
Y 黄
R 赤
Lb ライトブルー
Gr グレー
G 緑
Bn 茶
O オレンジ
P ピンク

参考

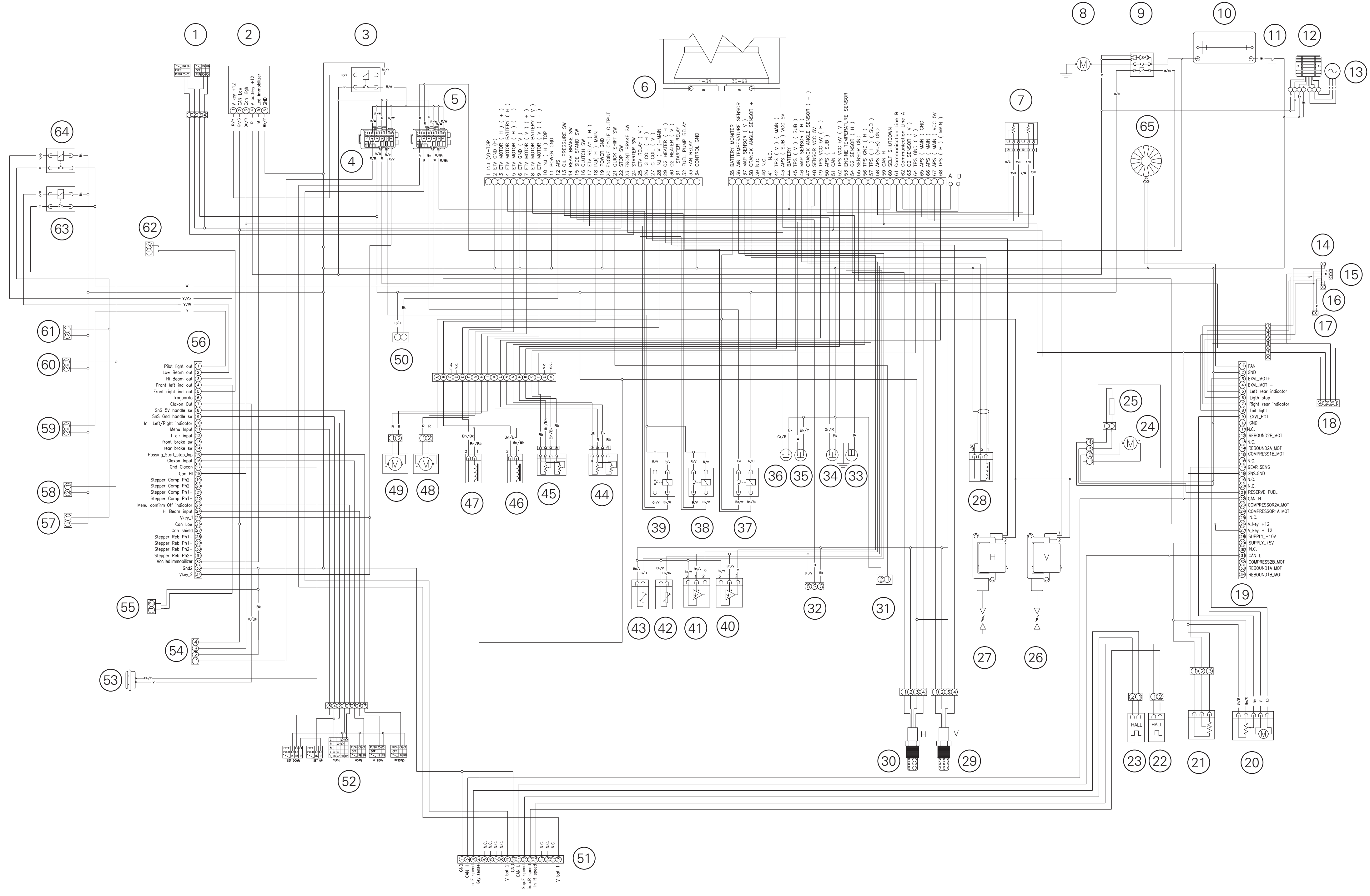
配線図はマニュアルの最後部にあります。

定期点検メモ

定期点検メモ

km	名前 ドゥカティ・サービス	走行距離	実施日
1000			
12000			
24000			
36000			
48000			
60000			

Stampato 09/2013 Cod. 913.7.247.1B



899 Panigale

cod. 913.7.247.1B

Ducati Motor Holding spa
www.ducati.com

Via Cavalieri Ducati, 3
40132 Bologna, Italia
Tel. +39 051 6413111
Fax +39 051 406580

A Sole Shareholder Company
An Audi Group Company